現在支那文壇の作家達は「創造社」「文學研究會」から出て來た作家が多いが、あの時代の作家で姿を消した人も尠くない。

郭沫若は、陸軍少將か何かだが、日本に來て今は金石文字の研究をやつてゐる。張資平は通俗作家として支那の菊池寛と云はれてゐる。成仿吾は創造社の幹部だつたが文筆を拋つて實際運動に奔つてしまつた。この派で現在活躍してゐるのは、郁達夫、鄭伯奇の二人だけになつてしまつた。

郁達夫には「寒灰」「鷄肋」「過去」「奇零」「敝帚」等の傑作があり、誠實な人生作家として健實な存在を示してゐる。鄭伯奇は諷刺的な作家であるが、郭沫若ほど秀れた素質を有たないやうである。

文學研究會派には、茅盾をはじめ活動してゐる者が多い。「春蠶」「子夜」等は詩情に乏しいが、茅盾のリアリズム作家としての貫祿を示すものだ。鄭振鐸は作家として失敗したが、ジャーナリストとしては成功した。

喧嘩好きの文化人魯迅は死んだ。彼は作家としては「阿Q正傳」のやうな妙なものを書いたに

過ぎないが、外國文化の紹介者として、又國内文化批判に正しい示標を與へた人として記錄されるべきであらう。

その他の人々　小品文派に、魯迅の弟周作人、言語學者の林語堂等がゐる。彼等は上海を中心とする小說黨に對立して、北京に一派を形成してゐるのである。

張天翼は、恐ろしく無神經な濫作家だ。日本で云へば三上於菟吉、村松梢風、故人の牧逸馬と云つたところだらう。これに反して良心的な作家に「文季月刊」の巴金、勒以等がゐる。巴金はフランス歸りの新人で、ニヒルな匂の高い作品を發表してゐる。

風變なり作家に沈從文、老舍、老向がゐる。老舍の「牛天賜傳」老向の「庶務日記」等のユーモア小說には、深い思想的根抵があつて、日本のゲラゲラユーモア文學よりは、遙かに深いものを有つてゐると云はれてゐる。沈從文は中世的な牧歌的情緒を有つてゐる。

中國のショロホフと云はれる蕭軍は、ロシア文學――それもソヴエト風な烈しさをもつた作家であつて、今後を期待されてゐる。「第三代」「同行者」等は彼の代表作で、魯迅が求めてゐた條件に、ぴつたり合つた作家だと云へるだらう。

歐陽山は、蕭軍に比して稍小規模だが、將來性に於て彼と併立してゐる作家である。ニヒルに似て、底に哲學のあるどん底社會人を描くに特異な力倆を示してゐる。

女流作家の逸材冰心も「水」「母親」等の傑作を書いた丁玲も非常に衰へた。これ等にとつて代る女流はまだ現れてゐない。

演劇に於ける革新運動　支那の固有の演劇は、日本の能樂に似たもので、歌劇や歌舞伎よりはずつと原始的なものである。然し支那では極近年まで、この古典演劇が、演劇の正統として重んじられて來たのである。

その支那劇は、セーキスピヤ劇のやうに、劇の中で凡ての事件や人物を説明せずに、希臘古典劇の如く、觀客がその史實なり傳説なりを豫め承知してゐるものとして、その事件のある凸起面だけを演じて見せるものである。從つてその内容は、古い道義觀で固められた儘、百年經つても變らないし、その演出方法は、從來の型や發聲法を繼承して行くだけであつて、少しも發展がない。

然しそれに滿足できない時代が來た。梅蘭芳等に心醉してゐられない時代が來た。新興氣分に

燃える大都市の觀客たちは、あの現代離れのした幼稚な演劇に滿足しなくなつた。その結果、先年から新劇の運動が起つてゐる。これは、主として日本に留學した學生達に依つて輸入されたものである。

田漢はその主な指導者の一人で、彼は一方で「暴風雨の中の七人の女性」のやうな脚本を書いた。尤も最近は洪深と共に、映畫脚本を主として書いてゐる。洪深には三部作「五奎橋」の作がある。

李健吾は中堅劇作家として、有望視されてゐる。「雷雨」で賣出した曹禺は、ギリシヤ劇研究の學者だけに、ガッチリした構成力にすぐれたものを有つてゐる。

「雷雨」は父子相姦を因子とする運命悲劇であるが、一九三六年に發表した「日の出」は生活環境から一女性の悲劇の生れる經過を描いて、その運命觀へ一歩を進めてゐる。

工藝美術の傳統　江南の漁夫や百姓の穿いてゐる袴の上部に、美しいひだを附けて、唐草模樣が浮出してゐたり、船頭の腰に下つた小袋に、刺繍で白く「柴門君がために始めて開く」等の佳句があつたり、實に思ひがけないところまで、支那の工藝は大衆化してゐるのであるが、然し資

本主義の發達と共に、これらの工藝美術の傳統を守つてゐる手工業は、漸次衰退しやうとしてゐる。

オリエンタルの匂高い支那の工藝、美術も今では形骸を殘してゐるだけで、名人達人の作品といふやうなものは、古い時代に遡らなければ見られなくなつてしまつた。

古い禪寺、古塔、靈廟、客殿の建築には、實に美しいものがある。また古美術の方では、夏殷周三代の古銅器、鐘、鼎、彝器の珍寶から、漢の白銅鏡、六朝の海獸葡萄鏡などがあり、あるひは漢代を下らぬ枯色蒼然たる博山爐のあたりの絶品から、吉祥双魚圖の洗盤の類に、半兩の文字ある古泉から泉范、刀布の古玩、銀象嵌の帶鈎に、虎符の優品など、さういふ古美術鑑賞家の垂涎して已まないものが、實に夥しく名流の陳列室に蒐集されてゐるのである。出土品もあれば傳來品もあるが、兎に角、こんなに古い時代の名器を有つた國は世界中どこにもない。

また、漢以後、六朝、隋、唐にかけての洛陽出土と稱せられる土偶、明器、馬狗の類から、漢の瓦當、瓦塼、唐三彩の平瓷、大皿、以下ツオンッの宋窯に、均窯、呂均窯、窯變、鐵砂、辰砂などから、珍らしい染付では明萬曆から、康熙、雍正、乾隆あたりへかけての名陶が多い。彫刻

では玉の香爐、瑪瑙の置物、白檀の細刻等が、よく名家の紫檀の机の上に飾られてある。

書畫の方では、漢磚の古拓、壙煌石室の寫經、歐陽詢、顏眞卿、米芾、王鐸、張瑞圖、趙之謙等が愛されてゐる。畫は夏桂、馬遠に四王、沈石田、石濤をはじめ、日本美術の本家だけに、南北兩宋の名家の遺したものが尠くない。然し斯うして長い傳統を有ち、多數の名器、名作、名筆を有つてゐるのに反して、現代の製陶、書、畫には眞に創造的な名人といふものは見當らない。

伸びゆく日本

【國勢篇】

建國精神

建國の理想　近世史上の一大驚異たる躍進日本の發展過程を考察するに、そこに種々なる原因を發見するが、先づ第一に國家組織が各國の夫等と大ひに異つてゐるといふことを擧げなくてはならぬ。

然らば我國體の建國精神は何處にあるかと言ふに、即ち天孫の降臨に際して天照大神の下し賜へる勅の中に

『豐葦原千五百秋の瑞穗の國は、我が子孫の王たるべき地なり、汝皇孫ゆいて治めよ、寶祚の榮

えまさんこと天壤と共にきはまりなかるべし』

と仰せられてゐるが、これこそ我が國體の定まるところであつて、萬世一系の天皇を國主に戴くことは、茲に永久に定められたのである。

建國の大精神は實にこの萬世一系の天皇を戴くといふことに在る。そして之は建國以來の一貫せる理想で、この後と雖も永久に變りはないのである。國史を見るに、中世以後武家が勃興するに從つて、武家政治なるものが出現して、一時天下の政は武家の掌中に歸した如き變態的狀態を呈したが、實は天下の大權は依然として天皇が統べられたのであつた。

彼らは將軍とか太閤とか言つて、一時天下の大權を握つた如く見えたが、事實は天皇の御命に依つて直接政治の代行機關となつたに過ぎないのである。その證據には、將軍に就任するには、一々天皇より征夷大將軍の名を賜ふたのでもよく判らう。言はゞ現今の內閣總理大臣と同樣の權限を有したのである。

而して天皇こそは皇室の家長で在すと共に、國家の家長で在すのである。そこに君臣同祖の事實を見、又この事實は忠孝一本の思想を生み出す源である。

天皇神聖　人類は國家生活を行ふ上に、何らかの形でその全體を率ゐる最高の代表者を要するが、單に法律や官吏のみであればよいといふ譯に行かない。我國に於ける天皇は、この國家生活に缺く可からざる統治者にして、國民全體の生活統一の代表者にして凡ゆる資格を具備せられた君主であつて、一個々々の君主が聰明なる爲に善政を布くといふよりは、道統即ち、道の遺傳が血統の中に織り込まれた先天的統治者である。

而して、西洋各國の君主國に於ても皇帝神聖を憲法上に規定されてあるが、これは我國の天皇神聖とは大いに異つてゐる。即ち日本の天皇神聖といふのは、次の如き意味を持つてゐるのである。

『天照大神の身心相承の當位者としての天皇を神聖なりとするのである。即ち一般的に論じ得る君主神聖ではない。道統即ち血統の久遠常住なる連綿不可分の天皇なる故に神聖なのである。天皇神聖は憲法によつて始めて釋明されたことではなく、古から皇室に傳つてゐる御自覺であると共に、又古から國民精神として傳承された民族的信仰であり又安心の根元である』

その天皇神聖の精神こそは又、日本國民の持つ精神中、最も大ひにして強いもので、又我建國

の大精神より發したものである。

以上を諸外國の君臣關係に比較して見ると、そこに甚しい相違を見る。例へば支那に於ては天は民を生み、これを統治せしめる爲に君を立てるとした。

即ち民が先で君が後なのである。而も君を以て國家の機關としてゐる。かゝる國家は支那のみに止らず、かつてのフランスの如く、ロシアの如く、何れもかゝる思想から大革命が起つたのである。

之に反して日本人の天皇に對する精神は全然異ふ。天皇に對して「すめらみこと」と尊び、眞善美の誠の御方と尊崇し、又明津神、現人神などゝ申して、絶對に神聖なる神として敬ひ、而して君を見ること慈父の如く、君の民を愛すること愛兒の如く、君民協力一致、以て內憂外患を克服して、今日の國運隆昌たる新日本を示現したのである。

苟くも今日の躍進日本を檢討せんとする以上、先づ光輝ある建國の精神を十分に理解しておく必要がある。

政治

王政復古の精神　今日の躍進日本を語るには、先づそのスタートとして、明治維新より說き起さなくてはなるまい。言ふ迄もなく、尊王抑幕思想の擡頭したのは、大義名分論に萌すもので、この大義名分論は、德川氏が新田氏の後裔だと云ふ關係もあつて、好んで太平記等が讀まれ之が南朝回顧の思想を生んだのであつた。

又一方、德川光圀が大日本史を編纂し、山鹿素行や山崎闇齋等の學派が相亞いで起り、大義名分論は次第に喧しくなつた。勿論この時代は只學說として唱へられたにすぎなかつたが、竹內式部や山縣大貳等の直接行動家が出るに及んで、ハツキリ尊王抑幕の思想となつて全國に蔓延するに至つた。

而も、これに拍車をかけたのが、幕府の內治外交の失敗で、剩へ勅命によらずして米國と和親條約を締結するや、俄然幕府に對する非難は轟然として揚つた。それと見た時の反動政治家井伊大老はかの有名な安政の大獄の大彈壓を加へたが、夫は自ら幕府の命脈を縮めるにすぎなかつ

た。

世は滔々として王政復古の氣運となり、山內容堂は王政復古の建白書を幕府に呈し、將軍慶喜は形勢非なりと見て、慶應三年十月十四日遂に大政を奉還、政權は武門に移つて、源頼朝が鎌倉幕府を開いてから六百七十六年にして、古の如く天皇の御親政に復したのである。

ところで當時の重臣達には、一體王政復古とは何を標準にして、どうやつて行くのかハツキリ分らなかつた。たゞ岩倉具視が神武天皇の御創業に溯らなければならぬ位に漠然と考へてゐたのにすぎなかつた。そこで取敢へず十二月九日、新政府の第一回の會議、所謂有名な小御所會議が開かれて、席上大に議論沸騰した後、王政復古の大號令が發せられた。

越えて明治元年三月十四日にはかの有名な五ヶ條の御誓文が發せられて、六百年の長い間の武家政治に馴らされた國民に、初めてその處すべき途を明らかに示された。

一、廣く會議を興し萬機公論に決すべし
一、上下心を一にして盛んに經綸を行ふべし
一、官武一途庶民に至るまで各々其志を遂げ人心を倦まざらしめん事を要す

一、舊來の陋習を破り天地の公道に基くべし
一、智識を世界に求め大に皇基を振基すべし
この五ケ條の御誓文こそ、昭和日本の今日なほ不朽の國家指導原理にして仰がれつゝあるところのものである。

政治機構の確立

明治維新から國會開設に至る迄は、內治整備時代と言ふ可きで、門戸開放と共に急激な勢ひで外來文明が浸入し、「文明開化」を謳歌する一方、頑固な保守主義者が之に反抗した。これら新舊の衝突はあらゆる形となつて國內到るところに渦を卷いた。先つ、版籍奉還に不平を起して各地に暴動暗殺が行はれた。

即ち大村益次郎、廣澤參議の暗殺、山口の反亂、雲井龍雄の謀反等々である。次に國民が漸く對外意識に目ざめると、征韓論が起つて、西鄕一味の下野、續いて西南戰爭、佐賀の亂、神風連の亂、萩の亂が勃發した。

この間に國民は急激に政治的自覺に目覺め、明治七年由利公正外七名によつて、民選議院設立の建白書が提出された。が、時期尙早の理由でそれは暗から暗へ葬られてしまつたが、明治十三

年に至つて、板垣退助の首唱で、我國初めての政黨、自由黨の團結が成つて、民選議院開會の猛運動を起した。

かくて國會開設の輿論はいよ〳〵熾んになつたので、政府も漸く覺るところあつて、遂に明治十四年十月十二日國會開會の詔勅は降下した。大隈重信はこの時、立憲改進黨を結び、板垣の自由黨に對立した。兩黨の抗爭は大に激化して、板垣伯が岐阜で遭難したのも此の時の事であつた。

政府は國會の開設と共に、諸般の政治機構を確立し、太政官を廢し、明治十八年には立憲政治の基を立てる爲めに內閣を制定、第一次の內閣として左の顏ぶれを任命した。

總理大臣（伊藤博文）外務大臣（井上馨）內務大臣（山縣有朋）大藏大臣（松方正義）陸軍大臣（大山巖）海軍大臣（西鄕從道）司法大臣（山田顯義）文部大臣（森有禮）農商務大臣（谷干城）遞信大臣（榎本武揚）

これより先伊藤博文は天皇御親裁の下に憲法草案を討議中であつたが、漸くにして大日本憲法の定成を見るに至つたので、明治二十二年二月十一日の紀元節を卜して、萬民歡呼の中に千載不

磨の大典、大日本帝國憲法發布の大典を擧げさせられた。

同時に地方自治制も發布せられて、こゝに王政復古成つてより僅々二十餘年にして、近代國家としての日本は新態樣を整へたのであつた。

かくて二十三年七月第一回衆議院總選擧を行ひ、十二月二十五日、第一回帝國議會は召集され御誓文の萬機を公論に決する御趣旨は全く茲に實現され、萬世に搖ぎなき立憲政體を確立した。

政黨と普選　爾後內閣を組織したのは大隈、松方、伊藤等の所謂元勳內閣であつたが、第十二議會の解散するや、板垣と大隈は舊怨をすてゝ提携して隈板聯立內閣を組織したが、これ我國始めての政黨內閣の出現である。

この事は伊藤に大なる恐怖感を與へ、自身政黨を組織すべく運動し、遂に明治三十三年九月十五日立憲政友會を組織した。が、間もなく伊藤は政黨の首領が元老を兼ねることの不可なる事を覺り、遂に政友會の黨首を辭して樞府に入り、直參派たる西園寺公望を後繼總裁たらしめた。晩年の伊藤は專ら韓國統治に力を竭した。日韓合併の成立もその大半は伊藤の功に歸すべきである。

かくて時代は大正に入る。

大正二年には、桂內閣に對する不信任から、護憲運動が燎原の火の如く擴がり、尾崎、犬養は護憲の神と讃へられた。

この爲に遂に桂は內閣を投出し、今後內閣を組織するには政黨に基礎を置かねばならぬと痛感し、同志會（後の憲政會）を組織し、黨員九十三名を擁へたが、その年十月桂は急歿し、加藤高明が後繼總裁となつた。この間山本權兵衛が內閣を組織して、着々として政務の刷新に努めたが、大正三年一月議會開會中、偶々獨逸側から洩れて、我が海軍未曾有の不祥事たる海軍々人の收賄事件、所謂シーメンス事件の眞相が暴露し、この爲に山本內閣は遂に瓦壞した。

普選案の初めて提出されたのは第四十二議會であつたが、政友會は之に反對し、原首相は多數の與黨を以て之を葬つた。

皮肉にもその原首相が、十年十一月四日東京驛頭、中岡艮一の兇刄に倒れた三年後の第五十議會に於て遂に兩院を通過し、昭和三年一月二十日、第五十四議會の解散せらるゝや、茲に我國初めての普選總選擧が行はれた。

立候補者は定員の二倍以上に達し、白熱戰を演じたが、開票の結果は朝野兩黨の差たつた二票といふ際どい大接戰であつた。この時初めて無產階級を代表して立つた無產黨は、期待に反して僅か八名にすぎなかつた。

昭和政界の鳥瞰　昭和に入るや若槻首相及び田中、床次兩黨首が會合して「新帝新政の初めに當り、お互ひに政治の公明を望むを以て今後は各自黨を戒飾して言論を慎み、益々國民の議會に對する信賴を厚くする事に努力すべし」といふ覺書を作つて妥協して政變を避けたが、その效もなく若槻內閣は、臺灣銀行救濟案が樞府で否決された爲に四月十七日總辭職をした。次には田中に內閣が廻つたが、昭和三年滿洲某重大事件の奏上に關し陸軍と疎隔を來し、遂に之又總辭職を行つた。

次の濱口內閣は金解禁と緊縮政策によつて財界の不況を救匡せんとしたが、幾干もなくして昭和五年十一月十四日、東京驛にて一兇漢の狙擊に逢ひ、外相幣原喜重郎が首相代理となつた。この問題から黨內には抗爭が生じ、遂に安達謙藏は脫黨した。濱口の歿後若槻が總裁となつて內閣を組織したが、議會中「ロンドン條約は御批准になつてゐる。御批准になつてゐるといふ事實を

以て、この條約が國防を危くするものでないことは明かである」と失言し、見事總理大臣の試驗に落第、遂に內閣を投げ出した。

大勢は憲政常道論によつて政友會の犬養に下つた。然し、國民は大義名分を忘れて、政權の盥廻しをことゝし、政商と結托して國政を壟斷する政黨といふものに對して、この頃から次第に認識を新たにするやうになつた。

果然！　それは昭和維新の革新を目さす、血盟團及び兵農共力のテロたる五・一五事件となつて帝都を震撼させた。犬養を失つた政友會では鈴木喜三郎を總裁として組閣の大命降下を首を長くして待つた。

民政黨でも同樣であつた。例によつて西園寺公は御下問に奉答すべく上京したが、時局が重大丈に重臣達を一々招いて愼重に考慮し、遂に多年の「憲政常道主義」を捨てゝ、齋藤實をして擧國一致超黨內閣の首班として奏薦した。が、結局は寄合世帶丈に兎角閣內の調和を缺き、閣員の入替へを數度行つたのみで、成す事もなく昭和九年七月三日內閣を拋り出した。次には憲政常道に復すと思ひの外、大命は又々海軍大將岡田啓介に下つた。政友會は閣員を入れぬと拒んだが

政府では床次、内田、山崎を引つこ抜いた。政友會ではカン〳〵に怒つて、三人の裏切者を除名した。

問題となつたのは、床次の五十萬元事件、天皇機關說問題等であつた。この間、右翼的の底流は刻々昂まりつゝあつたが、一部急進派青年將校を中心として突如昭和十一年二月二十六日帝都に於てクーデターが敢行され、高橋是清、齋藤實、渡邊錠太郎の三重臣は射殺され、鈴木侍從長は傷つき、牧野伸顯、岡田首相は危く難を逃れた。將に前代末聞の大事件として一世を震撼させた。

かくて再び西園寺老公の登場となり、熟慮數日、近衞公を推したが辭退、遂に前外相廣田弘毅の奏請を見るに至り、憲政常道はいよ〳〵遠い夢となり、政黨落日の俤は益々濃くなりつゝある。

外交

讓歩と屈從の初期外交

國力の弱少の結果致し方なきとは言へ、我國初期の外交は悉く讓

歩と屈從の歷史であつた。即ち安政四年幕府が列强威脅の下に餘儀なく締結した各國との通商條約は、外國の事情に通ぜなかつた爲とは言へ、治外法權、關稅の不公平等不利な條項を認めたことは一大失態で、後日非常な不利益を招き、歷代の政府は之が改正の爲には一方ならぬ苦心を嘗めたのであつた。

明治四年岩倉大使等の歐米巡遊も條約改正が目的であつたが容れられなかつた。其後も數次交渉したが、列國は我國の法律の不備を理由とし、時期尙早を唱へて應じなかつた。然し我國の利害は侵害される一方なので、朝野を擧げて條約改正要望の聲は次第に昂つて來た。明治十一年外務卿寺島宗則は領事裁判の撤廢は我國の法律の不完全を口實にして到底應じさうにもないので、之は姑く後廻しにして、先づ關稅の引上げを實現しようと、七月米國と交渉したら、幸ひ同意を得たので、更に他の列國と協定が成立すれば實行出來る許りとなつた。ところが英國公使パークスは、この案に反對し、他の諸國も贊成したので、結局先に內諾を與へた米國も意を翻へした。

時偶々英人が國禁を犯して阿片の密輸入を企てたのを、英國領事裁判廷で無罪の判決を下した

ので、朝野の輿論は大に沸騰し、寺島の改正案を非難し、法權をも同時に回復しなければならぬと攻擊したので、十二年九月寺島は遂に辭職し井上馨が之に代つた。井上も十五年以來屢々列國公使と會見して條約改正に力を盡した。

二十一年二月改進黨の首領大隈重信が新に入閣して外務大臣となるや、井上とは反對に强硬政策を取り、外人に不便に堪へられぬやうにして、彼から進んで條約改正を求めさせるやう仕向けた。

そして國別に談判を進めて新條約を議定したが、圖らず二十二年四月十九日の倫敦タイムス紙上にその內容が揭載され、その中に外國裁判官任用の規定があつた爲に樞密院議長伊藤博文初め後藤象次郎、山縣有朋、山田顯義等も反對し、國民も亦猛烈に反對を唱へて、行惱みになつた際、偶々兇漢來島某に要擊され、大隈は左脚を失ひ、條約改正は又もや一頓挫を來した。次で青木周藏がその後をうけ鋭意交涉し、二十四年に至つて英國との間に略對等の實質を有する條約が成立しようとしたが、突如、此年五月大津事件が勃發したので、青木は責を負ふて辭職し、條約改正は又々挫折の止むなきに至つた。

然しこの頃になつて、漸く立憲政治が確立し、國內の諸般の制度も整ひ、法制も定備したので外國も次第に我國を信用して來た。

明治二十一年陸奥宗光が特命全權大使として在米中、全權委員として墨西哥と條約を締結したのが抑々對等條約の嚆矢である。

更に二十五年外務大臣陸奥宗光は、多年の宿望たる條約改正を遂げんとして、當時獨逸公使だつた青木周藏に英國公使を兼ねさせ、先づ英國と交涉して之に成功した。時しも日清戰爭が起り我國威を大に海外に發揚した時であつたので、他の諸國も玆に初めて我實力を認識し、相次いで改正案に同意し三十年十二月迄には悉く調印を終つた。こゝに於て明治三十二年七月、治外法權を徹廢し、內地雜居を許した。

而し關稅は未だ滿足の行く迄改正されなかつたが、後明治四十年頃から外務大臣小村壽太郎の交涉によつて之又改正され、四十四年からは、諸外國と對等に交際し得るやうになり、朝野多年の宿望はこゝに漸く達せられたのである。

明治の外交　明治時代に於ける外交としては、日清戰爭、三國干涉、日英同盟、日露戰爭、

日韓合併の五つを擧げねばなるまい。

よく日本は戰爭に勝つて外交に敗れると言はれるが事實日本の外交は引駈も何もなく全力を出してヒタ押しにする許りなので、往々土俵際で肩隙しを喰つて失策を演ずることがある。日清戰爭に於ける下關談判に於ても、强引にかけて相手を引倒したはいゝが、思ひがけぬ三國干涉の爲に見す〳〵奪に油揚をさらはれた形であつた。

北淸事變に於ても、日本が全で一人働きをしたやうなものであつたが、報ひられるところは何もなかつた。

又、日英同盟にしても日露戰爭に際して、獨佛を牽制するには大に役立つたとは言ふものゝ、英國の魂膽は東洋に於ける自國の權益擁護といふ打算的の考へ以外に何もなかつた。日本は體のいゝ英國の東洋に於ける番犬たる役目を勤めたにすぎなかつた。

日露戰爭の講和談判も亦失敗の烙印を押されてゐるが、當時の情勢としてはそこに怨す可き事情も亦ないでもない。卽ち露國は海に敗れたが、陸の長期戰に望みを囑し、新鋭優勢なる軍隊を續〻〻戰線へ輸送集中した。

之に對し日本は旣に國內の兵力を悉く補充し終り、最早之以上の戰爭繼續は困難に見へた。は敗つたが、まだ露國々境は遠く、之を敗り得ずにゐる。況んやその首都をや。當時の國民はこ露軍の情勢を知らずして、戰捷に傲つて意氣軒昂、我全權に絕大の期待をかけてゐたのであつた反して我政府及び全權は、例へ讓步に讓步を重ねても是非媾和を成立させなければならぬ、と言ふ悲痛な肚なのであつた。

偶々この日本の眞意が、當時米國駐劄の高平公使の口から陸相タフトに傳はり、端なくも之がウィッテの耳に入り、露國全權は會議早々から先手を打つて、敢て會議の決裂も厭はずと許り、何方が戰勝國か分らないやうな傲慢極る態度に出たのであつた。かうなつてはもう勝負は明らかである。我全權は讓步すること四度、遂に「屈辱外交」として國民の大憤激を買つた媾和條約は成つたのである。

大正・昭和の外交

大正三年八月二十三日、我國は日英同盟の義務を重んじ、對獨宣戰を布告した後、三ケ月に滿たぬ十一月六日、青島の獨逸要塞を陷落して、豫定の軍事的効果を收めた然るに支那政府は、青島陷落間もなく我が軍の即時撤兵を再三要求し來つたので、我が政府は獨

邊租借權問題以外に他の未解決の要求問題を一括して提出した。これが後日日支間紛糾の問題となつたかの有名な對支二十一ヶ條要求問題である。

後支那の拒絶するところとなり、十四ヶ條として兩國の調印を了した。次で勞して効なきシベリヤ出兵となり、一九一九年一月さしもの世界大戰も終幕を告げ、巴里に於て獨墺對聯合國側の媾和會議が開催せられ、我國からは西園寺、牧野、珍田、松井、伊集院の五全權委員が出席、國際聯盟を規定し、歐洲諸國の國境を定め、獨逸植民地を處分し、翌八年二月二十八日漸く平和條約は成つて調印、翌九年一月十日批准交換を終つた。

この條約によつて我國は支那へ還附すべき目的を以て獨逸が支那から得た膠洲灣の租借及び山東の權利を得、又我軍が占領した赤道以北の舊獨逸領南洋諸島の統治を委任された。

平和會議に於て歐洲方面の外交及經濟上の爭議は一時的に解決する事が出來たがなほ太平洋及び極東方面には將來紛爭の原因たるべき問題が少くないで、大正十年、米國大統領ハーヂングは、先づ海軍々備を制限して造艦競爭を止め、且つ太平洋並に極東の諸問題を解決しようとて日英、米、佛、伊の五大國並に支那、和蘭、葡萄牙、白耳義等の特別關係國を招いて、十一月米國

華盛頓に會議を開いた。

我國からは加藤、德川、幣原、埴原の四全權委員を出席せしめ、十一月十二日より翌十一年二月六日迄約三ヶ月間に亘つて商議の結果、佛、伊を加へた五ヶ國間に海軍制限條約が漸く締結された。

各國の比率は英米五に對し日本は三で日本は甚だ不利であつた。尙、この條約の實施と共に米國が豫ねてより好まなかつた日英同盟は、兩國協議の上之を廢棄する事にした。又、日支間の難問題たる山東問題も英米全權の斡旋によつて解決するを得た。

先に大正七年西伯利亞出兵後、聯合國は早く撤兵したが、同地の治安維持の爲我軍は尙駐在してゐたが、大正九年三月尼港事件の突發を見るに至つた。我軍は直ちに過激派軍を討伐、この虐殺事件の賠償を得る迄の一時的保障として、沿海州の一部及び北樺太を占領してゐたが、後漸次秩序の回復するにつれ、大正十一年秋、樺太北部を除いて全部撤兵した。その後勞農政府の基礎固るや大正十四年露領内の石油、石炭、森林等の利權を得て、同時に露國新政府を承認、國交を回復した。

昭和三年に至つて米國大統領クーリッヂは巡洋艦以下補助艦艇の制限に關する軍備縮小會議を提議したので、六月二十日瑞西の濤府に於て開會する事になり、佛、伊を除く日、英、米の三國が代表を派遣した。

即ち我全權は齋藤實、石井菊次郎、米國はジョンズ、キブソン、英國はブリッヂマン、セシル卿であつた。

かくて二十日より審議を重ね幾多折衝を重ねたが、補助艦比率問題及び艦齡問題に就て三國共各自々說を主張して協定成立せず、解散の止むなきに至つた。同年四月六日、米國に於て大戰參加十年紀念祭の催された際、佛國外相ブリアンは、この祝典を慶賀する爲に渡米したが、此を機會に不戰條約を提唱し、十五ヶ國の參加を得て、翌八月二十七日、佛國外務省に於て調印を行つた。我全權は內田康哉であつた。

聯盟脫退と無條約時代　昭和五年三度び倫敦に於て軍縮會議は開催され、集つたものは日、英、米、佛、伊の五ヶ國で、我代表は若槻禮次郎、財部海相、松平駐英大使、永井駐佛大使安保海軍大將であつた。

我要求は對米七割の勢力保有にあつたが、この主張は貫徹せられず、日、英、米間に於て漸く五ヶ年間の海軍休日案及び主力艦の廢棄繰上げ、補助艦保有量の協定が成立したが、我國に取つては極めて不利な點が多いので、輿論は大に沸騰した。後日の五・一五事件の原因も亦こゝに萠したのである。

昭和六年九月滿洲事變勃發するや、國際聯盟は日支問題を論議に上せたが徹頭徹尾認識不足に終始し、我國は殆んど四面楚歌孤軍奮鬪の形となつて幾多苦汁を嘗めされたが、同年十二月の聯盟理事會に於ては結局支那調査員を派遣し、その實地踏査の報告を待つて再審議を行ふ事に決した。

斯くてリットン卿一行の聯盟調査團は、昭和七年三月渡支約半歲に亘つて審さに滿洲及び支那各地を視察調査し、十月に至つて漸く浩幹なるリットン報告書を完成發表したが、依然その內容は認識不足に終始し、豪も我眞意を理解せず、我國にとつては此上もなき最惡のものであつた。

茲に於て我當局にてはリットン報告の誤謬偏見を摘發反駁せる意見書を發表する同時に、か

る杜撰な報告が基本となつて來る聯盟理事會及び總會が開會せらるゝ以上、到底脱退は不可避の形勢にあるを察知し、松岡洋右を我全權に任命、壽府へ派遣した。

かくて十一月二十一日より聯盟理事會は緊張裡に開會せられ、翌八年二月九日の十九國委員會に於ては「日本は滿洲國承認を取消すの用意ありや？」との挑戰的質問を發し聯盟對日本は果然正面衝突を來した。

かくて二十四日の聯盟總會では十九國委員會に於て作成せる勸告案を表決によつて決することとなつたが、反對投票は日本のみ、贊成投票は四十二、シャム一國のみが棄權し、全會一致で採擇と決した。

終るや松岡代表は悲痛な一場の演說を述べて退出、かくて國際聯盟生れて十餘年、平和の爲に行動し來つた日本帝國は茲に斷然聯盟を脱退するに決し、政府にてはこの旨奏上、二十七日樞府本會議に於て、いよ〳〵聯盟脱退と決し、遂に大詔の煥發となつて中外に之を聲明した。かくして孤立日本として在來の追隨外交を斷然揚棄して、自主獨往の建前に依つて邁進する事となつた帝國は、一九三六年を以つて期限滿了となる華府條約の單獨廢棄通告を昭和九年十二月二十九日

各締約國宛に豫め通告し、躍進日本十年の桎梏たりし五、五、三の比率より脱する事になつた。

これより先、昭和六、七年頃より圓爲替の低下に乘じて日本品は海嘯の如く全世界の市場に氾濫した。

各國は狼敗して慌てゝ關稅檣壁を高くして、喰止め樣としたが、それでも安價な日本品は關稅檣壁を乘込してドシ〳〵殺到した。遂に悲鳴を擧げた各國では、輸入禁止に等しい高率關稅を日本品に賦課して防遏せんとする暴擧に出でた。

依つて我國では個別的に各國と交渉輸出入割當率を定むべく日印會商、日英會商、日蘭會商、日濠會商、日緬會商、日埃會商、日土會商等々頻々と折衝を重ね相互に妥協點を見出して、通商の融和を計らんとしてゐるが、不幸決裂に瀕するのも尠からず我商品の海外進出は今後頗る多事多難と見られてゐる。

以上によつて大體我が外交史を鳥瞰し得たと思ふが、最後に特筆すべきは昨年十一月成立した日獨協定と日伊協定の及ぼす微妙なる對蘇關係と、西安事件後に於ける支那の動向で、これらは

今後のわが外交史の動きに大きな宿題として殘されるであらう。

經　濟

日本古來の經濟　何れもの國の歴史が物語つてゐるやうに我國の上古時代も亦、原始的な共産生活であつた。それが物々交換に進み、土地物質等を個人的に占有するやうになつて初めて私有財産制度が生じた。

然し判りとした經濟觀念の生じたのは、紀元一三六八年初めて和銅開珍が鑄造されて、一般に貨幣が通用するやうになつて以來のことである。紀元一五五四年になると、莊園制度が各地に行はれ、公卿豪族等はその權力に任せて勝手に山野を開拓し、人民を苛斂誅求し、茲に初めて資本主義的の搾取が行はれ出した。

降つて戰國時代に至つては、武士が各地に割據して、莊園同樣に、その領内の人民から搾取した。その武士階級には何らの生産能力なく、農民にのみより生活を支へられる狀態であつたにも不拘、農民はたえず虐げられた。

「農は國の本なり」と言はれ乍ら、卑しめられた。

かくて足利、北條、織田、豐臣と封建時代がつゞいて德川時代に入るや、武士階級と農民と中間に位する商工階級が翕然として擡頭し初めた。殊に江戸、大阪の經濟的發達は著しく、それは多く商人に負ふ所が多いので、勢ひ商人の勢力が頭を擡げ、その經濟的實力の前には武士と雖も頭を屈しなければならなかつた。

こゝに日本の資本主義發生の相を見出すのである。

明治維新以後　明治維新の革新は、武家專政階級の滅亡と共に、諸般の封建的社會制度に一大變革が行はれた。封建的大土地所有制の過半は撤廢され、土地所有權は完全に認められ、地租公租は著しく減ぜられたが、こゝに亦新たなる惱みが生じた。それは急激な泰西文明の輸入と共に、資本主義が急激な發達をとげて、封建時代の專政武士階級に代つて資本閥が出現したことである。

明治新政府も樹立間もない事なので、財源は極めて乏しかつた。そこで參與由利公正の發案によつて「列藩及び國民の困憊を救助し、殖産興業を振作する」と布告し、紙幣四千八百九十七萬

三千九百七十三兩を發行したが、新政府の信用が未だなかつた故か、當初は誰もその通用を嫌つた。

明治新政府が初めて外債を募集したのは、明治三年英京倫敦の東洋銀行に委托して英國人から九分利付外債四百八十萬圓を募集した時で、これは京濱間の鐵道敷設費に充てた。又初めて銀行の創立したのは、明治五年十一月國立銀行條例を布告し、之に準じて三井組が第一銀行と稱し、六年八月一日より開業した。

成立間もない新政府にとつての財的大打擊は臺灣征討と西南役であつた。臺灣征討に際して我國が使つた軍費は七百八十萬圓であつたが、清國から得た償金は僅かに五十萬兩であつたから、相當の損害で、貧乏な政府には頗る傷手だつた。

搗てゝ加へてそこへ又西南役である。この役では八ヶ月間に國費總計四千百五十餘萬圓を費し實に政府一ヶ年の歳出に相當した。之は官兵直接の費用丈であるが、其他叛徒の費用や民衆の損害を加へたら莫大なものとならう。

明治十五年より十八年までは、我經濟界に於ける一轉期を劃した時代で、大藏卿松方正義の財

政々策は着々として行はれ、先づ日本銀行を設立して從來發行された諸種の紙幣の整理に着手し十八年には兌換制を行ふ機運に至り、一般はこの松方政策の影響を受けて不景氣となり倒産者相次いだが、この間に次第に財界は着實な基礎を固め、兌換制度實施後は大ひに事業が勃興した。

戰後の不景氣は何時も同じであるが、日清戰後の不景氣も深刻なものであつた。國民は的にしてゐた償金を國防費に取られてしまつてその上農作物の不作ときて、不景氣に一層拍車を加へたこれは日露戰爭後に於ても同樣の現象を呈した。

以上明治經濟界の動きを一瞥したが、明治時代に於ける產業經濟界の指導者として忘るべからざる人は福澤諭吉である。諭吉は明治元年以來米人ウエーランドの經濟學を講じてゐたが、明治から大正・昭和にかけての我經濟界の活潑な活動は、彼に負ふと言ふも過言でなく、彼の自由主義經濟說はその儘今日まで行はれてゐる。

今日の經濟界の巨星に慶應義塾出身者に多いのを見ても福澤の功は偉大と言はなければならない。

大正・昭和時代

世界大戰の影響を受けて大正八年に入ると、物價の昂騰は底なしとなり

米價もグン〳〵昂騰した。

政府は應急の措置として全國米穀取引所に當限及中限の取引停止を命じたが、こんなことで効果の現れよう筈はない。窮民續出して政府も手の下しやうがない。その中に八月六日果然富山縣の漁民が一揆を起した。

それがきつかけとなつて富山縣のみに止まらず終に二府十七縣に波及した。政府は止むなく兵を出して鎮靜した。

この報に畏くも御內帑金三百萬圓の御下賜となつたが、これに力を得た政府は國庫金一千萬圓を支出して外米を輸入し、又強制的に農家の貯藏米を買收して廉賣等に當つたので、漸く騷擾は鎮靜した。

大戰中底なしに昂騰をつゞけた物價は、大正八年媾和條約の成立と共に俄然、激しい勢ひで下落の一途を辿つた。

その爲に大戰中に勃興した諸事業は槿花一朝の夢と化し軒を接して倒れた。政府では之が救濟に大に焦慮し、財政經濟調査會を設け、專ら高橋藏相がその衝に當つた。

斯かる所へ突如大震災が見舞つて、一朝にして帝都の經濟機構を攪亂し、前途どうなるか見透しさへつかなかつたが、市民達は健氣にも更生の意氣に燃えて蹶然奮起し、却つて「復興景氣」さへ現出して、經濟界は頗る活潑になつた。

ところが昭和二年三月第五十二議會中、偶々片岡藏相が「震災手形法案は國民の利害に關係がない」と言つた失言に端を發し、銀行が續々破綻休業を來した。先づ渡邊銀行・次いで中井銀行八十四銀行、村井銀行、左右田銀行等が休業した。

當時、臺灣銀行は神戸の鈴木商店に五億圓貸してゐたが、歐洲大戰後の不況で鈴木が破產するや、臺灣銀行も亦破綻に瀕した。銀行監督の任にある政府では捨てゝおけず、臺灣銀行救濟案を議會の協贊もなく、緊急勅命として實施せんとしたが、樞府では政府の處置を不當として否定した。その爲に遂に若槻內閣はつぶれた。

昭和二年の金融大恐慌後我經濟界は漸く更生の途についたが、その創痍が癒着するに從ひ徹底的回復の爲には、我貨幣の對外價値の安定が何を措いても必要なことが明らかになつて來た。それは金解禁問題によつて解決するより外はなかつた。

濱口内閣では昭和二年來着々之が準備をしてゐたが、漸く昭和四年十一月大藏省令を以て、昭和五年一月二十一日を以て金の輸出を自由とすべき事を公布し、茲に日本の幣制は大正九年九月以來十三年振りで名實共に金本位制に復した。

金解禁後に於ける不況は勿論濱口内閣の豫想したところであつたが、果然、爲替相場の平價回復から來る輸出貿易の停頓となり、物價は低落し、事業界の苦惱が加はり、延いては失業問題が深刻化し、豫想以上に財界方面の情勢は悪化して來た。殊に減俸問題を持出して猛烈な反對に會つて引つ込ます等の醜態を演じた。

若槻内閣が昭和六年十二月十一日總辭職するや、翌日犬養内閣が成立し、即日金の再禁止を發布した。

解禁たつた一年十一ヶ月で逆戻りである。然し今度のは單に金輸出の禁止のみでなく「兌換銀行券の金貨兌換を停止する」勅令が出たのであるから、金本位制の完全な崩壞を意味するものであつて、これは日本の金再禁止は日本經濟の實體が既にその必然性を持つてゐた上に、世界の恐慌が日本へも強くやつて來た所へ、英國の金本位停止と、之に伴つた「ドル買」が起つて

決定的に時日を早めたので、更に又滿洲事變の勃發とその擴大が正貨の擁護を必要ならしめたことも原因となつてゐる。この際「ドル買」を行つて三井は一億圓以上儲けたと言はれてゐる。

金再禁止と同時に執られた所謂非常時經濟政策と國際的ブロック政策、資本主義回生策としての統制經濟策は、企業統制に強い進力を加へ、昭和七年より八年に至つて歴史的な大企業合同が行はれるに至つた。

その第一は中島商相の立案した製鐵所合同等で、それは八幡製鐵所を母體として民間製鐵業十數社を合同したもので、新たに日本製鐵會社を起さんとし、日本製鐵合同法案が第六十四議會を通過して實現した。

その他富士製紙、樺太工業も解體して王子製紙會社に合流した。次に大日本ビールと日本ビール鱒泉の合同で、又々大阪の三十四、山口、鴻池といふ一流の三銀行が合同して關西第一の大銀行となり、其他に幾多の合同を見るに至つた。

又遞信省の立案になる電力國營案は、第七十議會に提案されんとしつゝあり、資本主義の強化

は經濟統制の名の下に漸次大トラスト化せんとしつゝある。

社會

明治初期の社會運動　社會運動はいつも支配階級に對する被支配階級の闘爭といふ形態を取つてゐる。けれども、かうした形態を取つた行動必ずしも社會運動ではない。それは農民の一揆が社會運動でないと同樣である。

又一般には政治運動は社會運動と區別されてゐるが、多くの場合政治運動はやがては社會運動への導きとなつてゐる。本項には明治以前の農民の反抗や暴動は純正な意味で社會運動とは言へないから、こゝには述べぬことゝして、社會運動が我國に發生した胎生期たる明治時代から述べることゝする。

抑々初めて社會主義なる言葉の用ゐられたのは、明治三年加藤弘之が「新政大意」を著しその中に○○○○○○と言つて自由平等を鼓吹し、茲に初めて社會主義、共產主義等の言葉を紹介してゐる。

勿論この時代には福澤諭吉、神田孝平、田口鼎軒、中江兆民等も自由平等を主張した。次に最初の無產政黨の組織されたのは明治十五年五月で、樽井藤吉や赤松泰助等が東洋的自由主義の色彩に富む「東洋自由黨」を組織し、九州島原の江東等に結黨式を擧げたが、これは最初の無產政黨であり、又無政府主義の最初の團體であると稱されてゐる。その綱領は次の三ヶ條である。

第一條　我黨ハ道德ヲ以テ言行ノ規準トス

第二條　我黨ハ平等ヲ以テ主義トス

第三條　我黨ハ社會公衆ノ最大福利ヲ以テ目的トス

この明治十五年に福島縣令三島通庸は河野廣中等が「大陰謀を企つ」と稱して大檢擧をなし、又各地に自由黨員の騷亂があつたが、同年中江兆民は「政治叢談」を發刊して「民約論解說」や「近世社會黨沿革」等を連載した外、宍戸義知がウールゼーの「古今社會黨沿革說」を飜譯し、西川通徹が「露國虛無黨事情」を刊行、又レーニン、バクーニン、クロポトキン等の露國の思想家も紹介され、マルクスの名も初めて現れた。

我國初めての勞働運動は、明治十五年鐵道馬車の創業と共に失業した人力車夫の團結した「車會黨」で神田明神に大會を開いて金權に對抗した。それに次いで鐵工機械工等の「機關部職工」石川島造船所、陸軍造兵廠、海軍工廠、鐵道局等の金屬工によつて「同盟進工組」が明治二十二年六月組織された。

又秀英舍職工を中心に、勞働問題に對する理解深き日本のロバート・オウエンと稱せられる秀英舍主佐久間貞一の盡力によつて組織された。

明治二十四五年は勞働者の擁護運動が相當黎明期に入つて來て、群馬縣の勞働者達の手で「上毛自由新聞」が發刊された。これが勞働者自身の手で編輯發行された最初の勞働者新聞で、百二十五號まで續いた。

この二十四年に酒井雄三郎を白耳義ブラッセルに開催された第二インターナショナル第二回世界大會に、日本代表として初めて出席した。

勞働者の自覺

日清戰爭は我國の勞働運動に新紀元を劃した。蓋し戰後に於ける企業の勃興、大工場の新建設、勞働問題の激增は急激に勞働者階級の目覺を促し、加ふるに租稅の增徵重

課に基く細民の窮乏化が漸く社會問題に關する叫び聲を擧げるに至つた。明治二十九年の下半期に至つて果然經濟恐慌が訪れ、工場閉鎖、企業縮少が續出し、同年七月より十二月に至る迄の間に勃發したストライキは實に三十二件、罷業參加人員三千五百十人に上つた。

日本最初の勞働演說會は、明治三十年六月二十六日神田青年會館に於て催された「勞働問題演說會」で、會衆千二百餘に達し、松村介石、佐久間貞一、片山潛等が熱辯を揮つた。此頃より社會主義研究熱は漸く旺盛となり、幸德傳次郎、片山潛、安部磯雄、杉村廣太郎等が主となつて活躍し、勞働運動も頓に活潑となつて來た。

果然、それは遂に政府の睨む所となり、明治三十三年三月十日治安警察法が公布せられ、勞働運動に彈壓干涉が加へられ、一時組織的運動は杜絕の狀態になつて所謂勞働運動の暗黑時代を現出した。

同時に資本家の攻勢的態度も强化した。又、社會主義運動に對する彈壓も苛烈を極めた。そして、三十七年三月、戰爭反對論の急先鋒たる堺利彥は筆禍によつて入獄した。これ社會主義者の入獄の最初である。

その後西川光次郎等の日本平民黨と堺利彦等の日本社會黨は合同し、日本最初の無産者新聞たる「日刊平民新聞」を發刊したが、三ケ月目で發行停止を命ぜられ、結社は解散を命ぜられた。かくて四十一年六月の「赤旗事件」の大檢擧となり、次で四十三年五月、幸德傳次郎等の大逆事件陰謀の暴露となり、爾來社會主義に對する取締は峻嚴を極め、無産陣營寂として聲なきに至つた。

左翼の跳梁と彈壓

大正元年に入ると、改良主義的勞働組合が擡頭し、その第一として友愛會が組織され、會長に鈴木文治氏が推された。

これが日本勞働總同盟の前身である。大正四年六月、米國加州に東洋人排斥問題起るや、之を緩和すべく鈴木文治は渡米して、加州勞働大會及び全米勞働者大會に出席して大に運動する所があつた。

當時、會員は三萬人に上つた。これに對して大正六年信友會が生れ、會員六百五十餘を擁した。

大正八年以後は歐洲大戰の影響を受けて事業界の最盛期を現出、その爲に勞働者側も意氣軒昂

至る所に爭議が繰返された。

東京博文館印刷所、東京砲兵工廠、神戸川崎造船所、東京十六大新聞製版部、東京瓦斯電氣工業會社等々著名な爭議である。

大正八年には東京俸給生活者同盟會が生れ、又最初の小學校教員の團體たる「啓明會」が成り、同年十一月には友愛會、啓明會、信友會、日本勞働組合其他十數組合の有志によつて、日本勞働黨の結黨式が行はれた。

大正九年日本に初めてメーデーを催すことゝなり、五月一日上野兩大師前に集合したが、參加團體十五、約一萬人に達した。

上野から萬世橋に行進、途中警官隊が解散禁止を命ずるも屈せず、隨所に警官との衝突搭闘が續出した。同年十二月には日本社會主義同盟創立大會が神田青年會館に開かれ、大會は直ちに解散を命ぜられたが、大杉榮、堺利彦、山川均、大庭柯公、荒畑寒村、加藤一夫、高島素之、麻生久、赤松克麿、加藤勘十等の大頭連によつて日本最初の左翼團體が組織され、友愛會、正信會、交通勞働、新人會、曉民會等が參加し、翌年の五月に結社禁止となる迄唯一の左翼團體として活

動を續けた。

左翼團體の結成は勢ひ爭議を誘發し、三越、足立機械製作所、足尾銅山、神戸川崎造船所、石川造船所等に相亜いで流血の慘を見るやうな勞働史上空前の大爭議が續出した。

大正十年友愛會創立十週年に際し「總同盟」と改稱され稍急進主義に傾いた。

共産黨の檢擧は大正十年十二月曉民社の彈壓、群馬共産黨等の檢擧等があつたが、大正十二年六月五日、第一次共産黨の一齊檢擧が行はれ、佐野袈裟美、猪俣津南雄、山川均、堺利彦、荒畑寒村、市川正一、小岩井淨等が起訴收容された。

佐野學、渡邊政之輔、高津正道等は國外へ亡命して入露した。

次で昭和二年三月十五日拂曉、全國三府一道二十餘縣に亙つて左翼勞農無産黨關係の本部、支部及び幹部員の家宅捜査が行はれ、千餘名の多數が檢擧された。これが所謂第二次共産黨事件又は三、一五事件で、次で起訴さるゝもの九十一名、强制處分により收容さるゝもの百名に達した。

續いて四年四月十六日には第三次共産黨事件（四、一六事件）と知らるゝ檢擧、左翼團體の結

成及び運動に對して峻烈な取締を行ふことゝなり、かくて我國に於ける共産黨派の活動は少くも表面上全滅の狀態となつた。

昭和三年二月二十日行はれた第一次普通選擧には誰しも無産黨の躍出を豫想したが、その結果はがらりと外れて、八十八名の候補者に對して當選僅かに八名、第二次普選の時は、候補者九十五名に對したつた五名といふ慘敗振りだつた。

左翼は彈壓の結果表面影を潜めたが、日本共産黨の前衛的組織として非合法の、日本勞働組合全國協議會は、全國各地に於て地下的潜行戰術を巧みに使つて、組織網を張り廻し、その數一萬を越へると稱された。

昭和七年十月六日、白晝三人組の兇盜が東京大森の川崎第百支店を襲擊し、ピストルを擬して行員を脅迫、現金五萬一千圓を强奪して自動車で逃走した事件があつた。四日目に至つて犯人を逮捕した所意外にも共産黨員で、その兇行は再生共産黨の資金調達である事が判つた。次いで昭和八年十二月赤阪區臺町田中東京工業大學助手方の共産黨中央印刷局員大串雅美が辛くも裏手から脱出して自首した所から、黨内のリンチ事件が判明、茲に當局では俄然緊張した。かくて、

記事掲載を禁止して全國的に檢擧を斷行し、遂に七百三十六名を檢擧したが、全協員の共産黨員も表面は之で殆んど根絶するに至つた。

轉向時代と右翼强化　滿洲事變勃發を契機として、勃然として祖國精神の再認識、日本精神の振作が叫ばれるに至り、剩へ國外からファッシズムが侵入して世を擧げて反動時代に入り、左翼思想は全く衰退を見るに至つた。

河上肇博士は非常時共産黨に連坐して昭和八年一月檢擧以來、囹圄の身となつたが、遂に心境の變化を來し、共産主義者としての實際運動を放棄して單なるマルクス學者となり隱居生活に入る事が自己を救ふ最善の道なることを悟り「獄中獨語」なる一文を草して秀子夫人の許へ送つたが、この決意は共産黨被告の敎化善導上大に役立つものなりとし、司法當局にては、そのプリントを全國刑務所に配布した。

續いて八年六月佐野學、鍋山貞親は「共同被告に告ぐる書」を發表し、彼等が永年把持して來た第三インターナショナルを否定して、一國的社會主義に轉じ、君主制と民族的戰爭を是認するに至つた旨を明らかにし、一大センセーションを喚起した。

而してこれが共同被告に傳はるや三田村四郎其他多數被告がこれに贊成し、市川正一等は贊成しなかつた。

その結果、佐野等は第二審で無期が十五年に減刑されたが、市川等は減刑されなかつた。

それと前後して多數の轉向者が續出し、左翼陣營は今や全く壞滅に瀕してしまつた。

加ふるに昨年は二・二六事件の勃發を見、更に十一月には日獨協定によるコミンテルンの共同防衛が發表されて彌が上に現情勢に拍車をかけ、愈々以て左派の蠢動を許さず、躍進日本は今や自ら撰んだ途を驀然と邁進しつゝある。

軍事

明治初年の兵制　嘉永六年六月五日、浦賀灣頭一發黑船の砲聲は德川幕府三百年、鎖國の惰夢を破らせ、晴天の霹靂の如く國防の重大性を認識させた。爾來江戸幕府は泥捧を見て繩を綯ふが如く、西洋兵學の輸入に汲々として軍隊、兵器、軍艦等の整備に鋭意之努めた。德川幕府が倒壞し、明治新政府が樹立するや、兵制は依然その儘踏襲されたが、各藩共區々であつたので、

兵部大輔大村益次郎は之を憂ひて、國民皆兵を斷行せんとした。

そして先づ幹部將校の教育から始めねばならぬ事を痛感し、京都に兵學寮を開校、藩の青年子弟を收容し、他全國に所謂六鎭臺を置いて一朝有事に備へる計を樹てる等達識活眼大に見るべきものがあつた。

大村益次郎の遺志が實現して、着々兵制改革の實の擧つたのは、明治五年八月山縣有朋、西鄕從道等の一行が歐洲巡察の長途から歸朝した後だつた。卽ち陸軍は佛蘭西式採用に決して、四年薩、長、土三藩の兵を東京に徵集して御親兵隊を編成（近衞兵の濫觴）し、次いで各藩の藩兵を解消させ、東京、仙臺、大阪、熊本に四鎭臺を設け、要地には分營を置き、各藩から鎭臺兵を徵集した。

同五年には兵部省が廢止されて、陸海軍の二省に分れ、從來士族の占有であつた兵職を一般國民に擴大して徵兵制を立て、常備三年、後備第一第二各二年、通算して七ヶ年の服役制が實施された。

之實に皇軍躍進上の一大新紀元と稱すべきである。

全國を六軍管に區分し、各軍管毎に鎭台を設置したのは明治六年である。一軍管を二師管とし歩兵は十四聯隊、騎兵は三大隊、砲兵は十八大隊、工兵十小隊、輜重兵六小隊、海岸砲兵九隊、總兵力は平時三萬一千六百人、戰時四萬六千三百三十人の制定である。

光榮ある聯隊旗の授與は明治七年に始めて行はれた。同年新たに編成された近衞歩兵第一第二兩聯隊の最初の閱兵式の際、親しく大元帥陛下御臨幸の下に行はれた。

創成期の海軍

海軍の方は明治元年正月陸海軍總督設置から翌二月の海防事務局が生れ、三月更に軍務官と更り、その下に海軍局、陸軍局、築造局、兵船司、軍政司が設けられて軍事一切の統轄を見た。

當時の海軍勢力と言へば、僅かに舊幕府から徵收した軍艦と、薩、長、土等の諸藩から獻納された數隻に過ぎず、到底國防を全うし得る狀態ではなかつた。

畏くも「海軍は方今第一の急務なるを以て、速かにその基礎を確立すべし」との聖勅を賜つた所以である。

當時歐洲には普佛戰爭が勃發したが、日本は局外中立を聲明し、三年七月、諸軍艦を以て三

個の小艦隊を編成し、全國の要港に配置した。

翌年三月之を解散すると同時に、今度は二艦隊を編成して常備艦隊とし、別に一隻を練習艦に當て、更に一隻を以て沿岸の測量に當らせた。

我國最初の海團が作成されたのも此頃で、前記測量艦がイギリス軍艦の指導によつて北海沿岸を測量して漸く完成したのである。

兵部省を廢して陸海軍兩省が獨立したのは前記の如く明治五年二月だが、その年十月、官制を改めて海軍條令が制定され事務の統一を期した。

因みに當時の實勢力は甲鐵艦二、鐵骨木皮艦一、その他木造の小艦を合せて僅かに十七、排水量も總噸數一萬三千八百十二噸といふ貧弱さだつた。

明治政府最初の海軍始めの式が行はれたのは六年正月だつた。八年の十月には領海を東西二區に分つて艦船を配屬せしめ、東京灣と長崎灣とを各軍區の根據地とした。東海鎮守府の施設が横濱に出來たのはその翌年の八月だつた。

日本最初の製艦事業は慶應二年幕府が石川島造船所を設けて軍艦千代田形（百三十八噸）を建

造したのを嚆矢とする。

明治政府となつてこの造船所が繼承される一方、舊幕府が工事半で放棄した横須賀造船所の修復も成つて、明治六年には早くも御召艦迅鯨（千四百五十噸）軍艦清輝（八百九十七噸）の工を起し、前者は九年、後者は八年に進水を見た。かく製艦技術の進歩に伴つて、迅鯨の進水式以後はもう艦船の修理等に外人の手を俟つ必要を認めないまでになつた。

扶桑、金剛、比叡の二千二百噸乃至三千七百噸級の軍艦が新鋭勢力を加へたのは、それから三年後、即ち十一年の事で、何れもイギリス造船會社の建造にかゝる當時としては最新式の艦だつた。

その他砲術、水雷術の研究、火藥の製造、水路事業の經營等諸般の新施設と相俟つて、茲に漸く皇國海軍の根本が樹立されるに至つたのである。

皇軍の軍事行動

次に皇軍の行事行動であるが、先づ王政復古に際しては鳥羽、伏見の戰、江戸城總攻撃、上野戰爭、奥羽戰爭、函館戰爭に導火を切つて、明治に入つては西郷從道の臺灣征討、佐賀の亂、熊本の亂、秋月の亂、萩の亂次いで西郷隆盛の西南の亂となつた。此役

では官兵を出すこと六萬八百餘人、その中陸軍が凡そ五萬八千餘人、海軍は軍艦十一隻、運輸船四十四隻、兵員二千二百餘人、八ヶ月間の國費總計四千百五十餘萬圓であつた。

次は明治二十七八年の日清戰爭で、我軍は陸海兩軍共破竹の勢で連戰連勝し、一躍無名の極東の一小國は世界的に覇を唱へた。

日清戰役當時の我兵力は人員二十二萬五百八十、馬匹四萬七千二百二十一頭、野戰砲二百九十四門、然し實際に動員した兵力は之より稍大きく將校以下二十四萬餘、外に雇員六千四百九十五人、軍用人夫十萬餘を使用した。

尙陸軍が消費した戰費は一億七千一百二萬餘圓である。又當時の海軍力は戰艦二十八、排水噸數五萬七千六百餘噸、他に水雷艇二十四であつた。

この戰役には北白川宮の臺灣征伐があつた。三十三年には北淸事變が勃發して皇軍は各國聯合軍と共に出動した。

次いで三國干涸が因を成した日露戰爭となり、陸軍は連戰連勝敵を奉天に追詰めて最後の留めを刺した。

この奉天戰の彼我の兵力は日本軍總員二十四萬九千八百、ロシア軍總員三十二萬、損害は日本軍死傷將校以下七萬二十七、ロシア軍死傷約九萬、我軍が鹵獲した主なるものは軍旗三旒、砲四十八門、俘虜二萬一千七百九十二であつた。

又勝敗の大局を決した日本海大海戰の壓倒勝利を數字によつて見ると、當日出動した東鄕長官直屬の艦船併せて約四十餘隻、敵艦隊は三十八隻であつたが、擊沈二〇、捕獲五、破壞又は沈沒二、抑留武裝解除五、行方不明一、抑留二、逃走二といふ結果であつた。

大正に入つては世界大戰の勃發と共に日獨開戰となり、陸軍は大正三年十一月七日靑島を陷れ、海軍は印度洋から遠く地中海方面迄出動して、獨逸艦隊の跳梁を抑へた。更に大正六年には過激派軍の亂暴狼藉が激化したので、聯合軍と共に西伯利亞出兵を斷行したが、翌五月二十七日には尼港事件が勃發、石田領事夫妻以下在留邦人三百五十名は殘虐飽くなきバルチザンの兇刄に倒れた。

我軍は直ちにバルチザンを討伐、この虐殺事件の賠償として沿海洲の一部及北部樺太を保障占領した。

昭和に入つては三年、支那の内亂甚しく山東省方面の在留邦人が危急に瀕したので、四月十九日第六師團に出動命令が下り、濟南まで進出警備に任じたが、排日運動は擴大する一方なので更に五月九日第三師團も出動、自衛上止むなく濟南城を總攻擊、之を占領、漸く邦人保護の保證を得て、八月十六日より撤兵を開始した。

かくて暗雲低迷のまゝ尖銳化した日支關係は、果然、昭和六年、九・一八事件の突發に依つて爆發し、滿洲事件となり、更に擴大して、上海事件となり局面は變轉又變轉、滿洲國獨立、日本の聯盟脫退、馬占山討伐、熱河討伐、北支事件、冀察自治、綏遠戰爭等々となり、今なほ今後の豫斷を許さず現在に至つてゐる有樣である。

帝國軍備現狀 而して現勢皇軍勢力如何と言へば？ 陸軍々團隊は○東京警備司令部○東京近衛師團（近衛步兵第一旅團、同第二旅團、騎兵第一旅團、野戰重砲第四旅團、高射砲二聯隊近衛工二大隊、鐵道一聯隊、電信一聯隊、飛行五聯隊、氣球隊、近衛輜重聯隊）

○東京第一師團（步兵第一旅團、同第二旅團、戰車二聯隊、騎兵第二旅團、野戰重砲兵第三旅團橫須賀重砲兵聯隊、工一大隊、輜重一大隊）

○仙臺第二師團（步兵第三旅團、同第一五旅團、騎二聯隊、野砲二聯隊、獨立山砲一聯隊、工二大隊、輜重二大隊）

○名古屋第三師團（步兵第五旅團、步六聯隊、同第二九旅團、騎兵第四旅團、野戰重砲兵第一旅團、第一飛行團、高射砲一聯隊、工三大隊、輜重三大隊）

○大阪第四師團（步兵第七旅團、同第三二旅團、騎四聯隊、野砲四聯隊、深山重砲聯隊、工四大隊、輜重四大隊）

○廣島第五師團（步兵第九旅團、同第二一旅團、騎五聯隊、野砲五聯隊、工五大隊、電信二聯隊輜重五大隊）

○熊本第六師團（步兵第一一旅團、同第三六旅團、騎六聯隊、野砲六聯隊、工六大隊、輜重六大隊）

○旭川第七師團（步兵第一三旅團、同第一四旅團、騎七聯隊、野砲七聯隊、函館重砲大隊、工七隊、輜重七大隊）

○弘前第八師團（步兵第四旅團、同第一六旅團、騎兵第三旅團、野砲八聯隊、工八大隊、輜重八

大隊）

○金澤第九師團（歩兵第六旅團、同第一八旅團、騎九聯隊、山砲九聯隊隊、工九大隊、輜重九大隊）

○姫路第十師團（歩兵第八旅團、歩兵第三三旅團、騎一〇聯隊、野砲一〇聯隊、工一〇大隊、輜重一〇大隊）

○善通寺第一一師團（歩兵第一〇旅團、同第二二旅團、騎一一聯隊、山砲一一聯隊、工一一大隊輜重一一大隊）

○久留米第十二師團（歩兵第一二旅團、同第二四旅團、戰車一聯隊、騎一二聯隊、野戰重砲兵第二旅團、野砲二四聯隊、獨立山砲三聯隊、下關重砲聯隊、佐世保重砲大隊、鷄知重砲大隊、高射砲四聯隊、工一八大隊、飛行四聯隊、輜重一八大隊）

○宇都宮第十四師團（歩兵第二七旅團、同第二八旅團、騎一八聯隊、野砲二〇聯隊、工一四大隊、輜重一四大隊）

○京都十六師團（歩兵第一九旅團、同第三〇旅團、騎二〇聯隊、野砲二二聯隊、舞鶴重砲大隊、

高射砲三聯隊、工一六大隊、飛行三聯隊、輜重一六大隊）

○羅南第十九師團（歩兵三七旅團、同第三八旅團、聯二七聯隊、山砲二五聯隊、高射砲五大隊、工一九大隊）

○龍山第二十師團（歩兵第三九旅團、同四〇旅團、第二飛行團、高射砲六大隊、騎二八聯隊、野砲二六聯隊、馬山重砲大隊、工二〇大隊）他に朝鮮軍（鎭海、永興）臺灣軍（臺北、臺南、基隆馬公、屏東）關東軍（旅順、新京）支那駐屯軍（天津）等がある。

さて、次に海軍無條約第一年を迎へた我海軍現有勢力は次の通りである。

主力艦（九隻、二七二、〇七〇噸）航空母艦（四隻、六八、三七〇噸）巡洋艦A級（十二隻、一〇七、八〇〇噸）同B級（二十一隻、一〇七、二五五噸）驅逐艦（九十七隻、一一八、八六九噸）潛水艦（五十五隻、七〇、〇八四噸）計百九十八隻七四四、四四八噸。尙建造中のものは二十七隻、八四、〇六二噸である。

【文化篇】

科學

本邦科學の黎明時代

日本科學の胎生したのは、幕末蘭學が輸入されて以來のことで、天文學に澁川春海、數學に關孝和、農學に宮崎安貞等の學者が輩出した。

澁川春海は元安井算哲と言ひ、天文曆法に通じ、貞享元年自ら研鑽して正確な新曆を作つた。關孝和は算聖と稱され、點竄法を初め前人未踏の算法を幾多發見した。又、宮崎安貞は筑前糸島郡を開墾し、農業全書十卷を現はした。

醫學には若狹小濱の藩醫杉田玄白は初めて蘭書「解體新書」を和譯して我醫界に貢献した。次で前野良澤、大槻玄澤、宇田川玄隨、箕作阮甫、緒方洪庵等の諸大家が輩出して蘭醫學の研究は著しく發達した。

而して獨り醫學のみならず、物理學、化學、博物學、測量等の發達を促し、更に戰術、砲術、

兵器に迄影響を及ぼした。即ち兵學、砲術方面には高島秋帆、江川太郎左衛門等が出でゝ、我國在來の夫に大革命を與へた。

測量には伊能忠敬が出て、自ら實地踏査精巧な日本全圖を完成して外人をすら驚歎させた。又博物には稲生若水、青木昆陽、貝原益軒、小野蘭山あり、物理化學には平賀源内、佐久間象山、水戸光圀等あり、何れも當時既にエレキテル（電氣）を研究し、之が實用化を企んでゐた。而しこれら熱心なる科學探求者も、幕末の鎖國政策に禍されて、その大成をとげることが出來なかつた。

その建設時代

かくて明治に入るや、畏くも大帝は「廣ク知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ」と傳統の遺風を脱して眞理の追求を諭し給ひ、我科學界の大綱要は玆に初めて確立し一路振興の途上へと邁進した。

科學の發達には先づ高等教育の發達が必要である。それには學校を增設せねばならぬので、明治元年には學習院・醫學所（帝大醫學部の前身）昌平學校、開成所（帝大の前身）等を次々に起し、明治四年には、工學校（後の帝大工學部）明治五年には開拓使廳假學校（後の農大）を設け

更に大阪には大阪醫學所（大阪醫科大學の前身）を作つた。

一方盛んに外人科學者を招聘し、明治三年にはドイツの醫學者ミユラー、ホフマン兩氏を招き續て五年には藥物學のニーエルト氏、物理化學のコーチング氏、博物學のヒルゲンドルフ氏が相亞いで迎へられ我學界に大きな貢献をした。

日本に初めて地質學の輸入されたのは獨逸の地質學者エドモンド・ナウマン氏の來朝によるもので、明治十年初めて帝大に地質學部が出來て、その第一回卒業生として小藤文次郎、横山又次郎兩博士が送り出された。

又地震學は明治十年英人ミルトンの提唱によつて初めて生れた。最初に植物學を專攻したのは矢田部良吉氏で、紐育ポルネオ大學で植物學を修め明治九年歸朝し、博物館長、東京大學教授植物園長に歴任大に斯界に貢献した。

なほ動物學の出來たのは明治十年、米人モールス氏が來朝してからである。氏の門下からは、佐々木忠次郎、飯島魁、岩川友太郎等篤學の士が輩出した。物理學は明治七年山川健次郎博士がエール大學を卒業して歸朝、九年から開成校で講じたのを以て嚆矢とする。化學は東京大學のア

トキソン氏、工部大學のダイヴアース氏等によつて着々進められ、理論化學は櫻井錠次博士が英國より來て始め、應用化學は松井直吉博士が米國より歸朝して講じた。

進展時代　明治二十年を越えると、我科學界も漸く建設時代を脱して發展期に入つた。先づ動物界では飯島博士の條虫、岸上博士の蜘蛛、カブト虫、丘博士のコケ虫、蛭の研究等が學界の注目を惹いた。

又植物學界には世界の學界を驚かせた二大發見があつた。即ち明治二十九年小石川植物園の銀杏樹で平瀨作五郎氏が銀杏の精虫を發見した事及び、池野成一郎氏が蘚鐵の精虫を發見した事である。

地震學も亦明治二十五年の濃美大地震の刺戟を受け、震災豫防調査會が設立され、菊池、小藤田中館、關谷等の博士によつて地震及火山の系統的調査が開始された。更に特筆すべきは坪井正五郎博士によつて公式に人類學が大學に入れられ、明治二十二年氏は人類學專攻として留學を命ぜられ、明治二十五年歸朝後直ちに理科大學教授となつて正式に人類學を開講した。又寺尾壽氏も十六年日本最初の星學講座を開き、二十一年には理科大學附屬天文臺最初の臺長に任ぜられ

た。

二十九年四月には名和靖氏の獨力によつて岐阜市に名和昆虫研究所が開かれた。氏は獨學篤行の人で、昆虫博物館には氏が苦心蒐集せる內外の昆虫標本一萬八千餘、その頭數三十萬が秘藏されてゐる。

その功を賞され明治三十五年藍綬褒章御下賜の光榮に浴した。東京帝國大學醫學部に、初めて衛生學教室の出來たのは明治十八年一月で、緒方正規博士が、衛生、細菌學を擔當した。明治二十五年には獨逸留學中の北里柴三郎博士が歸朝、傳染病研究所を設立、科學の爲に大いに氣を吐いた。

勃興時代　日清戰爭で躍進した我國は、同時に科學界に於ても著しい進歩を見せた。

地震學では關谷博士の後を承けて大森房吉博士が重きをなし、殊に地震機の改良、地震の地理的及び時日的分布に關する諸研究は學界の注目を惹いた。又、今日尙ほ世界的令名を博してゐる長岡半太郎博士は、原子構造に關する學說を發表してその名を不朽たらしめた。

東北帝國大學理科大學の開設を見たのは、明治四十三年で、化學には小川正孝博士、本多光太

郎博士、眞島利行博士、日下部四郎太博士、石原純博士等が次々に着任された。ついで大正四年には醫科大學、同八年には工科大學が開設された。

本多光太郎博士の鋼鐵研究と相俟つて日本刀を近代冶金學の照明にかけて、その神秘の殿堂を探つて一躍名聲を馳せたのは俵國一博士の研究である。日本獨特の日本刀が我々日本人の研究によつて明らかにされた事は感謝されなくてはならない。

鳥潟右一郎博士が無線電話に就て種々貴重な發明をされたのは誰も知る如く日露戰後の明治四十三年頃であるが、博士は更に燃料問題の將來を考へ、一般家庭に適用し得る蓄熱器を大正二三年頃發明された。

その他の重要な發明發見としては高峯讓吉博士のヂアスターゼ、アドナリンの發見、野口英世博士のスピロヘータ・パリータの研究、柴田雄次博士の「本邦鑛物中に於ける稀有原素の研究」寺田寅彥博士の結晶體の內部構造に關する研究等、何れも世界的權威と稱されてゐる。又藤原咲平博士は、中央氣象臺にあつて音響常傳播の研究により學士院賞を得た。

本邦科學の國際化　世界大戰後の目ざましき我國の國際的進出と相俟つて、必然我科學陣

營も大に强化せられ、大正六年には理科學の大本山として財團法人理化學研究所が開設せられ、工學博士大河内正敏子爵を所長に、池田菊苗、長岡半太郎、本多光太郎、鈴木梅太郎、寺田寅彦等斯界の權威を網羅し、科學躍進に拍車をかけた。

一方皇室に於かせられても畏くも帝國學士院に對し毎年科學御奬勵の思召で御下賜金の御沙汰があり、範を國民に示された。

富豪、新聞社等之に倣ふもの續出、大正七年には赤星鐵馬氏の寄附金百萬圓により啓明會が組織され、科學の研究發明の奬勵に當つた。文部省も亦年々自然科學の研究補助費を提供した。

大正十三年、原子構造說の殊勳者、長岡半太郎博士は水銀から金を作り出す事に成功して再び學界を驚かせた。

又、理化學研究所の高橋克己農學學士は、大正十一年肝油の中から、ヴイタミンAを抽出する事に成功した。

更に同所の鈴木梅太郎博士は、白米中にアベリン酸の缺乏を發見した。又、A、Bに次ぐヴイタミンCに就ては、同じく理研の三浦政太郎博士が綠茶中より抽出しデリカと命名して學界を矢

繼早に驚かさた。

我が磁氣學の泰斗本多光太郎博士は、强い頑性力と强い殘留磁氣を有する新合金の研究に志してゐたが、大正五年、理想的の新合金を發見し、この世界最優秀の磁石鋼にKS磁石鋼と命名した。

斯本邦科學界の異常な發達は、度々世界科學界の水準を拔いて各國を驚歎させ、著しく我科學は國際色を帶びて來た。その結果は、大正七年の英佛兩國學士院の招請によつて我帝國學士院の倫敦及巴里の國際學術會議參加となり、その後萬國學術會議の開かれる毎に、我科學界の代表者を送つた。

例へば大正十四年には物理の長岡半太郎、天文の平山清次、化學の片山正夫、地質の加藤武夫の諸博士を、翌年は物理の田中館愛橘、化學の松原行一兩博士を送つた。

大正十四年には我國初めての國際學術會議が東京に開催され翌十五年には汎太平洋學術會議第三回が東京に開かれ、外國出席者百五十餘名、我科學者二百數十名、東京帝國大學にて開會式を擧行、帝國議事堂にて連日會議を開催、學術の精華を競ひ、我科學界の偉容を海外に示し

た。

現代日本科學の世界的學者と言へば、先づ東北帝大の本多光太郎、阪大の長岡半太郎兩博士に指を屈せねばならぬが次いでテレビションの發明に依つて有名な早稲田の山本忠興博士、無電では東大の鯨井恒太郎博士、地震學では地震研究所長の石本巳四雄博士、建築では東大の岸田日出刀教授、醫學の方面では天然痘の病源體を發見して世界的に知られる三田村篤志博士等を擧ぐべきで、眞に科學日本の將來は洋々たり矣である。

宗　教

佛教の渡來　世界の三大宗教、キリスト教、モハメット教、佛教は何れも亞細亞に發生し、西紀前五世紀印度に起つた佛教は、紀元後（後漢の明帝時代）に、支那を經て朝鮮、朝鮮を經て日本に傳來した。

即ち欽明天皇の十三年（紀元一二一二年）百濟の聖明王が佛教經論、佛像等を献上したに始まる。

その後勅許を得て佛像を祀つて以來、漸次民衆に信仰され、八世紀頃より皇室の庇護を得て益々擴大し、九世紀頃より各宗派が續々生じて絢爛の狀態を呈するに至つた。

佛教の種類　さて現在我國に行はれつゝある佛教には何の位の種類があるかと言ふに、大體次の通りである。

法相宗（六經十一論を正典とする宗旨）華嚴宗（華嚴經を正統とする宗旨）律宗（宗祖過海大師、戒淨を以て宗體とする）天臺宗（宗祖傳教大師、妙法蓮華經を宗骨とする）眞言宗（宗祖弘法大師、金剛頂經と大日經を宗の指南とする）淨土宗（宗祖法然上人、無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經を宗意とする）臨濟宗（宗祖榮西、直指人心息性成佛を標榜する）曹洞宗（宗祖道元、達摩大師の本來無一物を宗骨とする）黄檗宗（宗祖隱元、宗旨臨濟に同じ）淨土眞宗（宗祖親鸞、一向宗門徒宗とも言ふ、宗旨淨土宗に同じ）日蓮宗（宗祖日蓮上人、天臺を本據とし法華八卷を宗義とす）時宗（宗祖一遍上人、淨土宗に似て自行化他を本旨としてゐる）その他融通念佛宗、新義眞言宗等がある。

我國の佛教史　初め欽明帝が百濟王献上の佛像及び經論を受け給ふや、蘇我稲目は受けて

禮せんことを請ひ、物部尾輿・中臣鎌足は之を斥けられんことを奏し、兩者相容れざる勢であつたが、帝之を稻目に下し給ひて事なく濟んだ。

然し陽明帝の御宇に至つて又々佛敎存廢の議が再燃して物議を釀すに至つた。この時、聖德太子は馬子の說に贊して佛敎を公認し給ふた。

その以來敬田院、悲田院、施藥院等を設け盛んに寺塔を建立し、經論を飜刻し、之に基いて聖德太子は十七條の憲法を制定し篤敬三寶を國是とし給ひ、王侯から庶民に至るまで三寶に歸依するもの多く、忽ち風靡するに至つた。

奈良朝時代に入るや、推古帝の御宇百濟の僧惠觀が來つて、三論宗を弘め、同時に成實宗を傳へ、孝德帝の朝に至つて我が僧道昭入唐して法相宗、倶舍宗を傳承し、聖武帝の朝には新羅の僧審祥によつて華嚴宗が開かれ、孝謙帝の朝には、唐僧鑑眞に依つて律宗が弘められ、奈良朝時代には以上六宗が信仰されたが、後只法相宗のみ盛んとなつて他宗は衰退した。

平安朝に入つては佛敎は益々傳播し、桓武天皇の朝最澄が天臺宗を開き、平城帝の朝には僧空海が出て眞言宗を弘めた。

この二宗は朝廷の歸依厚く、當時の文運の發達及び人智の開發に貢獻する所少くなかつた。然し隆盛に赴くに從つて僧侶が倨傲に流れ、權力を弄して兵戈を交へ、或は酒色に耽つて敎化を怠つたゝめ、その末期には反撥的に新宗敎の勃興を促した。

この時代に起つたものに良忍の融通念佛宗がある。新宗敎勃興の機運は終に鎌倉時代に至つて法然の淨土宗に初まり、唐に學んだ榮西の禪宗、親鸞の眞宗、日蓮の法華宗等續々相次いで起り佛敎の感化を受けざる者なきに迄に至つた。

爾後、北條、足利、織田、德川等の幕府何れも佛敎に歸依し之を保護したので大ひに民衆に浸潤し、德川時代に至つては僧侶は隱然として大きな社會的地位を占めた。明治に入つてからは神佛混淆が禁じられると共に、信敎の自由が許されたので、佛敎以外にキリスト敎、マホメット敎等も大ひに弘り、如何しき新興宗敎まで發生して當局の彈壓を受けるなどがあつた。

神道

神道は神敎とも言ひ、所謂惟神の敎へで、我國の祖敎とも稱す可きで、その祭典等の形式は天照大神の天岩戸隱れの祭事から創るものとされ、神祇を恭敬奉齋することは我建國以來の精神で、畏くも皇室に於かせられても宮中に皇靈殿、神殿を安置し奉り、尊崇厚く在

しますと洩れ承る。

敬神思想と祖先崇拜は我日本民族の世界に誇る美德たると共に、國民精神の根本となるべきものであるから、むしろこれは宗教と稱すべきではないかも知れぬ。

而してその尊崇の的は言ふ迄もなく伊勢の皇大神宮、豐受大神宮にして、尙其他全國に官幣大社、官幣中社、官幣小社、別格官幣社、國幣中社、國幣小社及び府縣社、鄕、村社等が無數につて國民の崇敬を集めてゐる。

以上を神社神道又は國體神道とも言ひ、これに對して民間信仰を基調として最近創始にかゝる宗教に宗派神道と稱するものがある。これら內務省の公認せる神道各派は

神道、大社、扶桑、大成、實行、黑住、修成、神習、御嶽、禊、神理、金光、天理教等の十三派で夫々多數の信者を有してゐる。

基督教

基督教の我國に渡來したのは足利幕府の末頃で、當時宣教師が熱心に布教をした結果大に勢力を得、天正九年の頃には寺院二百餘、信徒十五萬人、宣教師五十九人に達した。織田信長も亦耶蘇を信じて南蠻寺を建立、その布教を許したので益々盛んになり、その晩年にはそ

の餘りの猖獗に恐れて、これを禁じやうとしたが不可能だつた。

豐臣秀吉が政權を握るや、天正十三年先づ南蠻寺を毀ち十五年耶蘇教禁令を天下に令し、布教師を悉く平戸に集めた。

しかし、秀吉の薨後又もや耶蘇教が天下に瀰漫したので、寛永十二年德川家光は耶蘇教嚴禁を發令し、且つ長崎一港のみを開き、外人を放逐、嚴重な鎖國主義を實行した。耶蘇宗徒等は之に憤激して遂に島原一揆を起したので松平伊豆守に之を討滅せしめ、平定後は益々鎖國主義を採り十七年には吉利支丹邪宗門と稱して、一般人民の信否を驗す爲に、耶蘇の像を描いた踏繪を踏ませ、之を肯じない者は信者と見做して殺戮した。

かくて幕府の勢力の漸く衰へかけた弘化、嘉永年代になつて外船が屢々來航する樣になつて再び耶蘇教は傳來し初めた。

然し明治に至つて鎖國主義は一轉して開國主義となり、邦人が擧げて歐米文明に心醉するに及んで、基督教は堰を切つた奔流の如く浸入して神佛儒教と堂々對立するの勢力を得た。そして明治の末頃には新舊二十五派を合し宣教師の數も一萬三千に上り、教會は一千餘に達した。現在日

本に現存する主なる分派は左の通りである。

カトリック、天主公教會、日本ハリスト正教會、プロテスタント、日本キリスト教會、日本組合基督教會、日本メソジスト教會、日本バプテスト教會、基督教會、日本福音教會、基督友會、日本福音ルーテル教會、日本自由メソジスト教會、東洋宣教會、ホーリネス教會、日本同盟キリスト教會、賢友福音教會、日本アライアンス教會、日本基督同胞教會、日本同仁基督教會、ナザレン教會、日本聖公教會、救世軍等々。

藝術

文學 我國の文學は初め漢文學より胚胎したが、平安朝時代に至つて我邦獨特の國文學が生れ紫式部や清少納言等の才媛が現れ絢爛たる文化の花を咲かせた。鎌倉時代に入ると時代の影響を受けて著しく佛教と戰爭の色彩を帶び、保元物語、平家物語等の軍紀物が多く現はれた。

それ以後德川時代に至る迄は戰亂の爲文學は全く忘れられたが、德川時代に入つては翕然國文

學の研究が昂まり後日大義名分認識の因を成した。

文化文政期には江戸文化の爛熟と共に戯作者が夥しく出たが、就中瀧澤馬琴、山本京傳、十返舍一九、式亭三馬、柳亭種彦等は大に洛陽の紙價を高からしめた。又關西に於ては井原西鶴、近松門左衛門が江戸文學の二大巨星として燦然たる光芒を放つた。明治に入つてからは、前代の影響を受けた洒落本や實錄小說や、自由民權思想を盛つた政治小說等が出たが、純粹の文學と稱するものはなかつた。

明治十八年になつて初めて坪內逍遙の「小說神髓」が出て小說の行く可き方向を示唆した。次で同人の「書生氣質」が出たが之は寫實主義を端的に誠練したものだつた。明治二十二年には二葉亭四迷の「浮雲」が出たが、之はロシヤ文學の影響を受けたもので、當時としては新しい文學の形式を備へてゐた。

續いて山田美妙齋が「夏木立」「花ぐるま」等を出して言文一致を提唱した。之に對抗して明治文壇の巨星尾崎紅葉が處女作「色懺悔」を提げて登場、忽ちに文壇を風靡、廣津柳浪、川上眉山、江見水蔭、巖谷小波、山田美妙、石橋思案等の硯友社一色を以て塗りつぶした。紅葉の門下

からは泉鏡花、徳田秋聲、小栗風葉、柳川春葉等が輩出した。

別系としては饗庭篁村、森田思軒、黒岩涙香、森鷗外、矢崎瑳峨の屋、村上浪六、塚原渋柿園、半井桃水等があつて文壇は漸く花やかになつて來た。

明治二十八年には樋口一葉が「たけくらべ」「にごりえ」「十三夜」等の名作を出して、女性作家として萬丈の氣を吐いた。

二十七八年になると田山花袋、後藤宙外、小栗風葉、國木田獨歩、島村抱月、徳田秋聲、徳富蘆花、柳川春葉、内田魯庵等新しい作家が轡を竝べて乘り出して來た。

然し當時空前の歡迎を受けたのは蘆花の「不如歸」であつた。明治三十九年頃、自然主義の叫びは田山花袋等の主張により遂に完全に文壇を風靡して、明治末年に至る迄動す事の出來ぬ主潮となつた。

自然主義の代表的作品としては獨歩の「牛肉と馬鈴薯」「武藏野」藤村の「破戒」「家」「春」花袋の「蒲團」「田舍教師」秋聲の「黴」「足迹」正宗白鳥の「何處まで」等で、其他眞山青果岩野泡鳴、小栗風葉、上司小劍、中村星湖、近松秋江、田村俊子等も大に活躍した。

この自然主義全盛時代に、之と傾向を異にし別の途を歩んで隱然たる勢力を有してゐるのは餘裕派の夏目漱石と耽美派の谷崎潤一郎であつた。

漱石は明治三十八年「吾輩は猫である」を發表して以來一作毎に世の賞讃を博した。又潤一郎は「刺青」「惡魔」等の傑作で壓倒的人氣を占めた。

同じ傾向にある永井荷風は四十三年に「歡樂」「冷笑」を出して夙に耽美享樂の色彩が濃厚だつた。一方新浪曼作家としては鈴木三重吉、森田草平、小川未明等がゐた。

大正に入ると俄然新理想主義が擡頭して自然主義は凋落した、それは「白樺」による人道主義一派の武者小路實篤、有島武郎、志賀直哉、長與善郎等の活躍に俟つ所が多かつた。武者は「お目出たき人々」「或る青年の夢」志賀は「和解」「暗夜行路」「好人物の夫婦」長與は「項羽と劉邦」「盲目の川」等を發表して何れも好評を博した。

一方、「新思潮」による理智派の人々菊池寛、芥川龍之介、久米正雄等の新現實主義的作品も世の認めるところとなり、菊池は大正五年に「屋上の狂人」「奇蹟」を、芥川は四年に「羅生門」を、久米は三年に「牛乳屋の兄弟」を出し、何れも一躍大家に列した。

大正七八年頃になつては、左翼思想の高揚と階級意識の尖鋭化によつて果然プロレタリア文學が擡頭、秋田雨雀、中西伊之助、前河田廣一郎、金子洋子等の作家の活躍となり、所謂プルジョア文學との相剋となつたが、大正十二年の關東大震災を機に、反動思想が猛然ともり返した爲めに、さしたる業績もあげない中に、その存在を失つてしまつた。

大震災が偶然文壇にもたらした傾向は、いはゆる大衆文學であつた。現實的絶望の後に自然欲求されたのは興味本位の讀物であつた。

そして生れたのが、劍戟文藝と探偵小說であつた。

それら作家としては、白井喬二、直木三十五、吉川英治、大佛次郎、三上於菟吉、長谷川伸、江戸川亂歩、甲賀三郎等何れも錚々たる名聲を保持してゐる。

美術　我國の美術は推古帝の御代、佛教の傳來と共に異常な發展を遂げたが、今なほ當時の作品は法隆寺の壁畫佛像等となつて殘つてゐる。

下つて奈良朝時代に至つては所謂「天平時代」を現出、唐代の粹を取つてよく日本化し渾然たる域に達した。

これら稀代の名作は正倉院の御物として今なほ保存されてゐる。次に平安朝時代に入つては藤原氏の榮華に伴つて、工藝美術は絢爛を極め、仁明、文德の朝には百濟河成、巨勢金岡、宅磨谷成等の名匠が出た。

かくて鎌倉時代に至つて、繪畫には土佐派、託間派、春日派等が生じ、土佐光長、藤原信實等の名手が出た。又この時代には繪卷物が發達し、鳥羽僧正、土佐長隆等が傑作を殘した。彫刻には運慶堪慶の巨匠が生れた。

室町時代は戰亂の影響を受けて振はなかつたが、繪畫では佛畫の大家明兆、如拙、山水畫の巨星雪舟、狩野派の祖狩野正信、土佐派の中興土佐光信、彫刻には後藤祐乘が出た。ついで安土桃山時代に入るや、時代精神の影響を受けて豪放濶達の風が現れ、繪畫には狩野永德、山樂が出で彫刻には左甚五郎等の名人が輩出した。

德川時代に至ると、奢侈の風俗の影響を受けて華美の傾向著しく現れ、繪畫では狩野探幽、土佐光起、岩佐又兵衛が出で、又兵衛を祖として浮世繪は大に發達し、勝川春章、歌川豐春、菱川師宣、喜多川歌麿、葛飾北齋、歌川廣重等燎爛花の如く咲き競つた。

尙異色ある畫家として英一蝶、森狙仙があり、司馬漢江は洋畫の始祖たり、圓山應擧は寫實主義を標榜して圓山派を開いた。

なほ蒔繪には尾形光琳が出で本阿彌光悅と並び稱された。

明治時代に入ると、急激な泰西文明の輸入に刺戟されて俄然洋畫研究が盛んになつた。幕末渡來した英人畫家シーワグマンに就いて、高橋由一、五姓田芳柳は洋畫を學んだ。この芳柳は明治六年、明治大帝の御尊影を寫し奉つた。

明治九年政府は西洋繪畫彫刻を教授する爲に、伊太利人畫家アントニオ・フォンタネージ及びラグーザ（ラグーザお玉で有名）を招いたが、十年に西南役が起つて、美術所の騷ぎでなくなつた。從つてフォンタネージは不平を起して十一年歸國してしまつた。

明治二十一年、政府では漸く美術教育の必要を痛感、フェノロサの意見を參酌して東京美術學校を創設し、初代校長として岡倉覺三を任じた。

繪畫は芳崖、雅邦を中心とし、日本繪畫に限つた點、當時の歐化主義に反對し明らかに國粹主義を標榜したものであつた。

エルネスト・フエノロサは米國ボストンの人で、明治十二年我國に招聘され十九年まで東京大學で政治理財の學を講じてゐたが、後文部省に轉じ美術學校の教授となつた。

彼は眞から日本美術を愛し常に「日本には起源の古い立派な美術があるのに、その高古深遠の美術を棄てゝ徒らに外國に學ぶは迷夢に陷つてゐるもので、日本人はこの迷夢からさめてよろしく固有の長所を發揮せぬばならぬ」と論じ、日本畫の復興に努めた。

橋本雅邦、狩野芳崖は共に明治初期を代表する二大家であつたが、この二人もフエロノサ及び岡倉の說に動かされ、日本畫の古法を重んじた。

明治二十三年十月、宮內省では美術家奬勵の爲帝室技藝員を置かれる事となり、

橋本雅邦、幸野梅嶺、森寬齋、野口幽谷、田崎草雲、狩野永悳、瀧和亭、岸竹堂、川端玉章、山名貫義、荒木寬畝等が選ばれ、古今にない光榮に浴した。

同十三年には京都府立畫學校が設立せられ、教師として岸竹堂、巨勢小石、幸野梅嶺、久保田米邏等が任じられた。

同十四年には來朝中のエルネスト・フエノロサ氏を迎へて講演を乞ひ、第一回彫刻競技會が開

催された。

これ我國に於ける彫刻專門の展覽會の嚆矢である。

明治二十二年東京美術學校の開校と共に、彫刻科が設けられ、日本彫刻が復活して、加納夏雄が初代教授に、次で竹内久一、高村光雲が歴任した。

明治十五年、川村清雄は伊太利ヴエニスのアカデミーに在學、洋畫を研鑽して歸朝した。相次いで山本芳翠、淺井忠、原修次郎、松岡壽、小山正太郎等の人々も、洋畫研究に留學して歸朝した。

明治二十九年には黑田清輝、久米桂一郎、山村透等によつて白馬會が設立、漸く洋畫興隆時代となつた。

次いで明治三十四年には中村不折、吉田博、滿谷國四郎、中川八郎等によつて太平洋畫會が起され、白馬會と共に兩々相對して、展覽會を開催し、洋畫會の二大勢力として洋畫發展に貢献した。

明治三十一年七月には、橋本雅邦、松本楓湖、小堀鞆音、山田敬中、尾形月耕、下村觀山、横

山大觀、寺崎廣業、菱田春草、西郷孤月等によつて、下谷區谷中に日本美術院が組織された。その第一回展覽會には、八百餘點の出品があつた。

日露戰爭に際しては繪葉書が大に流行し、水彩畫が全盛を極め、大下藤次郎、三宅克己等の大家が出た。

明治三十一年には、東京美術學校に洋風の塑造科が設けられ、長沼守敬が教授を擔當した。その後日本美術院は財政難に逢着して「暫く俗界から離れ、專念研究に沒頭し、以て他日の雄飛に備ふ」と聲明して、谷中にあつた日本美術院の看板を常陸五浦に移したのは明治三十九年十二月のことであつた。

文部省主催美術展覽會、即ち「文展」は明治四十年六月に組織された。審査員は第一部日本畫は川端玉章、荒木寛畝、橋本雅邦、寺崎廣業、下村觀山、菊池芳文、竹内栖鳳、野口小蘋、今尾景年、川合玉堂、横山大觀、山元春華、松本楓湖、小堀鞆音。

第二部洋畫は黑田清輝、淺井忠、松岡壽、久米桂一郎、岡田三郎助、和田英作、小山正太郎、中村不折、滿谷國四郎であつた。

文展は美術界の年中行事として果然人氣を煽り、年毎に盛大となり、日本の美術界は之れによつて統一されるやうな機運に向つた。と同時に影の薄くなつた日本美術院は解散と決した。

しかし第一回の文展以來、新派の勢方は拔く可からず、常に保守派は敗北した。茲に於て新舊兩派の抗爭は益々目立つて來た。

五回に至ると、二等が二人共又々新派の占める所となつた。殊に二等賞の尾竹竹坡の「水」は扇面古寫經の模倣にすぎぬといふ理由から舊派の不滿は遂に爆發し、當時の審査員たる高島北海益頭峻南、佐久間鐵園等は連袂辭職した。

よつて當局は明治四十五年四月文部省の官制を改め、日本畫を一科（舊派）二科（新派）に分ち、審査員も亦二派に分けた。

然しこの分科制度は、惡弊が少くないので、大正三年には再びこの分科制度は廢止され、最初の制度に復した。

大正に入ると、我洋畫界は西歐の後期印象派の影響を受け、岸田劉生、齋藤與里、木村莊八、高村光太郎等がフューザン會を組織した。が、間もなく解散し、岸田劉生のみは後に草土社を起

した。

明治末期の美術界に貢献した文展も、大正三年第八回を開催するに當つて重大なる事態に直面した。

その一は日本美術院の再興による日本畫の分裂で、他の一は二科會の創立による、洋畫部の新鋭を奪はれた事である。

文展日本畫部の急に分裂するに至つた原因は、横山大觀が文展の審査員任命に洩れた事による從つて友誼上下村觀山も去り、二人が盟主となり、在來文展に不滿を有してゐた人々と協力して茲に又日本美術院を再興することゝなつた。これが即ち今日の「院展」である。

文展に於ける新舊の對立は、洋畫部に於ても烈しかつたが、遂に大正三年、藝術上の問題が高潮して石井柏亭、山下新太郎、有島生馬、安井曾太郎等は文展から脫退して、二科會を組織、毎年展覽會を開催した。

日本美術院が分裂した後、文展の日本畫部は頗る守舊的なものとなつた。この情勢を慊らずとして、京都に於ては竹内栖鳳門下の土田麥僊、榊原紫峰、村上華岳、小野竹橋、野長瀨晚花等は

之又文展を脱退して、新に大正七年春國畫創作協會を組織した。

大正五年二科會を脱退した小杉未醒は、主に日本美術院の洋畫部を擔任、多くの新進を開發、文展二科と對立したが、大正九年日本美術院の日本畫部同人達と意見の疎隔を來し、森田恒友、倉田白羊、山本鼎、長谷川昇、足立源一郎等と共に連袂脱退し、大正七年二科會を脱退した梅原龍三郎と共に新に春陽會を大正十一年一月組織した。かくて、春陽會には舊草土社同人岸田劉生、木村荘八、齋藤與里、中川一政、石井鶴三等が馳せ加つて洋畫會の一大勢力となつた。

受難連續の文展は大正八年九月遂に廢止され、新たに帝國美術院が設立された。これは當時の文相中橋徳五郎、同次官南弘等の英斷によつた。

先づ森鷗外が最初の院長に任命され、舊來の審査員は昇任して勅任待遇の帝國美術會員となつた。その顔ぶれは

黒田清輝、岡田三郎助、和田英作、中村不折、高村光雲、新海竹太郎、小堀鞆音、川合玉堂、竹内栖鳳、山元春擧、今尾景年、富岡鐵齋、松本楓湖の十三人で、外に横山大觀、下村觀山が同じく會員に推されたが、二人は固辭して受けなかつた。

然しこの帝展も、官僚的色彩濃きため、兎角紛糾の絶え間なく、數年ならずして又元の文部省官轄に逆戻りするの止むなきに至り、官展の勢威は最早昔日の俤を失ひ、むしろ美術界の實勢力は在野畫家團體の掌中に握られてゐる。

かゝる矢先、昭和五年十一月新たに獨立美術協會が出來て、行詰れる我洋畫界に一味清新の氣を注入した。これは一九三〇年協會を中心に、二科會を脱退した中堅畫家を以て組織された新人のグループで、會員中には

林重義、林武、伊東廉、川口軌外、小島善太郎、兒島善三郎、三岸好太郎、中山巍、里見勝藏清水登之、鈴木亞夫、鈴木保徳、高畠達四郎等がゐる。

かくして明治維新を新たなるスタートとして、我國藝術各部門は擧つて異常な躍進的大達展を遂げ、今や夫々世界的水準をも突破せんとしつゝある。

思想

日本民族の固有思想

我が民族固有の思想は一言にして盡せば惟神の道に在りと言へよう。

惟神の道とは神を敬ひ祀り、祖先を崇敬し、忠孝の至誠を致すことで、これ即ち日本精神の發動である。然し佛敎が傳來してからは、我國民の思想感情の上にその感化を及ぼした事も亦絶大である。

即ち我國民をして因果應報、輪廻轉生の理を悟らしめ、思考を深からしめ、貪慾を防ぎ、爭鬪を禁じ、怨恨畏怖の念を除き、慈悲、忍辱、精進の精神を養はしめたのである。こゝに於て我が國民は國家主義の薫化の上に、人道的の敎化を受け、且つ敬神の風も、祖先崇拜の精神も更に衰へることなく、却つて深刻となつたのである。

佛敎と共に儒敎思想の影響も見逃すことが出來ない。儒敎思想の要旨は、孔子の敎學「大學」にあり、「大學」は一面政治の書であると同時に道德の書である。即ち孔子の政治と敎化との根

本精神はこの書の中にある。

「大學の道は明德を明かにするに在り、民を親にするにあり、至善に止るにあり」これが儒學の根本思想である。

又儒敎に於ては五倫の道を說く。即ち君臣の義、父子の親、夫婦の別、長幼の序、朋友の信が夫である。

而してこの五者の中、君臣の關係と、父子の關係を以て重も重大な本務とした。

これらの思想は我が忠孝一本の信念を愈々强固ならしめ、我が民族精神の皷舞に大なる貢獻を成した。

而して武士階級の出現と共に、忠厚の思想を統括原理として武士間に守るべき本分、規律、作法を高潮する特殊道德が發生した。これが即ち道士道である。武士道の要素としては忠孝、禮節勇剛、質實、廉恥、信義、慈愛の八要素を持つもので、源平の昔より苟くも日本人に生れた者はこの覺悟を忘れず、二千六百年の國民精神上に燦として傳統の輝きを放つてゐるのである。かくて武士道精神は尊王思想の勃興を誘發し、我國體の大義名分を明徵にすると共に尊王討幕とな

つて、明治維新回天の大業は成つたのである。

歐化思想の全盛　王政復古は神武の古に復するを以て、根本的に古道を振興せんために官制を改革すると共に、祭政一致を標榜し兩部神道を撲滅した。即ち從來の神佛混淆を截然と二分した。これは平田篤胤の復古神道的精神を一朝にして實現したのである。又、例へ武士階級は自壊したとは言へ、國民皆兵が實現した以上、依然軍人精神が我が光輝ある傳統を有する武士道に存する事は論を俟たぬ。

その明治武士道の大綱は申すまでもなく、明治大帝の下し賜へる軍人勅諭中に燦として仰がれるのであつた。

明治初年の思想界に於ける指導者は、福澤諭吉であつた。彼は飽く迄英米の功利主義的見地の下に、所謂實學を皷吹し、獨立自尊を高調した。人生をよりよくするには精神上の豐かさよりも各個人の生活の物質的充實にあると主張した點、正に經濟的文明觀である。

明治十年頃からは英國の政治思想を先頭として滔々と歐米思想が浸入した。今日の民政黨の前身とも言ふべき改進黨が起つたのもその頃である。

これは明らかに英國の政治思想を代表したもので、議會政治待望の前提であつた。然し、明治初年の我國と政治的關係――殊に軍事上並に法律上の指導關係にあつたのは佛蘭西である。今日の政友會の前身たる自由黨が、所謂「政治上の自由」を絶叫したのは、明らかに佛蘭西の自由思想の感化であつた。

明治十五年には中江兆民がルソーの「民譯論」を譯し「民約譯解」と題して出版した。これは當時の思想を代表したもので、後に出た馬場辰緒の「天賦人權論」と共に明治初年の外來思想の代表的なものである。

獨逸思想も亦輸入され、東京大學には既に獨逸の哲學者ブッセが聘せられ、ロッツェの哲學を講じた。ヘーゲルやハルトマンやシエリング等の名も次第に宣傳され、かくて明治三十年頃は恰も獨逸哲學の全盛期となつた。

國民思想の建設時代　明治十六年頃には所謂鹿鳴館時代と稱する極端なる歐化心醉時代が現出し、歐米模倣は衣食住にまで及び、遂には突飛なる人種改造論さへ堂々と唱へられるに至つた。

こゝに於て奢侈淫逸な風に對抗して立つたのが國粋論者である。

その一人に西村茂樹がある。彼は熱心に皇室中心主義を說き、皇室尊崇は唯一日本人を救ふ宗教なりと力說し、反歐思想を宣傳したが、盲目となつた歐化主義者に對しては馬耳東風だつた。

然し明治二十二年憲法が發布され、二十三年には教育勅語が御下賜あるや、國民は暗夜に燈臺を見出した如く、國民的自覺に入つた。

明治二十七八年の日清戰役は我國を一躍東洋の最大强國たらしめた。こゝに於て國民は廣い心で世界を見渡し、日本文化の前途に多大の望みを囑すやうになつた。高山樗牛、井上哲次郎、元良勇次郎等の唱へた日本主義はこれらを代表する聲であつた。

明治二十九年には「大日本協會」が生れて大々的に日本主義が提唱されるに至つた。その綱領は、平時にあつても武備を懈らず、いよ〳〵以て國民的團結を强固にせんことを勸めたのであつた。

これは全國民怨み骨髓に徹した三國干涉が大きな動因となつてゐるのだつた。

以上の如くして國家主義的思想が發展し、日本主義が强固となり、遂に明治三十七年ロシアと一戰するや、國民は擧國一致、遂に稀有の大勝を博するを得たのである。

日本に社會主義の提唱されたのは明治二十九年頃大西祝が盛に社會主義を評論したに初まり、三十一年十月には我國最初の「社會主義研究會」なる團體が出來、片山潛、幸德秋水、安部磯雄等がそのメムバーとなつた。これが明治三十四年五月には、社會民主黨なる政治團體となつたがその活動は微々たるものにすぎなかつた。

日清戰爭以後、我が工業方面の躍進と共に、勞働者も亦自覺して勞働組合を組織し、その權益擁護のために頻々勞働爭議が勃發した。社會主義者はさかんにこれら勞働者にアヂテーションして、政治的に進出しようとした。

かくて我國思想界には、漸く國家主義と社會主義の對立が顯著になつて來た。一方、日露の戰後、商工業は驚く可き程發展をし、人心はいつか弛緩、奢侈に流れる傾向があつたので、明治大帝に於かせられては、非常に御憂慮あらせられ、精神作興のために明治四十一年十一月三十日、大詔を下し給ふた。

これ即ち戊申詔書である。

左傾思想の壞滅　大正に入るや忽然として勃發した世界大戰は、前後五年に亙つて國内の文運を阻止し、思想的方面にも一大變革を興へた。

デモクラシーの思想は、大正七年以後、急激に世界各國へ傳播して、俄かに權威ある思想かの如き觀を呈した。これは米國本來の精神から出たもので、世界大戰媾和會議席上時の重要人物たるウイルフンの熱辯によつてはからずも世界的の大潮流を成すに至つたのである。しかし、デモクラシーも我國に於ては、珍し物好きの一時的流行を見た丈にしかすぎなかつた。

それに代つて登場したのが無政府主義とマルキシズムであつた。前者は大杉榮が代表し、後者は堺利彦が代表した。

事業界は歐洲大戰によつて活況を呈し、その爲に勞働者も頗る意氣軒昂、各所に組合が組織され、頻々として勞働爭議が繰返された。これらの情勢に乘じて左翼思想は根深く浸潤して行つた。

果然！　これらに對する當局の彈壓は峻烈を極め、大正十二年六月二日には全國的に第一次共

產黨一齊檢擧が行はれた。同年九月一日には未曾有の關東大震災があつて、流言蜚語が行はれて人心惶々とした。この際社會主義者蜂起の噂があり、大杉榮夫妻は甘粕憲兵大尉に捕へられて慘殺された。

震災後は、左翼運動の活動益々活潑となり、無產政黨の結成あり、プロレタリヤ文藝の勃興あり、凡ゆる組織に左翼分子が浸入してその指導下に動かんとする情勢にあつたので當局にては大正十五年十二月四日、翌四月十六日の兩度斷乎第二、第三次の共產黨大檢擧を行ひ、その幹部黨員千三百餘名を一網打盡に檢擧して、その禍根を芟除した。

この兩度の檢擧及び共產黨の指導者たる河上肇博士の檢擧、竝に昭和三年の治安維持改正法の緊急勅令公布によつて、さすが執拗を極めた共產黨もとに角表面壞滅に瀕した如く見へたが、なほ密かに地下にあつて黨再建運動のつゞけられつゝあるのを探知し、昭和六年五月非常時共產黨檢擧の大鐵槌を加へて七百餘名を檢擧、こゝに漸く全協系共產黨員を根絶するを得た。

日本精神の振興　日支事變を契機として我思想界は頗る變化し、社會主義的思想は全く影を潛め、これに代つて澎湃として日本精神振興が叫ばれ出した。

これは、五・一五事件、二・二六事件、日獨防共協定の成立等によつて窺はれる反動思想の强化によることは勿論だが、一面、左翼思想が理論的に行詰つて、左翼陣營中の大物、河上肇博士が一歩後退を聲明し、共產黨の巨魁佐野學、鍋山貞親が轉向を聲明した事等が、輕薄な左翼主義者の信念を根本的にグラつかせ、國民も亦左翼思想の重大誤謬を發見すると共に、當然の歸結として、日本民族本來の日本精神に目ざめ、今や擧國一致民族强化の一路に邁進しつゝあるのではあるまいか？

世界の焦點新興滿洲國

新興滿洲國生る　昭和七年三月一日滿洲國は、名實ともに光輝ある獨立國家として成立した。三千萬の民衆の吸血鬼であつた張學良軍閥を一朝にして屠り、干戈果しなき混沌亂裡の南支那と離脫して、新五色旗は高らかに揭げられたのである。

由來滿洲の地は日、支、露三國は交界に位し、三國各々の熾烈なる國交の焦點となつてゐたのだ。特に露支國勢の消長は、この滿洲國の地をして、再度ならず東亞の禍根たらしめたのみでなく、軍閥張家二代の非行は、竟に滿洲をして「東洋のバルカン」たるの危地に陷入らしめたのである。

かくて東亞全局の深まり行く暗雲は、その破局を到底彌縫することも出來なかつたのである。恰も六年九月十八日、學良必死の暴戾は、かの滿洲事變を招來し、迫り行く東亞の危急に解決の緒を興へ、滿洲國の獨立建國を急旋的に促進せしめたのであつた。それには、原因となつたところの東北の軍閥張家二代の搾取暴戾に觸れなければならぬ。

軍閥張作霖と滿洲　清朝末期の擾亂に乘じて、巧みに滿洲の地に覇權を握つた者は、軍閥張作霖である。而てて滿洲の地は、この張作霖によつて、更に疲弊困憊するに至つたのである。一代の怪物作霖は、外、遠交近攻の術策を以て諸國に臨み、內、大蒙主義を振りかざして滿洲の地の充實鞏固を計る如く裝ひながら、常に彼の肚中は滿々たる野心を包藏し、北京の地に大元帥として君臨することになつたのである。即ち滿洲の地は彼にとつて、要するにその踏臺であり、野望達成のための軍備捻出地たる以外の何物でもなかつたのだ。滿洲の根本的開發はあるが、如何

に滿洲の地がそのために疲弊困憊し、住民が彼のために如何に膏血を絞られたか。その搾取機構を述べて見よう。

元々彼の地位そのものは戰ひによつて贏ち得たものであり、戰費を捻出することに就ては如何なる誅求も厭ふところでなかつた。而も搾取による歳入三千二百萬元は、驚くなかれ大部分軍器製造の充塡に當てたのである。然らば如何にして、かくも巨大の額を搾取することが出來たのかその財源こそ所謂奉天票の巧妙なる機構による農民よりの物資徵收否沒收であるのだ。

奉天票の搾取機構　この奉天票とは即ち東三省官銀號の滙兌券であり、紙幣の表面には「本券は奉天の市價に照して上海規銀と兌換す」と明記してある如く、一定の法規比價を定めることなく、兌換は市價によつて行ふものとした。兌換券の本質を具備しない不換紙幣なのである而もそれのみならず、濫發に濫發を以てし、昭和六年張學良沒落の當日迄の發券高は、無慮十億元の巨額に達してゐたのである。

かくの如き不換紙幣を以て、滿洲農民の孜々として生産する特産物の買占を行ひ、これを正金銀で賣却するのである。毎年九月、十月の特産物出廻期になると、官商は大豆その他の穀類を

大量に買占め、奉天票を拂渡す。もと〳〵不換紙幣であるから、高價に支拂つても損失を來すわけではない。而も農民は割合に値よく賣れたと思ふのも束の間、急角度に奉天票が慘落することによつて物價の暴騰を來し、最早日用品すら購入する餘裕なく、徒らに紙片を擁して空しく哭く結果となる。

かうして搾取といふより寧ろ强奪沒收を敢てした。世界廣しと雖もかゝる巧妙な强奪事業は他に例を見ない。而もこの强奪事業は、發券銀行である滿洲中央銀行である東三省銀號が、白晝公然と專業してゐるのである。かくて作霖は三千萬住民の膏血を絞ることによつて遂に大元帥の實權を得、更に飽くなき野望を達成せんと夢見してゐたが、民衆の怨嗟と呪詛は、果して一九二八年三月、滿鐵、京奉兩鐵道クロス地點に於て、彼を爆死せしめるに至つたのだ。

張作霖を繼ぐ學良の虐政　張作霖の後繼者は即ちその子の學良であつた。彼が平津地方に割據して商方國民政府に對して有する大なる壓力は、言ふまでもなく三千萬民衆を足下に蹂躙しその膏血を以て築かれた(1)世界無比の兵工廠(2)五十萬を擁する奉天軍(3)三百臺を以て組織した一大空軍である。勿論彼も作霖に劣らず租稅を重課し、奉天票の濫發によつて、民衆を搾取

し、自己の地位を維持しようとした、然し澎湃として起る反學良の情勢は如何ともすることが出來なかつた。彼はやがて南京政府の治下に立つことを餘儀なくされ、國民黨下に慴伏されるに至つたのである。

滿洲國建設さる　茲に於て國民政府の所謂革命外交は、全滿洲を驅つて、排外、排日、侮日を强要した。即ち昭和六年九月十八日の柳條溝爆破は、彼等軍閥の增長極りなき狂亂の現れであつたのだ。これを轉期として日本軍隊は、直に適正の行動を取つたのである。同時に滿洲各地に猛然と起つた反學良の氣勢は、事變勃發後僅か十餘日の間に、熙洽をして吉林省に獨立せしめ、張海鵬を立たしめ、次で張景惠、于止山、馬占山、コロンバイル王、凌陞、內蒙古の齊王、熱河の湯玉麟等の態度を、それ〴〵明らかにさせ、こゝに全滿に反學良軍閥、獨立の新機運は漲つたのである。

而してこれ等の新興機運は、さきに奉天に於ける臧式毅を中心とする獨立準備運動を中核として加速度に進展し、遂に東北新政權の母體たる東北行政委員會の成立を見るに至つたのだ。

かくて新國家成立の準備は着々として進み、一九三二年三月一日、遂に滿蒙三千萬民衆の待望

のうちに滿洲國が生成したのである。而して首都を長春に移して新京と改め、三月九日傅儀氏は光輝ある新興國家の元首として就任されたのであつた。

地理的展望　この滿洲國は行政上、奉天、吉林、黑龍江、熱河及興安の五省に分れ、西は蒙古及支那、東北は露領シベリヤ、南は日本朝鮮及黃海に接する地域であつて、總面積七百七十萬方里に人口約三千五百萬を包容してゐる。

元來滿洲と言ふ稱呼は、日本では地名として用ゐられてゐるが、これは清朝祖宗の屬する部族の名である。支那の古文獻には、この部族に曼珠とか滿住とか種々の漢字を當てはめてゐるが、最後に地名の近い感じのする滿洲の字を用ふるやうになつたのである。

地勢は南に於て蒙古に源を發する遼河の流域、北に於ては朝鮮國境の長白山を源とする松河江の流域が二大平原を形成してゐるが、この平原は、兩河系の最も接近した公主嶺、長春附近に於ても、何等分水的地形を示さず、相連互する一大平原となつて、西方蒙古に及んでゐる。

尙ほ平原について述べることは、滿洲國の產業が農業本位にある關係上、以下多少これに觸れることゝする。

滿洲國の平原は北部滿洲に於て約五分の三以上を占めてゐる。その中農耕地として重要な地域は、松花江流域であることは論ずるまでもない。同河口の流域は上流吉林省方面よりも、寧ろ下流黑龍江省方面に、より廣大な平原を展開してゐるのである。就中支流の呼蘭河平原は黑壤地帶として前清時代にも相當開發を見たが、現在に於てのこの方面は無限の廣野として、交通の便と相待ち、非常な勢で開發されてゐるのである。

山系の大なるものは長白山系と、大小興安嶺の二系である。この長白山系は鴨綠江の上流に崛起し、一は朝鮮、支那の國境に沿ふて西南に走り遼東半島に達し、他は北上して間島の西を限つて牡丹江（松花江の支流）を壓し、松花江を挾んで遙かに小興安嶺に連つてゐる。大興安嶺は黑龍江省の西北部に蟠居する一大山系であるが、地勢概ね波狀形をなし、寧ろ一大高原といつた方が適切である。

要するに滿洲は東北兩隅に於て前記の諸山系を負ひ、西南に向つて展開する一大平原國である而してこの大平原は溫熱の吸收と放射作用が頗る盛んであつて、氣壓に急激な變化を來し、寒暖の推移が極めて甚だしい。所謂大陸的氣候であつて、降雨は六、七月の交を以て最多とするが他

は殆んど雨を見ず、空氣の乾燥の度は一般に高い。然し南滿洲殊に關東州一帶は、日本內地の東北よりも遙かに凌ぎよいが、奉天以北、殊に北滿洲に至つては、北海道の北端に比して更に寒氣酷烈であるのだ。

而してこの廣大な國に住む三千五百萬の人口を人種別にすると、大體ツングース族、蒙古族、漢族に分けられる。ツングース族の中には滿人、ダウール、オロチョン、マネグル、ビラル、ゴリド、朝鮮人等を含み、蒙古族には、ブリヤート、ケブチン、オーロート人等を含んでゐるが、滿人の九百萬人、朝鮮人の約百五十萬人の他は極めて少數であり、全人口の七割までは漢族が占めてゐるのである。

社會各層の瞥見

滿洲の社會層は、滿洲そのものが農業本位の國である關係上と、大部分農民によつて占められてゐる。重なる市邑には農會の組織があるが、それは袖手安逸を貪る地主階級の集りであつて、一般農民は文化的にも未だ惠まれず、何等階級的自覺を有しない純然たる被搾取的物體にすぎないのだ。

次に商人の大部分も、それ等の關係と農產物の取引に從事してゐるのであり、工業の如きも多

くは商人の兼營であつて、農產物を原料とする製粉場、油房(大豆油、豆粕の製造)、燒酎・製糖工場等の外には未だ目立つものはない。而し滿洲の開發が建國以來急速度であるだけに、これ等の商人階級の實力は、凄まじい勢を以つて躍進しつゝあるのだ。

無產有識階級と勞働者　無產有識階級のグループには、辯護士・學校教師、新聞記者などがあるが、彼等は一般社會からは餘り歡迎されてゐない。政治運動や社會運動には第一線に立つことはあつても、多くは誰かに利用されることが多い。多少の例外はあつても、彼等は常に陰險であり、執拗であり、萬事が利己的に歸納されるのである。

一方、勞働階級(苦力)は都會に勞役するものと、農村に勞役するものとに分たれてゐる。農村方面のものは地主に雇はれ、季節によつて働くもの、即ち春季に來つて冬になつて歸る山東出身者が頗る多い。これ等農村勞働者には何等の組織と聯絡もないが、都會勞働者には多少の組織がある。それは工場勞働、鑛山勞働、鐵道勞働、土工、雜役等であつて、勿論階級意識としては未だ目醒ましいものを見ないが、相當の組合があつて、統制が行はれてゐる。即ち勞働者各自の自覺といふよりは、寧ろ勞働幹部の指導統制によつて行動するものであり、社會的勢力として

は未だ大なるものではない。

橫行する匪賊團　滿洲と言へば直ちに聯想されるのは匪賊である。これは確かに特殊の存在である。彼等は主として黑龍江及び吉林省の山林地帶を根據とし、少くとも二三十、多いのは四百人を以て一團としてゐるのだ、これ等匪賊の頭目は水滸傳流の豪傑的綽名を以て呼ばれ、部下に對する統制は徹底的である。

各賊團にはそれ〴〵縄張りがあつて、互に相侵すやうなことを禁ずるばかりでなく、常に聯絡を取りつゝ官兵の襲擊を警戒してゐる。滿洲の奥地を旅行するものは、內外人を問はず、これ等の匪賊に備へるため、一般に護衛兵を附することになつてゐるのである。

匪賊保險業　こゝに奇異なのは鏢局といふ民間經營の匪賊保險業者の存在することであつて、鏢局には所屬の私兵(鏢手)がある。從前には支那官吏でさへ官兵の護衛でも危險を感ずる場合は、鏢手に案內させたものである。これは鏢局と各地の賊團との間に連絡があり、一定の通行稅を支拂ふことになつて、無事に通過し得る仕組になつてゐるのである。

豪勢なる頭目の生活　匪賊は大抵山寨を構へて棲息し、その頭目の中には、山村僻邑に堂

〳〵たる獨立の邸宅を構へ、農耕または專ら阿片の栽培に從事するものもある。更に冬の間だけ都會に來つて、私かに贅澤な生活を營むものもある。

かうした匪賊も近年餘程減少したが、建國前には隨分被害が甚だしかつた。當時匪賊が都邑を剽掠するには、大抵豫め一定の金品を要求する。そしてこれに應じない場合には猛襲を行つたものである。當時の軍警は匪賊に對して無力であつて、討伐に際しては殆更時機を失したり、その鋒を避けたりし、却つて討伐を恩に着せて、平民に對して徵發を行ひ、或る時は無辜の人民を屠り、その生首を提げて討伐の功を裝ひ、凱歌を奏して歸營したこともある。かゝる狀態であるから、滿洲奥地の市邑では、その頃討伐隊を畏怖すること匪賊以上であつて、この兩者を避けるために、土地の繩張りである賊團に對し常に一定の貢物を贈つて、御機嫌を損じないやうに努めたものであつた。

昨日の匪賊忽ち官兵　匪賊團が往々軍閥の招撫に會つて忽ち官兵となり、頭目は一躍して將校と成り濟ますこともある。往年黑龍江督軍吳俊陞が官兵に編入すると言ふ條件で、狂暴な匪賊四五百名を歸順せしめたことも、その一例であつたが、これはインチキであつた。吳は歸順した賊團全部を省城外の一兵營に收容し、頭目には任官の辭令を渡すと稱し、城內に招いて銃殺し、同時に賊團のゐる兵營は正規兵を以て包圍し、火の放つて一擧に焚死させたことがあり、これら匪賊は滿洲治安上、最も厄介な代物であるのだ。

佛教及ラマ教　滿洲人の宗教は大體佛教、ラマ教、道教、回教、耶蘇教等に分けらはる。このうち僧侶、道士と呼ばれるものは、寺廟に起臥するか、私產或は子孫院といふ父子相傳の制と、公產廟或は十方院といふ公共維持のものとあり、多くは所屬財產として土地家屋、料地等を所有し、自ら耕して衣食してゐる。

佛教の僧侶は我が國と違つて何れも殆んど無智無識で、傳道布教に從事するものは殆んどなく單に葬祭に任ずるのみである。佛寺として著名なものは、金州の天齊廟（通稱極樂寺）とハルビンの極樂寺の二つである。天齊廟は元來道教に屬すべき寺であるが、禪宗の僧侶が管理し、別殿に地獄の諸相を現示した群像を並列し、これが一般の呼物となつてゐるのだ。

一方、ラマ教は西藏傳來の佛教であつて、蒙古方面に勢力を有してゐる。蒙古人は悉くこれに歸依し、その信仰の盛んなることは到底滿洲人の比ではない。この廟の最も大なるものは、通

遼附近のモリン廟であるが、同廟で行はれる祭儀中、最も珍奇なのは、打鬼と稱し、毎年正月四日から二十八日に至る大祭である。これは怪奇な假面を被つた惡魔を、佛菩薩の化身が出現して退治るところを舞踊神樂に仕組んだもので、當日の大なる呼物となつてゐるのだ。

偶像教たる道教　現在の道教は純然たる偶像教となり、古代の宗意を失つてゐる。この道教の寺院は觀とも廟とも言つて、こゝには各種の像が祀られてゐるのだ。一般に玉皇を主位とし、老子を配し、天宮、地宮、水宮といふ三神が附加されてゐる。有名な關帝廟も道教の寺であつて、こゝには、娘娘、佛爺、龍王、火神、馬王、牛王、財神、藥王、神農狐仙等頗る怪奇な像が祀られ、始めて見るものは一種の薄氣味惡るさに打たれずにはゐられない。

その他、回教、耶蘇教、薩滿教等も侮り難い勢力を占め、智的に低い民衆に相當食ひ入つてゐることは注目すべきことである。

盛大なる大石橋の娘々祭　これ等の宗教の外に、滿洲人一般の祭である娘々祭は風俗的に見て最も興味のあるものである。この祭は滿洲各地の娘々廟で行はれる民俗的な露天の祭であるが、最も代表的なのは、大石橋の同廟であらう。

廟の御神體とも言ふべきものは、雲霄、避霄、瓊霄と呼ふ姉妹神で、第一が福の神、第二が眼疾の神、第三が子寶の神といふことになつてゐるのだ。而して毎年陰曆四月十七日前後の三日間を祭日としてゐるが、この祭日には大石橋の小山の上の廟を中心に、二十萬近い老若男女が集つて、方二里にも亙るアンペラ掛けの一大露天の歡樂鄉が出現するのである。

恰度半年にも亘る落漠たる冬がすぎて、滿洲の原野は正に春醋である。見渡す限りの原野は赤い地肌を鋤の刄で耕され、その表面には芽生えたばかりの高粱の芽が薄綠色にバラ撒かれてゐるのだ。鄉土色豐かな厚化粧に身を飾つた滿洲婦人が、一臺の大車に幾人ともなく積まれ、今日ばかりは小ざつぱりした藍布衣を纏ふた若い馭者が、長鞭を鳴らして四頭曳きの駑馬を巧みに走らせてゆく。

さうした大車が幾百臺、幾千臺となく絡繹として續くのである。もとより大車の間にも徒步の參詣人が繼がつてゐる。廣大な原野の中を走る幾十條の街道には、娘々廟を目ざして四方から集る群集が宛ら蟻のやうに續くのだ。

廟の周圍は見渡す限りこれ等の參詣人によつて塗り潰される。そこには臨時の市が開かれて、

雜貨、農具、牛馬の市から、田舍芝居、見世物、賭博場、飲食店等が開かれて、農民の安價な購買心と娯樂心を煽り立てるために、痛高い喚き聲が繰り返されるのである。

まことにそれは雜然、紛然として他國では見られない異樣な光景である。而もその祭を彩るつて買求められるのであつて、これを抱いて寢ると忽ち受胎するとさへ言はれてゐるのだ。

最も興味あるものは、土俗味溢るゝ小さな泥人形である。この人形は子寶を欲する婦人の手によ

世界動亂の震源地スペイン

西班牙の史的概觀

西班牙に日沒なし　カルメンと鬪牛で名高い情熱の國スペインは、今や同胞相擊ち血河屍山を築くの慘を現出し、加ふるに蘇聯の政府軍援助、獨・伊の革命軍援助はいよ〳〵露骨となつて、國際的左右抗爭は延いては世界大動亂をも誘致せんとする由々しき形勢にあり、今やスペインは全世界の視聽を集めて、注目の焦點となりつゝある。從つて苟くも現下の國際情勢に對して關心を有する者の等しく知らんとするところはスペインに對する知識であらうと信じ、茲に同國の史的概觀を略述しやうと思ふ。

スペイン人が他の歐羅巴人種に比して、極端に情熱的であり、而もメランコリックな東洋的の特色を有してゐるのは、七一〇年から一四九二年に至る迄、實に八世紀間に亘つてアラビヤ人の支配下にあつたに因る。ところが一〇二八年頃から基督教徒と戰爭が始つて、一四九二年アラビ

ヤ人は大敗して西班牙から驅逐された。こゝに初めて西班牙王國が初まり、國力充實し、領土の廣大なること世界無比、ベルギー、オランダの全部、フランスの一部、イタリーの南部、シシリー島、オーストリー、トランシバルニア、シレジア等を包含した許りでなく、コロンブスの發見した南北アメリカの新世界も西班牙領となり、當時「西班牙の領土に日沒なし」と誇つた程であつた。然しフイリツプ二世の時、一五八八年有名な無敵艦隊を編成して、イギリス征伐を企てたが、不幸暴風の爲に悉く覆沒、爾來スペインの勢力は下り坂となつた。下り坂になると共にメキシコ以南の中米、南米の植民地が悉く反旗を飜して獨立した。一八九八年にはアメリカと戰つて大敗し、キューバ、ポルトリコ、フイツピンを失た。

モロツコ事件　一九三一年四月十四日、ハツブスブルグ王朝の傳統と、ブルボン王朝の豪華を誇つたスペイン國王アルフォンソ十三世は急轉直下、その王座より滑り落ちて、皇帝退位、共和制が宣布された。この革命の由來は、プリモ・デ・リベラ將軍の獨裁政治が招致したもので、而してその獨裁政治を招來した所以を說くには、どうしてもモロツコ事件を說明しなくてはならぬ。

抑々歐洲諸國中で、モロツコに對して眞先に勢力を扶植したのは西班牙である。西班牙は既に十三世紀に於て、モロツコよりムーア人を驅逐し、十五世紀に於ては、モロツコ北部の各所を占領した。次いで一八六〇年のテツアン條約でセウタ及び大西洋岸の地方を占領し、越へて一九〇四年の西佛、英佛の兩協約及び一九〇六年のアルゼシラス議定書並に一九一二年の西佛條約を經て、西班牙はモロツコに於ける現在の領域をその勢力圏として獲得したのである。即ちタンヂユールの國際地帶を除く、モロツコの北部及西北海岸一帶の地で、面積は二八、四六八平方キロメートル、總人口一、〇七〇、四〇〇人を算すと稱せられる。然し一九二四年末のスペイン軍の撤退以來はその地域を減じ、今日では單に西部及び西南部の海岸地帶を占領するに止まる。

一九二一年スペイン政府はモロツコ總司令官の人選を爲すに當つて、深く考慮するところなく當時セウタの司令官をしてゐたシルベストレ將軍を差措いて、ベレンゲール將軍をモロツコ總司令長官に任命した。茲に於ても兩將軍の間には圖らずも勢力爭ひの激しい反目確執が生じ間もなくシルベスト將軍は、自己の勢力擴張の爲に約二萬のアフリカ土人兵を募りアル・マセスの海岸から上陸せんとした。所が丁度その時、この地方一帶にはリフ族が反亂を起して頻りに氣

勢を上げてゐる最中であつた。シルベストレ將軍はリフ族の首領アブ・デル・クリムを監禁してこの反亂を鎭めんとしたが、クリムは脫出して、却つてその反亂は擴大し、同年八月、リフ共和國獨立の宣言をし、叛徒は啻にリフ地方のみならず各地に擴り「スペイン人を根こそぎアフリカから掃蕩せよ」と絕叫した。

然るにシルベストレ將軍は只己れ一個の野心に驅られ、二萬の兵さへあれば、彼等蠻族の如き鎧袖一觸のみと樂觀してゐた。豈圖らんや、叛徒はその勢ひ頗る猖獗、而も勇猛果敢、忽ちにしてイグリベンに於ける政府軍を十重二十重包圍した。籠城すること三週間、飢渴に瀕した八百人の兵士は、悲慘にも大部分自殺し、蠻族の虐殺を免れて漸く死地を脫し得たものは僅か七人にすぎなかつた。

慘敗した西班牙軍　この大慘事を序幕として早くも西班牙軍は意氣沮喪した。シルベストレ將軍は最後の決意を固め全軍に包圍突破を命じたが、兵士は今回の戰爭は元來政府の命令によるものでないからとて、斷然將軍の命令を拒絕して退却を初めた。然しその時既に遲く反軍は時を移さず包圍攻擊し、將軍麾下の四千人の一軍は忽ち前と同じ悲慘な運命に陷ぢた。シルベスベ

ストレ將軍は自殺したのであらうが、その後何の消息もない。

かくて勢ひに乘じたリフの叛徒は、騎虎の勢でメリーヤに殺到した。ベレンゲール將軍は、シルベストレ將軍の敗報を聞くや、直に二千人の援兵を率ゐてメリーヤに向つた。幸ひにしてメリーヤはベレンゲール軍によつて辛うじてリフ族の手に陷る事を免れた。が、西班牙軍はその後も各方面で慘敗又慘敗を喫し、後一九二六年プリモ・デ・リベラ將軍が執政時代に至り、フランスの援助に依つて漸くアブ・デル・クリムの降服を見るに至つた。

リベラ將軍の武斷政治　果然モロッコの敗報を聞いた國民は一齊に起つてその責任の所在を國王及び陸軍に詰問し、剩へその處罰を要求せんとするが如きに至つて、實にスペイン國家の危急存亡にかゝはる一大事となつた。こゝに於て鋼鐵の如き武斷政治家プリモ・デ・リベラ將軍は斷然奮起して、軍隊の威權を擁護し、同時に王政確保を目的として、クーデターを敢行した生ぬるい事では收まらぬ、最善の方法は武力であると信じてリベラ將軍は起つたのである。そして將軍は全國に戒嚴令を布き、議院を解散し、憲法を停止し、そして五人から成る執政政府を樹てた。しかし五人の執政々府とは言ふものゝ、實は全政權はプリモ・デ・リベラ將軍の手中に收

められてゐるのだつた。危急の場合とて民衆も亦クーデターを餘儀ないものと觀念してむしろ好意を以つて之を迎へた。かくてリベラ將軍のクーデターは一滴の血を流さず、平和裡に無事行はれた。

リベラ將軍は執政後、政治の一大廓清を標榜し、極力政費の節約を計る旨を公約し、又將來この目的を達成すべき新憲法を制定して、漸次常態の復歸に努むべき旨を宣言。一九二三年十一月にはイタリーのムッソリーニのファッショ黨に倣ひ、愛國同盟なる政治團體を組織した。

かくて獨專政府の强化の爲めに、リベラ將軍は反動分子に對しては極端の彈壓を加へ、一方政府に對して忠實なる分子に對しては、努めて彼らの歡心を買ふ可く、請願要求等を悉く容れて港灣の改築、鐵道の新設、道路の改築等の土木事業を無制限に擴張したために、これらに要する機械及び工事材料の輸入が著しく增加して、さなきだに年々入超に入超を重ぬたスペインの外國貿易は甚しく入超の度を高めた。搗てゝ加へて一九二九年にスペインの重要輸出品であるオリーブの輸出價格が低落し、且つ小麥の不作が益々輸入の超過を多からしめ、通貨は低落の一

途を辿り、政府は爲替調節の手段につき果て放任するの止むなきに至つた。これが爲スペイン金融界には甚しい恐慌を來し、政府も此上の拱手傍觀に堪へず、內債發行、輸入稅の引上等を行つたが、これらの應急手當も瀕死のスペイン財界には何等の效を奏せずペセタの價値は益々低落し、國民の怨嗟は日毎に募る一方となり、今や全くリベラ政權の信用地に墜ちるに至つたので一月二十八日、遂に閣員は連袂辭表を提出した。かくてリベラ獨裁政府は六年四ケ月を一期として果敢ない最後をとげたのは、むしろ悲壯と言はねばならぬ。

革命成つて共和制

皇帝アルフォンソ十三世は直ちに侍從武官長 陸軍大將 ダマソー・ベレンゲール伯に新內閣の組織を命じられた。このベレンゲール將軍は言ふ迄もなく、先のモロッコ總司令長官で、メリーヤで反軍に敗れた爲め、軍法會議に附せられ、六ケ月の禁錮に處せられたが、一九二四年の大赦に浴して釋放され、間もなく陸軍大將に昇進、續いて侍從武官長に榮轉した。

ベレンゲールは先づ憲政復歸に至る準備手段として、不人氣であつた國民議會を解散し、言論を緩和する等大に自由主義を發揮し、專ら人心の緩和に努めた。そして組閣と同時に通常議會を

召集すべく總選擧を施行せんとしたが、果然共和黨は之に反對し「從前に在りては、憲法議會召集の必要を認めなかつたが、今や事態の重大なるに鑑み、來るべき議會は、憲法議會の性質を有するに非ずんば、現下の危機に直面し、執政々治の責任を追及し、國勢の挽回不可能なり」との意見に一致せる旨を聲明した。

この報道に接した政府は、一方ならず驚愕し、百方形勢の挽回に努めたが力及ばず、二月十四日、こゝにベレンゲール内閣は僅か一年一ケ月で瓦壞した。

依つて皇帝は三月一日の豫定であつた總選擧を一先づ取消し、三月十六日、ホセ・サンチエスゲッラに後繼内閣の組織を命ぜられたが、組閣困難で辭退した。最後に組閣を委囑せられたのは海軍の長老アスナール提督で自由派、保守派、カタロニア派等を糾合し十八日漸く新内閣を組織した。

かくて「王政か共和か」を決定する乾坤一擲の總選擧は、一九三一年四月中旬執行されたが俄然共和黨は壓倒的大勝利を得、茲に國民の總意が王政否認にある事が明らかにされた。兵力による反抗は兵力によつて阻止し得るが、かゝる合法的な手段による民意表示に對しては最早對抗

法がない。かくて時局は急轉直下し、四月十四日アルフオンソ十三世は遂に王座を退いて國外に出でられ、同時に共和派の首領サモラを假大統領とする新共和政府が組織せられ、こゝに一七〇〇年以來、傳統久しかりしブルボン王朝は敢なく覆滅して、新たなる「スペイン共和國」の出現を見るに至つた。この際流血の慘事が當然起るべくして起らざりしは、王政共和兩派の勢力が餘りに懸絶してゐたゝめに他ならぬのであつた。

これより先、バルセローナを初め、各都市にては早くも共和宣言を發し、市役所その他の公署は永年の親しみ深かりし二色旗を引下して、新に赤・紫・黄の三色共和國旗をへんぽんと翻へした。

皇帝一族の亡命と最後の宣言　アルフオンソ皇帝は萬策盡くるや、後事をロマノーネス伯等に託し、十四日夕方僅かに從者數名に護られてマドリツド宮殿を出で、南方地中海沿岸の海港カルタヘーナへ退去せられ、十五日早朝孤影悄然軍艦プリンシペ・アルフオンソ號に搭乘「スペイン萬歳」の唱和裡に、翌十六日午前六時佛國マルセイユに上陸、同日正午汽車にて巴里に向ひ十一時巴里着、ホテル・ド・リユウ・リヴオリに入られ、先着のヴイクトリヤ・ユーヘニヤ皇后及

び皇太子殿下に涙乍ら對顏せられた。

尙アルフォンソ皇帝がマドリッド退去に先だち、ロマノーネス伯に殘された宣言書は、その後發表されたが、內容は左の如くである。

「今次の選擧は予が國民の敬愛を失つたことを明示した。然も予の良心は予にこの國民の不滿が永久的なものでないことを告げる。何故とならば予は常にスペインに奉仕せんとして振舞つて來たからである。勿論予は時として過ちを犯した。然しスペインは惡意なき過失に對して常に寬宏であつた。予は天權を維持し、敵手と有效に戰ふ爲めに種々の手段を用ゐることが出來た筈である。而も國民を內亂と同胞戰の慘禍中に投ずる虞れある一切の事柄を避けんとする予の斷乎たる希望である。予は予の有する諸權利中の一つをも拋棄するものではない。予は輿論の眞實の發現を待ち國民がこれを悟る迄自發的に王權の行使を停止し、スペインを去らんとするものである。是れ予がスペイン國民はその自らの運命の唯一の主人公たることを認めるが故である。予は祖國に對する愛が予に命ずるところの義務を果しつゝあり、同時に神に對して他のスペイン人も亦予と同じく自己の義務を深く理解せんことを祈るものである。」

人民戰線の決定的勝利

アルカラ・サモラを首班とする臨時政府は、共和派のみならず社會黨、カトリック黨、保守黨を網羅し、新政府の政綱として左の如く發表した。

一、新政府の行動は後日憲法議會の承認を經べきものとす。
二、執政々府の責任を糺彈し、その文武官の組織を檢討す。
三、信仰の自由を尊重す。
四、個人の權利自由を尊重し、組合及びコペラチープの人格も認む。
五、私有財產を尊重し、農業を保護助長す。
六、國內にて永年地位及び財產を有せしものゝ出國の爲め、新政府の確立を困難ならしむる場合はこれを犯罪と認め財產を沒收す。

この新共和政府に對し、一九三一年四月十七日佛國竝に智利の兩國が率先して承認を與へ、續いて英、葡、諸、白の諸國も新政府承認を發表し、日本も四月二十四日この假政府を承認した。

新共和政府は非君主制といふ以外に何等特色なく、その階級的地盤は、大土地所有者であつた而して新共和憲法は、農民大衆獲得のために土地革命、卽ち土地分配を約束したが、肝心の大地

主が新政府の背後に控へてゐるから、この土地革命は仲々實行されなかつた。

土地革命と同樣、新共和國の宿題として殘つたのは、カタロニア、バスクその他の獨立問題であつた。カタロニア州は、他の部分と人種及び言語を異にしてゐるので、獨立の宿望が甚だ熾烈であつた。殊に同地方はスペイン工業の中心地であり、從つて勞働者の勢力が强く、スペインでも最も左翼的な地方であつた。一九三〇年のサン・セバスチアン盟約は、カタロニア州の獨立、自治を約してゐたので、一九三一年の共和革命が起るや、カタロニアの中心バルセロナは直ちに獨立共和國を宣言した。然しその宣言はサモラ新政府の保守主義によつて定全に葬り去られた。

その後首相サモラは大統領に選ばれ、第一回の正式首相としてアサニアが選ばれた。然し一九三二年夏頃からファシスト團「アチオン・ポプラール」等が勢ひを得て來て、スイペンは再びファシストの支配下に呻吟することゝなつた。

十一月の總選擧では、レルー內閣は失業救濟を約束したが、さて總選擧が濟んでみると、仲々約束を實行しない。そこで翌一九三四年三月、首都マドリッドに反レルー運動が公然火蓋を切られ、九月には全國總罷業にまで發展し、八萬の勞働者が之に參加した。十月ストライキは愈々惡

化し、カタロニアは遂に十月六日、獨立を宣言し、州內にはソヴエートが樹立された。が、ルレー政府軍の反擊に遭ふや、忽ち參つて八日には完全に崩壞、指導者コンパニス及び新カタロニア大統領アサニアは逮捕された。同日にはスペイン西北部のアスツリア地方も蜂起し、六千の勞働者は武裝して、州內にソヴエートを樹立した。ルレー政府はフランコ將軍をして之を討伐せしめたが、勞働者軍は目に餘る政府の大軍を迎へて實によく戰つた。しかし、武器の不足は遂に抗し得ず、十九日遂に降服した。この二つの叛亂に於て殺された勞働者は五千乃至三千と言はれ、負傷者約一萬二千、投獄されたもの五萬乃至六萬と言はれた。この十月革命の敗北がそれより一年半經つた一九三六年三月に於ける人民戰線大勝利の基礎となつたのである。

スペインの人民戰線が、隣國フランスのそれに眞似たものである事は言ふ迄もない。フランスの人民戰線の成立したのは、一九三五年一月であつたが、スペインのそれは翌一九三六年一月でフランスの夫の如く勞働組合の統一で、その主なる構成分子は、共和黨、共和同盟、社會黨、共產黨、勞働總同盟、全國勞働聯盟である。人民戰線の選擧綱領は、共和制の防衛、一九三一年憲法の實行及び政治犯人の大赦であつた。

總選擧は二月廿六日と三月一日の兩日曜日に行はれた。さていよ〳〵蓋な明けて見ると、總議席四百七十三席の實に過半數二百五十六が人民戰線に獲得された。左翼の極端派は興奮のあまり教會を襲擊して燒き拂つたり叩き壞したりした。又他方には右翼ファシストのクーデターの噂がとんだ。首相ポルテラヴァラ・ダレスは時局收拾の力なしと自ら考へ、直ちに辭表を提出、サモラ大統領は初代共和國首相アサニアに組閣を委囑し、十九日彼を首班とする人民戰線內閣が成立した。そして三月十一日先づ大赦令を發して、約三萬の政治犯人を釋放した。四月十五日には、アサニア新政府の政綱が發表された。選擧改正法、議會改革、失業救濟事業の振興、農業改革の實行がその主なる內容であつた。そして四十五萬の小作人に土地を分配し、又カタロニア州を獨立し、ルイス・コンパニスを新自治長官に任命した。更に十月には大統領サモラを廢して、アサニアを立て、首相はカサレスキロガに讓られた。この內閣は叛亂勃發まで續いた。

右翼革命軍の蹶起

人民戰線派は總選擧の勝利の美酒に醉ひ知れてその足許を忘れてゐた剩へファシストを苛めすぎた。果然昨年七月十八日、モロッコ領の一角から人民戰線に對する痛烈なる爆彈が投げつけられて、スペイン全土は一朝にして動亂の坩堝と化した。

叛亂の火蓋を切つたのは地中海を距てた植民地のモロッコで、その主領はフランシスコ・フランコ將軍である。將軍は直ちに總司令部をメリリアに定めたが、それと前後して、エミリオ・モラ將軍の指揮する北軍がパンプローナを中心として兵を擧げ、サラ・セバスチアンを占領し、その他西南部セヴィラ地方、東南部バルセロナ地方に於ても、續々叛軍が蹶起した。叛亂の目的は三月の總選擧で勝つた人民戰線政權を打倒して、スペインにファッショ的獨裁政府を樹立するにあつた。叛亂は軍部のみで極秘裡に計畫され、ヒル・ロブレスだの、レルー等といふファシスト政客は事前の謀議に少しも與らなかつた。この點日本の二・二七事件によく似てゐる。

政府對叛軍の勢力關係を見るに、陸軍の大部分は叛軍側に投じ、海軍、民軍及び空軍は政府側に屬してゐる。十八日叛亂勃發の報が入るや、首都マドリッドの勞働總同盟本部は直ちに死を以て人民戰線政府を擁護することを決意し、武器庫を開いて全首都の勞働者を武裝せしめた。十九日には叛軍鎭壓のためモロッコに送られた軍艦四隻が叛軍側へ寢返りを打つた。又叛軍の二將軍が逮捕され、その一人サジコロー將軍は殺害された。二十三日には北部サン・セバスチアンの奪還戰が始まり二十四日には政府軍の手に收められた。一時叛軍の手に歸したカタロニア州も二

十三日には政府軍が奪還した。同じ日マドリッドへ距る北三十哩のブルゴスでは、叛軍が新政府樹立を宣言し、各國へ通告した。マドリッドの北方を扼する天嶮グアダラス峠の爭奪戰は二十三日から開始され、二十八日には叛軍が占領した。二十五日には全國五十州の中、過半數の即ち二十八州が叛軍の手に歸したと發表された。かくてマドリッド攻防戰をつゞける事既に半歲、一進一退今のところ兩軍互角の形勢に在るが、今後の動きこそ、國際政局を左右する重大なる鍵とならう。

スペイン動亂と各國の動向

今次のスペイン動亂に際し、特に注目すべき點は、それが圖らずも國際的なファッショ戰線對人民戰線の對抗を惹起したといふことである。叛軍がドイツ及び伊太利の物質的援助を受けてゐることは最早疑ふ餘地はない。又、政府軍としても同じ人民戰線の內閣を頂く隣國フランスから秘かに援助を受けてゐると思はれる。ソヴエート聯邦が公然スペイン政府支持を聲明し、陰に陽に援助をなしつゝあることは既に周知の事實である。ベルギーも亦スペイン政府支持に傾いてゐる。

イギリスは、例の如く老獪な態度で頗る齒切が悪いが、保守黨政府は、勿論叛軍に對し同情的

である。少くとも人民戰線などゝいふものは、イギリス政府の好みに合ふまい。と言つて勿論、積極的に叛軍を露骨に援助するやうな事はやるまい。この問題について、佛、獨、伊、ソ等に介在して、よく言へば仲裁役、惡く言へば僞善的な蝙蝠振りを發揮するだらう。

最近のスペインを繞る微妙なる國際政局の動きは、後章「點火線上の國際危機」中に詳述するとして、最後に現下混亂スペインに躍る左右兩翼の主要人物を一瞥して、この項を結ぶとしよう。

混亂スペインに躍る人々

先づ社會黨中の左翼に革命派の巨頭ラルゴ・カバエーロがゐる。彼は事實上人民戰線の中核となつてゐる人物である。が、皮肉にも彼は嘗て王朝時代リヴエラの獨裁政治下で國王の樞密顧問であつた。それが革命後最初の共和政治が社會黨を優待しなかつたのに憤慨し、自ら社會黨に投じて、之がリーダーとなり、更に國民大衆が第三インタアナショナル等より働きかけられて共產黨やシンヂカリスト等の極左に走る危險を防止する爲に、自ら社會黨中に左翼を作つて之を率ゐた。黨中で之に對立する中央派の領袖にインダレーシオ・プリエート等が居り、之は黨內のブチブル層を糾合してゐる。又社會黨右派はベステイロやサボリツトが

率ゐてゐる。

次に右翼陣營を見渡せば、その巨頭は何と言つても王黨革新派の首領カルヴオ・ステロに先づ指を屈せねばなるまい。彼は王政獨裁時代の大藏大臣で、今度の動亂勃發の僅か五日前に何者にか暗殺され、叛亂軍の憤激をいやが上にも募らせる動機となつた。又叛亂軍の總指揮官たるドン・フランシスコ・フランコ將軍は昨年一月まで參謀總長だつた人、轉じてカナリヤ駐屯司令官に左遷されてゐたものが蹶起するに至つたのである。フランコ將軍は生粋のスペイン人ではない。彼はガリシアの中産階級の家庭に生れ、本年四十六歳である。

彼は若くして故國を出でアフリカに放浪し、スペイン領モロッコの外人部隊に投じた。この外人部隊で軍人的訓練を受け、三十歳にして司令官に任ぜられた。常に馬上にあつてモロッコ土人相手の戰爭に從ひ、非常に勇敢であつた。

スペイン軍人の間に於けるフランコ將軍の人氣は素晴らしいもので、又土民軍組織の第一人者と謳はれてゐる。例の獨裁官リベラ將軍の時代には軍隊統率の點に於て偉功を立てた。

一九三一年の共和革命後はリベラの恩顧にも拘らず、彼は共和政府側に立つた。一九三四年十

月の有名なアスツクア叛亂の際は、彼は政府に献策してアフリカからモール外人部隊を引つぱつて來て、山地に據つて鑛夫軍を擊破した。

昨年二月總選擧の結果、左翼人民戰線内閣が樹立するや、彼は新政府からその保守的傾向を睨まれて、大西洋上のカナリヤ諸島の軍事總督に左遷された。今度の叛亂に際しては、このカナリア島から飛行機でモロッコへ飛んで來た。

もしスペインに反革命政府が成立するとすれば、先般殺されたステロがヒットラーとなり、彼はフランコ將軍がゲエーリングたるであらうと言はれた。

彼の弟ラモン・フランコ少佐は、有名な飛行家で、ヨーロッパから南米ブエノス・アイレスまで飛行した名譽の持主である。然るに皮肉にもラモン・フランコ少佐は人民戰線派の熱烈な闘士で、兄弟その抱懷する主義の相違から、死を賭して戰場に見えるとは、さすがに動亂スペインなればこそである。

全歐安危の鍵、ポーランド及新興二國

ポーランド

波蘭の獨立　極く近年まで、波蘭といへば先づドイツとソヴエイト聯邦との間に挾まれた小國と言ふ記憶しか與へなかつた程われ〳〵日本人には緣の遠い存在であつた。その波蘭がナチ・ドイツの出現後、急に擡頭し波瀾重疊、而も噴火山上にあると言はれてゐる歐洲政局のキヤスチング・ヴオートを握り、その一擧手一投足が直に歐洲の安危に關する場合があるので、波蘭は一躍世界視聽の的となつた。然らば如何にして波蘭が斯く注視されるやうになつたか。先づその建國と獨立の歷史を概述しよう。

この波蘭は一七九二年、三年、五年の三回に亘つてプロシア、オーストリー、ロシアの三國に分割され、獨立國としての存在を失つたのである。その後一八一五年に至つて、その一部ワルソーを首府として王國を建設し、ロシア皇帝を君主に戴いてロシア帝國の聯邦となつたが、一八三

〇年には完全にロシア帝國の治下に併合されたと言ふ過去を有してゐる。

然るに世界大戰の間隙に乘じて獨立運動が起り、ついでロシアの革命が勃發したので、獨立軍は完全にこれを自分の手中に納めてしまつた。而してこれが一九一九年六月のヴエルサイユ媾和條約に認められ、獨立國として承認され、こゝに波蘭國が再興したのであつた。

ピルツスキー將軍と義勇軍　恰度一九一四年の事、露獨の風雲急を告げるや、豫て波蘭の獨立を志して機の熟するのを待つてゐたピルスツキーは、まづ墺太利のクラコウに於て、波蘭義勇軍を組織し、自らその指揮官となつて露軍と戰ふため、露領波蘭に侵入した。それはオースタリーがロシアに對して宣戰を布告する直前のことであつた。尤も大戰勃發當時に於て、ポーランド人が民族自治權を享有してゐたのは、オーストリー領の若干にすぎなかつた。然しやがて露領波蘭は獨墺軍の侵略を受け、一九一五年の末には波蘭の全體は獨墺軍のために占領されるに至つたのである。

かくて一九一六年十一月、獨墺兩帝は波蘭國民を味方に引入れるために共同宣言を發して波蘭の獨立を承認し、更に一九一八年獨逸に革命が起つたゝめ、獨軍が波蘭領から撤退したのを機

會にして全波蘭は完全に獨立を宣言した。要するにロシアと獨逸に相次いで起つた革命は、長年これ等の接强國に分割されてゐた波蘭を、名實共に獨立國とさせたのである。乃ち四年十一月ピルツスキー將軍は、臨時最最執政官となり、國會を召集し、更に大戰終結と共に、前述の如く、ヴエルサイユ媾和條約によつて波蘭の獨立は認められたのである。

領土と面積　ヴエルサイユ條約と、露波兩國間に結ばれたリガ條約の結果、現在波蘭共和國の領土は左の如くなつたのである。

(1)舊露領ポーランドの一部

(2)舊墺領ポーランド。

(3)舊獨領ポーランドの一部。

(4)上部シレジアの一部。

(5)テツシエン、シレジアの一部及びズイツブス。

つまり一七七一年の波蘭は七十五萬粁平方の領土を有してゐたが、現在の波蘭領は約その半分に當る三十八萬八千三百二十八粁平方であるのだ。即ち面積に於て、ほゞ日本と等しい

領土を有してゐる。

三分の一は少數民族　最近の調査によると波蘭の人口は約三千萬と稱されてゐるが、そのうち約三分の二が波蘭人であつて、殘餘の一千萬人は數種の少數民族から成り立つてゐる。この少數民族中、最も多くの人口を有するのはウクライナ人であり、次はユダヤ人、ルテニア人、ドイツ人、リツアニア人、チエツコ人、ルアン人及びタタール人の順序である。

かく少數民族を包有することは、屢々國際關係に反映することは否み難い。波蘭に取つて少數民族問題は常に政治と、社會上の癌となつてゐるが、今後と雖も十分な解決を望むことは困難に思はれる。

頻々たる人種的葛藤　ヴエルサイユ條約によると、波蘭國內に於ける少數民族には平等の待遇を與へることが保證されてゐる。そのために現在ポーランド國內にある少數民族も一樣に言論、出版、結社の自由が與へられ、ドイツ人の多數居住するシレジア地方にあつては、一九二二年の併合以來、地方自治が確立されてゐる。他方教育機關についても、宗教團體に於ても、言語や信教の自由が與へられてゐる。

然し、避け難いのは人種的の葛藤である。殊に波蘭人とルテニア人の間に於ける鬪爭の如きは屢々繰返されて、未だに解決を見ない。これは小作農の全部がルテアニア人であると言ふためでもないが、地主が殆んどポーランド人である關係上、農地改革問題と絡んで人種的反感を一層強めてゐるのである。政府は農地改革によつてポーランド人及びルテニア人の小作農を、自作農として、地主の元から解放すると考へてゐる。が、地主派のポーランド人は、頑強にこれに反對しつゝあるのだ。この關係が屢々人種的反感となつて現はれるのである。またロシア人たるウクライナ人の中には、ロシア人の併合を希望するものもあり、少數民族の待遇に對する右翼國粹黨と自由主義政黨や、左翼政黨との間には、大なる意見の相違があるのだ。これが議會に於ける不斷の政治問題となつてゐる。前者は飽迄も大ポーランド主義を以て少數民族を統治しようとしてゐるが、これに反して後者は少數民族の自由承認を主張してゐる。ポーランド國内にユダヤ人の數が非常に多いのは、舊ポーランド王國がユダヤ人を寛大に迎へたゝめ、中世時代に會て壓迫をうけたユダヤ人が移住したのと、ロシア帝政々府がロシアのある地域には、ユダヤ人の居住を禁じてポーランド地方に移住せしめた結果であるが、今日ではポーランド人とユダヤ人との間に、

人種問題を惹き起すこと稀でない。

リツアニア、ラトウイア、ウクライナと言ふ風に、互に國境を接した地方に、少數民族が移住してゐる關係から、從來屢々少數民族問題から、隣接國との葛藤が頻發した。殊にソ聯邦や、リツアニア等とは、たえず爭ひが起つた。然し、現在では互に稍安定して武力に訴へるやうな事は少くなつた。だが、このポーランド國をめぐる列强の達引は機會ある毎に繰返されてゐるのだ。

必然的な親佛政策　新興ポーランドが前記の如くヴエルサイユ條約によつて建國が確立した以上、同國の外交はヴエルサイユ條約及び大使會議の決議を獲得した現狀を維持するのを建前としてゐる。從つてこれ等の條約を基礎に、國際關係を維持するためには、專らフランスを始め舊聯合國及び國際聯盟の支持を受けるのが當然である。ポーランドがフランスと特に深い關係を結び、財政、軍事、技術等に援助をうけ、陸軍は露、佛、伊に次ぐヨーロッパ第四位の大陸軍を建設することに成功したのも、かゝる關係に基因してゐるのだ。

然しフランスと親密になるに從つて、フランスの態度は次第に露骨となり、やがて自國の保護的色彩を掛けるばかりでなく、一方に於て赤露を牽制し、他方に於て獨逸を挾擊するための手先

の如く扱ふやうになつた。然し當時のポーランドにしては、獨立保證のためには、フランスの鼻息を窺つて、意志通りにするより他に方法はなかつたのである。

親獨への急旋回　フランスと親分乾分の關係を續けてゐる間は、ポーランドの存在は別に問題にはならなかつた。ところが、一九三四年二月突如ポーランドは獨逸に組し、十年間の獨波相互不可侵條約を締結して共同宣言を公布したので、忽ち歐洲政局は動搖を來し、さらでだにナチスの擡頭によつて列强が狼狽してゐた矢先であつたので、このポーランドの動向については多大の神經を集注するやうになつた。

フランスにして見れば、自分が指導援助したポーランドが、仇敵ドイツと握手したことは、實に飼犬に手を咬まれたのも同樣であり、一度びポーランドが脊を向けた以上、フランスの東部國境方面は最早安全と言ふことは出來なくなつた。かくてポーランドを中心に、獨、佛、露を結ぶ一線は、更に複雜化し、危機を增大したのである。

獨波のこの提携は噂に噂を生んで、ドイツはポーランドと攻守同盟を結んだとか、或は秘密協約を締結したとが喧傳されたが、その眞因はポーランドが長年待望してゐた自主外交を實際に現

はしたにすぎなかつたのだ。卽ち民族問題その他に絡んで、隣接諸國との間には常に紛爭絕えずその獨立さへ幾度か脅かされてゐた。この脅威さへなければ、否、本來なればかゝる時武力に訴へても、かゝる脅威を芟除して、現在の如き中間的存在を改め、大國ポーランドとして自主的外交をもつて進み、隣國と對等の地位に立つことが國民的野望であつたのだ。

ピルツスキーの長逝　元々ポーランドの獨立を指揮して、完全に統治實權を握つたピルツスキー元帥の外交政策は、フランスの羈絆から脫して自主外交を確立する點にあつた。彼がかねて心に描いてゐた時機は次第に迫りつゝあつたのである。恰度、一九三三年日本が國際聯盟を脫退した前後から、世界の情勢は赤馬燈の如く旋廻して行つた。その結果暴露されたのは、何れの國も內政外交に動搖を重ねて他を省る遑のないことであつた、從つて親分であつたフランスの睨みが利かず、聯盟の實力なるものも頗る稀薄となつてしまつた。

然しピルツスキー元帥が大決心をする迄には、勿論長い準備工作期のあつたことは言ふまでもない。民族、文化、經濟的に錯綜したポーランド內には、二十以上の小黨が分立し、政爭激甚を極め、國家の前途すら危惧された位である。この弊を打破すべく奮起したピルツスキーは一九二

六年五月一黨を引きつれて、ワルソーに乗り込み、クーデターを斷行し、政權を手中におさめて鋭意内治外交の充實につとめ、獨立政權の確立を期し、一九三五年四月遂に新憲法を制定したのである。

だが、この最中、ポーランドにとつて一大事が勃發した。それは四年五月突如ピルツスキー元帥が長逝したことである。ポーランドに於けるピルツスキー元帥の存在が大きかつたゞけに、同元帥の死は直にポーランド今後の向背如何といふ問題に轉化した。即ち故ピルツスキー元帥のとつた親獨政策なるものが、畢竟するところ自主外交の一手段である以上、今後國際政局の變轉につれて、如何にポーランドの外交が置き替へられるかは判らない。元々ポーランドは地理的、國際的に言つても、今後大國小國の間に伍してうまく掉さして行かねばならぬ苦心がある。かくてポーランドの向背は何れにしても歐洲政局に微妙な關係を有することゝなり、今後の動向こそ國際政局打診上、重大な問題になつてゐるのだ。

チエッコ・スロヴァキア

民族自決の理想遂行

スラヴ民族中、世界大戦以前ヨーロッパに國を建てたものが三ケ國あつた。即ちロシア、ブルガリア、セルビアである。然るに大戦後ポーランドが復活し、チエッコスロヴアキアが新たに興り、この二ケ國が合して五ケ國を算するに至つた。所謂民族自決の理想を比較的完全に遂行し、世界大戦の意義に最も合致した運命を打開したものは、これ等スラーヴ民族であると言つても差支へはない。だが獨りブルガリアは同族と繁榮を共にする事能はずヨーロッパの一隅に蹉跎してゐる所以は、世界大戦に獨墺側に加擔して戦敗の憂目を見たからである。

このチエッコスロヴアキアなる國名は、スラヴ民族の一支族であるチエック族と、スロヴアック族との兩人種の名稱を併せて造つたものである。元來チエック人とスロヴキア人とは殆んど區別し難く、言語の如きも方言的相違を認め得る程度のものにすぎないのである。

人種的分類と地理的觀察

いま同國の人口を人種的に分類すると、チエック人七百萬人、

ドイツ人三百五十萬人、スロヴァク人二百萬人、ハンガリー人六十六萬人、ルテーン人六十萬人ポーランド人二十五萬人の割合で、宛ら人種展覽會の如き觀があるが、同時にこれが新國家の弱點となつてゐるのだ。

一方、地理的に觀察すると、同國は舊オースタリーの領土ボヘミア、モラヴィア、シレジアの三州と舊ハンガリー王國の領土であつたスロヴァキア、ルテニアの二州から成り、これに舊獨領のフルチンと言ふ一地方を含まれてゐる。前記の獨逸人三百五十萬は大部分ボヘミアの西部及北部の國境附近と、モラヴィア及シレジアに住居し、ハンガリー人は大部分スロヴァキアの國境地方に蟠居してゐる。これ等他國人が國境附近に居住してゐることは、即ち機會ある毎に紛擾の原因になつてゐるのである。而して面積人口ともに朝鮮の約八割に相當する國であるが、人口の密度は歐洲に於て第七位を占めてゐるのだ。

平和條約尊重外交　凡そ一國の外交方針はその國の歷史に顧み、地理上の位置を考へ、經濟上の需要に應じて樹てられるべき運命にある。この意味に於てチェッコスロヴァキアは他の新興國と同樣、その獨立國としての存在そのものが、平和條約に基因してゐる關係上、平和條約

の尊重を外交方針の根本としてゐるのは當然のことであり、これによつて自國の安全を期してゐる。

この點に於て最も利害を一にするものは大國としてはフランス、小國としてはベルギー、ポーランド、ルーマニア、ユーゴースラヴィアがある。殊にフランスとの親善關係は顯著な事實であつて、常に相提携して國際政局にのぞみ、單に對獨問題のみならず、一般歐洲問題に對しても、絕えず歩調を一にしてゐるのは、主として右の理由よにるからだ。

洪牙利その他との關係　洪牙利との關係は、チェッコスロヴァキアの外交上の難礁とされてゐる。その原因は寧ろ感情上の問題であるが、同時に洪牙利側に、平和條約による新事態を認めない國粹黨の存立することもまた、その一因である。即ち洪牙利は戰敗の結果、國土の三分の二を奪ひ去られた。而してこれを割取したのは、チェッコスロヴァキアとユーゴースラヴィアとルーマニアの三ケ國であるから、自然洪牙利に於ける國粹黨の領土回復運動は、これ等の三ケ國を目指して働きかけるのは當然である。三ケ國もその割取した領土を奪還されないやうに、相携へて洪牙利を目標として攻守同盟を結んでゐるのである。

然らば、同民族であり、新興國波蘭との關係は如何。兩國の關係は現在、表面では格別利害相反する問題は見當らないが、而も裏面では決して圓滿ではない。その理由は、主として兩國の國民的思想及感情が合致しないことに基因してゐる。一方、オースタリーとの關係は、先方が無力であるがために、比較的平穩であるのみならず、元來兩國の關係は、一のものを二分した關係にあるので、社會上經濟上離るべからざる間柄にあり、所謂共存共榮の立場にある。即ち嘗てオーストリーの財政的援助をしたこともあり、兩國の間は、現在相反する現象を見ないのである。

ユーゴー・スラヴィア

七ケ國に隣接する高原國

一九二九年十月三日、バルカンの新興國セルブ・クロアート・スローヴエンヌ王國は、その正式國名を、ユーゴースラヴィア王國と改定した。この新興國は、アドリア海を挾んでイタリアに面し、廣袤九萬六千百三十四平方哩、位置は東から北にかけてオーストリー、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリアに接し、南はアルバニア及びギリシアに境

し、實に七ケ國に隣接する國家である。而して面積から見れば、我が國の本州に四國を加へたものより稍大である。

地勢はバルカンの特徴たる高原地帶であり、荒漠たる山岳は、國内の各所に入り亂れてゐる關係で、文化は著しく遲れ、ある場所では前世紀の遺物さへも發見される位である。

人種と宗教

ユーゴースラヴィアの新國稱は南方スラヴ民族の大集團を意味したもので、勿論この中にはスラヴ民族の種々なものが織り込まれてゐる。即ちその代表的のものはセムブ・クロアチア族であつて、この外にモンチネグロ、スローヴアニア、ボスニア、ヘルツエゴヴィナ、ダルマチア族の七種族から成つてゐるのである。人口約一千三百萬、宗教の主なるものは、オーソドツクス教、ローマ・カトリツク教、ギリシヤ・カトリツク教、新教、回教、猶太教等であり大體に於て同國民の信教の傾向が窺はれるのである。

建國までの歴史

このユーゴースラヴィア王國建設の跡をたづねるには、是非前身たるセルビアの過去を尋ね、更にスラヴ人南下の昔を顧みなければならない。

元來バルカン・スラヴの發生は古代に溯る。慓悍なスラヴがバルカンの地に南下し、これに

蒙古族を混じてブルガリア人を形成した。後ブルガリアと更にローマとの虚に乗じ、十四世紀の頃英君ステファン・ヅーシャンによつて、セルビヤはバルカン半島の大部分を平定してしまつたのである。

即ちセルビヤが國民的歴史を有するに至つたのは、ネマンヤ朝の勃興によつて基礎づけられた。然しその後幾變遷があり、遂に一四五八年セルビヤ帝ブラゴビツクの死によつて全くトルコに併合されてしまつた。

かくて獨立を奪はれること三百五十年、所謂暗黒時代を現出したのである。

ロシアの南下とセルビヤの獨立　然るに十八世紀に入つて、ロシアが南下し、バルカンの風波は漸く繁く、種々なる事端を發生したが、一八七五年露土戰爭の結果、セルビアは獨立した。

然るに一九〇八年に至つて墺匈國はボスニア、ヘルがゴヴィナを併合してしまつたが、この兩州併合は、セルビアにとつて非常な苦痛であつたのだ。何故かと言ふに、それはセルビアに於ける汎スラヴ主義の頓挫となるからであり、一方墺匈國の兩州併合は汎ゲルマン主義の現はれで

あり、この二大主義が後に至つて、世界大戰の主因となつたのである。

サラエボの狙撃事件　かくて汎ゲルマン主義の代表たる墺匈國は、汎スラヴ主義の前衛たるセルビアを挫くため、一九一四年六月、ボスニアの野に於て、セルビアを假裝敵とする機動演習を行ふことになつたが、同月二十八日、ボスニアの主都サラエボの停車場に於て、セルビヤの一青年の投じた一發の爆彈が何を招來したか、今更言ふまでもない。

かくて大戰の當初、セルビヤは墺匈軍のため首都ベルグラードを失ひ、更に一九一五年には墺匈軍に蹂躙されて、全くその國を失つてしまつたのだ。

然し大戰終結後の一九一八年十二月、南スラヴ民族は新興國家の形態の下に、失つたものを取戻した。

だがこの新國家は、舊セルビヤの復活でないことに注意しなければならぬ。それは實にブルガリア人を除く南スラヴ族綜合の、一大民族的國家として獨立したのである。

第二歐洲大戰の根源地　南スラヴ民族は獨立した。然しユーゴースラヴィア國は歐洲の危險地として絶えず警戒されてゐるのだ。

一九三〇年十月、ハンガリア國境協定委員會副長テイ・エツクハルト博士は、第二歐洲大戰を豫言して曰く、

「一九三九年までに第二歐洲大戰は、最早避けることは出來ない。その最初の火蓋はユーゴースラヴィアに於て切られるであらう。かくて歐洲は嘗ての大戰以上の慘禍を蒙ることを覺悟しなければならぬ」と、如何なる根據に論證を有するか、それは民族自決が徹底的に、且つ公正に行はれなかつたことを暗示するものと思はれる。

この豫言の適中すると否とは別問題として、如何にユーゴースラヴィアの地位が、歐洲の平和に關聯してゐるかを物語るものでなければならぬ。それは當國建設以來の發達の跡を顧みれば肯くことが出來よう。

イタリアとの關係

ユーゴースラヴィアが建國當時難局に立つたのは、對イタリア問題であつた。元來イタリアは當國にとつて舊敵であつたのだ。卽ちイタリアは一葦帶水のバルカン西部、殊にアルバニアに、政治的經濟的地帶を得ようとしてゐた。これに對してユーゴースラヴィアはイタリアのバルカン進出に反對し、極度に警戒を加へてゐたのだ。當時フユーメ附近の

境界事件もその一例であつたが、その後一九二四年一月のローマに於ける協約の成成によつて、兩國の國際關係は著しく改善されたのであつた。

この協約によつて、イタリヤは新興ユーゴースラヴィアを墺匈國同樣軍事的强敵となさず、バルカン半島に於て自己の勢力を妨害するものとの危惧を解消すると同時に、ユーゴースラヴィアも、假令ヒユーメを失つても、これによつて不斷にイタリアを警戒し、これと紛爭を續ける苦しさから逃れることが出來たのだ。

尙ほ、バルカン諸國に於ける紛爭と情勢に關しては、次の章に於て述べることゝしよう。

歐洲の地震帶バルカン諸國

國際政局の發火點バルカン

列强野望の好餌バルカン　バルカンが歐洲政局の癌と言はれ、颱風の中心と稱されてゐるのはバルカンに於ける民族の自由解放の闘爭に乘じて、歐洲列强が自己の勢力を伸展せんとする舞臺に使用した爲めであつて、列强がこの地に勢力を競ふのは、バルカンそのものゝ人文的、地理的條件が然らしめたものに外ならない。

民族主義と自由思想とは、土耳其の版圖内に住む基督敎徒白人種をして、民族としての獨立自由を求め、異敎徒異人種たるオツトマン土耳古を歐洲より驅逐する運動を起した。かくてバルカンの基督敎徒は、自己の解放運動に當り歐洲列强の支援の下に回敎主の羈絆を脱することが出來たが、これの解放に努力した列强は、土耳古の勢力を殺ぐ一方、バルカン地方に自己の覇權を擴張しようとして爪を磨ぐことを怠らなかつた。

その意味で、土耳古驅逐は必ずしも自由精神の十字軍的熱情に驅られた行動と見ることは出來ない。

このバルカンに於ける諸種の問題は、少數諸民族の間に繰返されてゐる自由獲得の惡戰苦闘に胚胎してゐるが、それ以上重視された問題は、地中海の海上權掌握と、近東及び中東に通ずる西部亞細亞に對する列强の爭覇である。これ等は現在に於ても依然として歐洲政治家の看過し得ない問題として殘されてゐる。

況んやバルカン諸國の向背如何が、これ等重要の懸案を解決する鍵となつてゐる以上、彼等は到底バルカンに對して無頓着であり得ない。これバルカンが歐洲の地震帶である所以なのだ。

バルカンの地勢　このバルカンは、ヨーロッパの東南尖端が、小アジアと握手し、黑海とアドリア海とを隔てゝゐる部分を總稱してゐたが、多島海から北へ溯つてどの地點までを指すのか、今まで明示したものはなかつた。

大體ダニューブ河の下流から南の部分に對して名付けられたものであるが、現在ではユーゴースラヴィア、ルーマニア以南の土地をバルカンと總稱するのが妥當ではないかと思はれる。

このバルカンは、地理的に見ても各種の山脈河川が交錯し、殆んど地形上、中心となるべき場所が存在しない。從つて未だ曾てバルカンを統一した大國なるものは成立しない。これがために各地方に小民族が割據して互に爭ふ結果になつたのである。

バルカンの諸民族　現在バルカン半島にある民族は、大體六種族を數へられてゐる。卽ちアルバニア人、希臘人、セルビヤ人、ブルリガリア人、トルコ人、ルーマニア人である。尤もこれ等の新民族と離も互に交錯して明確な區別を下すことは出來ないが、歐洲大戰以來の新境界を基礎として、所謂民族交換の方法により、少數民族はそれぞれ同種族國內に移動したゝめ、現在に於ては稍明白に人種的區分を定めることが出來るやうになつたのだ。

勿論バルカンの諸民族は前記の通り多少とも混血雜種であつて、イタリーの南部に見る如き、長顱頭の地中海人種、または北部に多い圓顱頭のアルプス人種も多少は發見される。然しその大部分は南スラヴ族、希臘人、ルーマニア人並にウラル人、アルタイ系のアジア人である。

精悍なるアルバニア人　アルバニアに居住するアルバニア人は、希臘人と共に、バルカン半島に於ける最も古い人種であつて、而も最も文化の恩澤に浴することの少い人種である。彼等

は現在約百萬の人口を有し、概して軀幹長大、且つ臂力に秀れてゐるために、古來以來トルコの傭兵として頗る尊重された。

アルバニア人の多くは牧畜に從事し、綿羊と山羊を飼つてゐるために、農業は寧ろ第二位となつてゐる。かく中世の姿にあるアルバニアも、歐洲大戰以後イタリヤの勢力の下に、次第に道路を開き、學校を建て、衞生事業を普及したゝめ、近年次第に國內の產業も振興して來た。

希臘民族の特長　現在バルカンにある希臘民族が、上古の希臘の純粹の子孫であるか否かについては議論も多い。

勿論上下二千年の歷史を有するこの半島に於て、幾多の種族が混淆したことは否定されぬ事實であるが、近代希臘が今もつて傳統的な文學を有し、整つた言語を使用してゐることは、古い希臘の傳統を偲ばせるものであつて、バルカン民族中の出色なるものである。

これ等希臘人の特長は、地中海から黑海に亘る通商貿易を開拓した點にあつて、現在に於ても地中海を中心とした希臘商人の地位は、可成り堅固なものである。從つてこの方面に於ける通商交通から見た希臘語の普及は、相當廣範圍に亘つてゐるばかりでなく、コンスタンチノープルに

ある希臘正教の本山が、最近までバルカン、近東の正教會を指揮した關係から、この方面の教權を左右し、異人種に對する希臘化の運動は輕視すべからざるものがあるのだ。

かく希臘人は古來海岸に定着し、四海を家としてゐる人種であつたゝめ、農牧には優れてゐなかつた。彼等は專ら商工業、航海業を便りとする種族であつた。

セルビア人とブルガリア人　バルカンに於て最も有力な民族は、何と言つても南スラヴ人種であつて、セルビヤ人とブルガリア人とがこれに屬してゐる。これ等は言ふ迄もなくスラヴ族の南下によつて定着した種族であつて、共に農業を主としてゐたが、性格に於ても、傳統に於ても、社會生活に於ても異つたものを持つてゐる。

且つ古來屢々政治的にも爭鬪が絶へなかつた。現在に於ても、犬猿の間柄たることは變りはなく、同じ南スラヴ族でありながら、融和し得ない運命に置かれてゐるのだ。

その他混血人種としてのルーマニア人も、バルカンには侮り難い勢力を有してゐる。

バルカン各國の面積　このバルカンも世界大戰を轉機として、大なる政治的地理的變動を來した。

曾て半島の主人公であつたトルコは驅逐され、それに代つて新興國家が不完全ながらも民族的統一を遂行し、目下鋭意庶政の革新に努力中である。

このうちセルビヤが形態を變へたユーゴースラヴィアは大戰後一擧にして面積九萬六千百三十四平方哩、人口千三百萬を超ゆる大國となつた。だがバルカン最大の國家は、ルーマニアであつて、總面積十二萬二千三百平方哩、人口千七百萬を包有してゐる。ルーマニアの膨脹は主として大戰の條約によつて得た新版圖、即ちトランス・シルヴァニアとベツサラビアと、ドブルヂアの加つた結果である。

これに反してブルガリアは大戰後著しく領土を失つて僅かに三萬九千八百平方哩、人口約五百萬の小國に轉落した。

ギリシアはこれを比較すると稍大きく、面積四萬九千平方哩、人口六百萬を數へ、アルバニア王國に至つては、バルカン中、最小の國家であつて、人文の進歩に於ても遙かに遲れてゐる。而して面積一萬七千平方哩の地に、人口僅か八十三萬を包容してゐるにすぎないのだ。

惱み多きバルカン諸國の內政

人種的不和のユーゴースラヴィア國

以上述べた如く、バルカン諸國は複雜な人種宗教の關係と、建國以來古きものと離も百年、新興國は僅か二十年の歲月を經たにすぎないから、思想的にも、經濟的にも、國民的統一の脆弱なることを免れない。殊に現在の國境なるものは、或るものは不自然に狹められ、あるものは同化に困難な異種族を包含してゐるから、他日國際的暴風に遭遇すれば、忽ち動搖するのは必至である。

かゝる外交上の危險は別としても、內政上、これ等の國家は幾多の困難を控へ、これが反映して一層の不安を增大しつゝあるのだ。

先づ第一に述べなければならぬのはユーゴースラヴィアである。同國については、前章の新興國の項目にも記したが、バルカンを總括的に述べるに際しては、再びこれを取上げなければならぬ。

同國は墺匈帝國の崩壞によつて、年來の宿望たるクロアチア人とスロヴェニア人の同族を併せ

一躍大國となつたが、この二種族は永くウィンナの文化の下にあり、且つ最も歐化したカトリック教徒の國であるから、舊セルビヤ住民との間には、可なり融和し難い點を持つてゐるのだ。宗教及文化は第二段としても、法律、稅法、司法組織、教育制度、行政機關の運用等は、新國家の成立と共に大部分セルビヤ式に改正された。

元來、セルビヤの政治中心は軍閥に偏重し、これを支持するものはセルビヤの急進黨であつたから、新國家の立法、行政が、セルビヤ本位の中央集權に傾くのも當然の勢である。これが新附の民衆は多大の失望と怨嗟とを與へたのである。

玆に於て建國以來革新派の急先鋒として政界を騷がしたステファン・ラヂツクはクロアチアの農民の鬱勃たる不滿を代表して、大セルビヤ主義に反抗したのだ。もと〳〵ユーゴースラヴィアの民衆に立憲政治の運用に十分の訓練を經てゐないが、有識階級の政治熱は、他の歐洲諸國に比べても劣らない程熾烈である。

それがために過去十六年の經驗は、議會政治の能率が甚だしく低劣であることを如實に示してゐる。殊に一九二八年に起つた議會の流血騷ぎは、一層クロアチア人の反抗を刺戟し、ク州自治

運動の口火を切るに至つた。

勿論この國は純然たる農業國であり、然も大地主は極めて少數に制限されてゐるから、革命の危險は頗る稀薄であるが、終始政情の不安に鑑み、遂に國王は一九三〇年以來、議會政治を中止して、武人中心の專制政治さへも行ふ決心をしたのである。而も新國家の建設者として、我が國維新の元勳にも比すべきパシッチも歿した今日多事なる社稷の柱石となる政治家は未だに現はれて來ない。ユーゴースラヴィアの前途は尙多難なりと言ふべきである。

動搖するルーマニアの政情　一方ルーマニアを見ると、この國もまたユーゴースラヴィアに劣らない程內政上の混亂が引續いて行はれてゐる。大戰後、多事なるルーマニア政局を擔當した政治家はヂャン・ブラチアヌーであつた。

ブラチアヌーの率ゐる自由黨は、過去七十年間ルーマニアの運命を左右したものであつて、これは大地主貴族に反抗する新ブルヂョアジーの結成した政黨であつたのだ。この間政界の大勢は次第に貴族、保守黨に不利に、自由黨に有利に展開された。

大戰後に於ける普選の斷行と、新たに合併した諸州の勢力とは、政界の分野を全然一新するこ

とゝなつた。

新興の政黨中最も有力なのは國民農民黨であつて、その中心をなすものはヂエール・マニウの率ゐるトランス・シルヴァニア派であつた。農民黨が自由黨政治家を非難する理由は、表面上議院政治に名をかりて、事實、言論集合の自由を奪ひ、選擧の公正に干涉し、あまつさへ國內の政商と結托して、國有または商業化の名義により、鑛山、油田を國有とし、大企業を政府の管理下におさめ、金融、交通の諸機關を自己一味の手に左右するに至つたのである。その結果は工業保護のために農村を犧牲にし、專賣事業と高率の關稅障壁によつて、物價の暴騰を招來し、金利を高くし、國民の生活を困難ならしめ、その間に乘じて一味徒黨は私利を營み、政界を極度に腐敗に引き込んだ。

大ブラチアヌーの死と政界の昏迷　かゝる間に國王フェルヂナンドは一九二七年七月崩御し、王位を繼いたのは僅か五歲の皇孫であつた、

恰も同年十一月大政治家ブラチアヌーは病歿して、自由黨はその柱石を失つた。後繼內閣は實弟のヴィンチラ・ブラチアヌーを首班としたが、到底亡兄の比ではなかつた。それ以後のルーマ

ニア政界は間斷なき動搖を繰返しつゝ今日に至つてゐるのだ。

それのみならず、ルーマニアは大戰中敵軍占領の辛酸を嘗め、國庫金も正貨も悉くロシアに掠奪され、新たに國運を開拓すべき時期に這入つて舊ルーブル貨クローネ紙幣の洪水を一掃しなければならぬ難局に直面し、財政上の困難は實に他の想像を許さない位である。

更に國內各地に散在する多數の異人種、即ち百七十萬のハンガリー人、百十萬のドイツ人、百萬のユダヤ人、八十萬の小ロシア人、二十五萬のブルガリア人を加へると、人口總數千七百五十萬に對して異人種の數は千百萬の多數に上り、これ等少數民族を如何に融和統一すべきかは、ルーマニアの當面する大なる試練となつてゐるのだ。

數奇の運命を辿るギリシヤ

ルーマニアやユーゴースラヴィアに比較して、更に數奇な運命を辿つたものは希臘である。

十五年の昔、ギリシヤはダーダネルスの主人公であり、小亞細亞の一角（スミルナ附近）を領して隱然多島海の覇王の觀があつた。コンスタンチン王は恐らく眼下にコンスタンチノープルの都を眺めて、ビザン帝國再建を夢見てゐたことであらう。

ところが一九二一年、ロイド・ジョージの近東政策の前衛となつて、當時小亞細亞に旗揚げしたトルコ國民黨を討伐するために、國內の精兵をスミルナ港に引揚げ、一舉にアンゴラを屠らんとした。

然し翌年の秋、決戰に敗れて二十萬の陸兵が潰走したばかりでなく、小亞細亞とスレース方面に定住してゐたギリシヤ系の市民は、身を以て母國に避難する結果となつた。

敗戰後の混亂

敗報一度び首都アテネに達すると間もなく、陸軍の一部は叛旗を飜して共和政府を建て、人心の不安は極度に達した。

一九二三年のローザンヌ平初條約は、新ギリシヤ敗慘を永久の歷史に殘し、スミルナも、東スレースも土耳古人の手に奪回されてしまつた。

その上、當時これ等の地方から母國に逃れて來たギリシヤ人は百五才萬を超えたが、新共和國政府は、これ等の不幸な同胞を收容すべき場所と、生命を繋ぐ食糧と衣服の支給に、多大の困難を感じたのである。

國內人口の二割五分にも相當する避難民の善後處分は、ギリシヤ社會、政治財政に多大の影響

を與へずには措かなかつた。

寧日なき內治外交　過去二十年に亘る數回の戰爭の後をうけ、社會的變動に伴ふ人心の動搖に處してギリシヤ政府が、如何に多くの惱みを經驗したかは、想像に難くない。內には王黨と共和黨との對立があり、共產主義の暗躍、財政の窮乏は社會的不安を激成する結果となつた。而も眼を一度外に轉ずれば、アルバニア、伊太利との關係並にブルガリア、ユーゴースラヴィアとの懸案、トルコとの難關等、爲政者をして內政のみに全力を傾注する隙をなからしめた。

ギリシヤ最近の政局が、クーデター、暴動、政變の連續の如き感あつたのは、實にこれ等不安動搖の反映であつて、我らは寧ろこれに對して同情と雅量を以てのぞむべきであらう。況んや政府は、この間に處して、百五十萬の避難民に職業を與へ、過去十年間に數百の工場を起し、貨幣を安定し、財政を整理し、外交の難關を解決したのを見ると、その政治的能力は決して蔑視することは出來ない。

列强の對バルカン外交

伊太利の積極政策　一九三〇年イタリーの鐵血宰相ムツソリーニは、ファシスト大會に於て內治外交に關する演說を試みて、その中には、伊太利のバルカン及び近東に對する抱負が示されてゐる。

即ち彼はイタリー近東政策は自國の死活の鍵となるもので、最早東方以外、イタリーは絕對に手足を伸すことは出來ない、と述べてゐる。言ふまでもなくイタリーは土地狹隘であり、且つ人口も多く、天然の資源にも乏しいために、專ら商工業と海外貿易によつて、將來の活路を見出さなけならぬ。

然るに世界の市場は、既に大國英米佛等によつて占有され、イタリーとして割込む餘地が殆んどない。たゞアドリヤ海の對岸と東地中海の沿岸は、イタリーの經濟的發展に最も適した土地である。

乃ち大戰の結果バルカン及近東に於ける獨墺兩國の勢力減退を機會としてイタリー政府の東方

政策は積極化して來たのだ。

アドリア海の制海權掌握　イタリーの東方進出は單に經濟的發展といふ限られた範圍のみに止まらず、更に多くの政治的活動をも含んでゐるのである。國防上の問題としては、アドリアチック海の制海權を完全に掌握することであり、また地中海に於てフランスに對抗するだけの海軍力を持つ希望も放棄することは出來ない。

政治的には、東方國境に横はるユーゴースラヴィアに對抗するためには、ギリシヤ、トルコと親善關係を結ぶことである。ムッソリニーの演說中、バルカン及近東問題は、イタリーの死活の岐れる處であると聲明したのは、如上の見地から發せられたものである。

英國の交通路掩護政策　次に英國は政治的、軍事的に近東に於て何を求めるか。一言にして言へば、それは印度、アジヤ、濠洲に對する通路の安全を求めてゐるのである。ジブラルタル――マルタ――スエズの要地を占據してゐる英國は、現在地中海の制海權を完全に手中に納めてゐる。だが、これを側面より脅かすものは、曾てコンスタンチノープルに君臨してオットマン帝國であり、その背後には黑海を獨占する露國があつた。

クリミヤ戰爭に於て、英國がフランスと共に露國を攻擊したのは、黑海からボスフォラス、ダーダネルス海峽を突破して地中海に進出しようとする露西亞の勢力を、黑海內に封じ込むためであつたのだ。

その他大戰中（一九一五年）土耳古を屬領扱ひにして、バグダットに突進せんとするドイツを押へるため、今度はロシアと密約を結ぶ等、英國の態度は頗る公正を缺いてゐたが、これ等は何れも同一の動機に出發してゐるのである。

然るにローザンヌ平和條約によつて、近東問題は明らかに英國にとつて有利に展開した。君府海峽は依然トルコの掌中に握られてはゐるが、海峽條約の定めた海峽の自由通航制度、海峽の武裝解除の規定は、他日必要に應じて地中海艦隊を黑海の岸にまで出動せしめることを保障したものであり、スエズ運河の岸もペルシヤ灣の海も、共に英國勢力の下に置かれることになつたから、英國としては最早直接自國に緊密な利益に關係のないバルカン問題に對して、深入りすることを避けてゐるのである。

フランスの勢力均衡政策　地中海の海上權力の問題ばかりでなく、ライン河より迫る

壓力を牽制するために、フランスは今なほ勢力均衡の外交政策を捨てることが出來ない、獨、墺匈の三國をして中央ヨーロッパに覇を爲さしめたいために、或はイタリーの壓力を牽制せんがために、フランスは平和會議直後、バルカンの小協商國（チェック、ユーゴースラヴィア、ルーマニア、及ポーランドを準備會員なる地位に置いてゐる）の上に隱然盟主として臨んだ。これ等小協商國は、主として平和條約を嚴守することを目的としてゐるものであるから、オースタリー、ハンガリー、ブルガリア等の戰敗國に對抗して條約違行を監視してゐるばかりでなく、フランスの氣息を窺ふのは當然である。

かくて、フランスはバルカンに比較的信頼すべき友邦を持つてゐるが、その主眼とするところは、現狀維持、勢力均衡を背景とする政策であつて、伊太利の稍侵略的色彩を帶びたのと比較すると、著しく有利な立場にある。

而してフランスは單に外交上、威方を以て扶けること以外に、通貨安定のために資金を供給し、海陸軍の指導將校を派遣し、武器を供給する等の、物質的援助をも敢てしてゐるのだ。

以上概述した如く、大戰前バルカンの指導的地位にあつた國と言へば、露、墺、匈の三帝國で

あつた。

露國は隱然バルカンの保護者の地位に立つて南スラヴを庇護し、墺匈國は南スラヴを粉碎することを自己生存上の必要と認め、過去半世紀に亙つて、露國と相爭つて來たものである。この二國の勢力は、バルカン外交戰の現狀に於ては、殆んど計算に入れ得ない程微弱なものとなつたがこれに代るべき大勢力は現はれない。それだけに、またバルカンが列强の野望の的ともなる所以でもあるのだ。

國際急迫情勢篇

列強の動靜

世紀の動きを凝視せよ

地球上歴史の一頁　我々人類の棲む地球は一定の規律をもつて自轉、公轉の軌道を正しく繰返して、恒久の回轉を瞬時も休めない。それと同樣に、地球上の人類の歴史も流轉永世の營みを刻みつゝあるが、そこには、しかし、人類の國家社會の端睨し難い變轉萬華の態樣がある。

世紀は斯くして、間斷なく移動しつゝあるのだ。我々は文明人の義務として、この世紀の動きを凝視めなければならない。

諸君は曩に、この書の世界列强勃興篇に於て、靜止せる過去の世紀の姿に、觸れることが出來た。更に、これから現在地球上歴史の一頁を繙く必要があらう。

列强蟠居の姿勢　現在世界の全貌を窺はうとするならば、勢ひ各大陸に蟠踞する列强國の動靜

に視點を据えるのが最も妥當捷徑であらうと思ふ。

今や一望してみるに、危殆を孕む歐洲の天地には、ナチズム・爆彈ドイツのヒットラーの獅子吼が黑雲を呼び、ファッシズム・イタリーのムッソリーニが鐵腕を打振つて、共に反共產主義の大旗を掲げてこれに應じ、一方、西歐と東洋に跨つた巨大な怪物赤色ソヴイエト・ロシヤは、共產主義の祖國として爪牙を磨いてゐ、これに近い革命民主々義國のフランスが、人民戰線派の反ファッショを標榜して獨伊に反撥の氣勢を示してゐる。更に、海峽を隔てたイギリスも、自由主義の傳統に立脚して八面六臂の暗躍を續け、大西洋を越えた對岸のアメリカは、獨自な資本主義的民主國家として、夙に汎米同盟を結成しつゝあるし、東洋は又東洋で、日支間の軋轢を中心に颶風の無氣味な渦紋を描いてゐるといふ情勢である。

されば、これ等の錯雜紛糾せる微妙な國際情勢を展開叙述するに當つて、先づ世界列强國の政治、外交、經濟等の各國原動力の赤裸々な現狀の核心に觸れること、即ち現在各國の國勢事情にペンを走らせねばならない。博識な讀者諸君に執つては、少しく煩瑣にすぎて、肩の凝る嫌ひがあるかも知れないが、暫く辛棒して、この項を讀んで戴きたいことを切に希望するものである。

自由主義と傳統政治

英國の新政治樣式　英國人は立憲主義を根柢とする政治と常識の發達してゐる點で、自ら世界隨一と信じてゐる。この自負心の强い英國の自由主義の傳統を誇るイギリス支配階級は、世界的經濟恐慌の旋風に抗しかねて、遂に一九三一年秋の金本位制放棄といふ大手術を斷行し、それ以來の經濟的變化の結果、漸進的に新政治樣式の結成を企てゝ來てゐる。

それは先づ分裂したブルジョア諸政黨が、保守黨の重工業金融資本家ボールドウインを首班に仰いで、右翼擧國一致政府の組織を完成强化して行つた。即ち三八四名の議員を有する保守黨を支持して、自由黨からは國民自由黨を率ゐるサイモン、ランシマン等の三二名、勞働黨からは國民勞働黨を名乘るマクドナルド一派の八名が參加し、他に國民黨二名、中立一名を加へた四二七名の絕對多數を下院に占め、英國議會を動かす最大勢力を把持して、統制政治に乘り出して來たのである。

由來、立憲政治は國民の選良である國會議員の多數決をもつて採擇せられるのであるが、政府黨以外に一五五名の勞働黨、一七名の自由黨、獨立勞働黨の四名、共產黨一名、無所屬四名等の他に、ロイドジョーデの獨立自由黨があるが、これは事ごとにドイツ支持を主張するファツシズム色彩の濃いものである。このやうに小數の反對黨では、事實上政府黨に齒が立たないわけであらう。

斯くして、保守黨政府樹立の一九三一年以來、英國政權は幾多の法令によつて、傳統的自由主義憲法に制限を加へて、新政治樣式——ファツジズム政治を行つてゐるのである。

ファツシズムの潮流　ドイツ、イタリーに發生したファツシズム運動は、ドーヴアー海峽を渡つてイギリスにも傳播して、總紳士のイングランド魂の血潮を沸きたゝせずには置かなかつた。

その優勢なものに保守黨ブロックといふのがある。金融、重工業資本の政黨である保守黨內にソルズベリ卿、チヤーチル、テイラー提督をはじめ、スチユーワード・ロイド重工業會社のロイド卿、新聞界ではデイリー・メール紙のロザーミイア卿、デイリー・エクスプレス紙のビーヴアー

ブルツク等を中心に集結する一派があつて、ナチ的鐵血獨裁政治を要求してゐる。

この一派が同じ保守黨ボールドウイン政府に慊らず、ファツショ的氣勢を示めして動きつゝあるのには、時世とゝもに進展して來た大きな原因がある。

イギリスのインドその他に於ける植民地、半植民地に對する行政振りは、過去のもの凄じい壓制はいふに及ばず、現在も猶相當に彼等植民地民衆の反抗をかつてゐるが、それはとりも直さず石油、重工業、金融資本に結ばれた一聯の英國支配階級の最大の敵であるから、「若き保守黨ブロツク」は强權政治、政策をもつて、更に彼等を押へやうとする意圖のもとに、逞しい政治を要望して動いてゐるのである。

ファツシスト・モズリー　イギリス・ファツシストの最も尖鋭的なものに、モズリー運動といふのがある。

ランカシヤーの富農の家に生れ、もと軍籍にあつて保守黨員であつたオスワルド・モズリー卿は、一九二四年に勞働黨に加入した時の勞働黨內閣に列したが、一九三〇年五月、この國でひどくやかましい失業救濟法が政府の財政を破綻に導きつゝあること、更に政府が既に失業救濟能力

のないことを議會で堂々演說して、これを勞働大會に訴へたほどの熱血漢であつた。

次いで一九三〇年十一月、モズリー卿は十七名の同志と共に、イギリスの獨立と資本主義改造を目論だ覺書を發表した。その內容は、五人の獨裁大臣によつて政治を運用し、議會を統制すること、輸出入の管理案、重要產業の補助、資本家と勞働者の協調に據る各種の評議會等、等、一ツのファッシスト的文書であつたが、署名者中に保守黨首領の子息エッチ。オー。ボールドウインや富豪の名が見えた。

モズリー卿は一九二一年にドイツのヒツトラーに接近してその主義に共鳴し、三二年にはイクリーのムツソリーニと會見して愈々その志を堅くして、同年九月には「英國ファッシスト同盟」を組織するに到つた。續いて黑シャツを着た軍隊組織の「防衛團」を設けて、先輩ファッショの眞似をして暴力沙汰を始め、一九三四年六月には大々的に共產黨員を襲擊するまでになつた。しかし、これは有名は民主國の市民の激昂をかつて、凡そ十五萬人からのの市民の反ファッシスト大示威を惹き起こしたほどである。

ファッシスト。モズリー派の同盟員は約二萬位人で、黑シャツ隊は半軍事組織である。幹部に

は舊勞働黨系の人物や、海軍將校ヅングス、陸軍士官キンス等があつて、その構成分子は陸海軍將校、貴族の子弟、官公吏、小商人、失業者、ルンペン、ランカシヤの勞働者等の各階級を網羅した玉石混淆である。宣傳機關紙はファッシスト。ウイク、黑シヤツ隊員紙があつて、このモズリー運動の背後には、千萬長者ロザーシア卿、海運業者インチケーフ卿、石油王デターデング、人絹工場主クルト伯、自動車工場主ネツフィールド卿、航空機工場主ローエ等の他に、ロンドンマーキュリー紙のスクウエアを會長とする「一月クラブ」——メンバアはロイド卿、フーソ將軍グレンフエル銀行のロツドをはじめ金融界、外交官、軍部の上層幹部を含めてゐる貴族的ファッシスト機關等の支持應援がある。

ロザーミア卿の息のかゝつてゐるディリー。メール紙も、このモズリー運動の機關紙の役目をつとめてゐるが、ファッシスト。モズリーは次第に大を成して、他の國民團體——ブレクニイ將軍とアームストロング海軍中將の「英國ファッシスト團」、リーズ將軍の「帝國ファッシスト同盟」「合同帝國ファッシスト黨」等を解消合流せしめたといふ。

猶、この他に「スコツトラント。ファシスト民主黨」があるが、更に「若き保守黨グループ」

のチャーチル、チェンバーレンG等が「新中央黨」を組織して、「平和確立の國際的協力」に乘出すといふ計畫が、一九三六年十一月に傳へられてゐる。これは有力なファシスト團體と成るであらう。

自由主義の敵は？ 英國の自由黨の凋落は可成り久しいもので、現在の議會に於ても小數の議員を送つて、その實勢力は微々たるものに過ぎないのである。然るに、最近自由黨の甦生が黨員の間に喧しく叫ばれて、一九三五年の總選擧後には、新たに黨内に改造委員會を設けて黨綱領の新制定を計ることゝなつた。

斯くて、一九三六年六月十八日から二十日にかけて、ロンドンのキングスウエー・ホールに於てこの委員會の計畫した黨改造案と新綱領を決定する自由黨大會が開かれたが、各地方代表者一八〇〇名の參加を得たといふ近年に見ない大集會の盛況であつた。

この時、シンクレア卿は次のやうな趣旨の自由黨新綱領精神を述べてゐる。

「ファッシズムは、自由と自自由主義の第一の敵である。しかし自由の敵はこれだけではない。さらに大きな勢力を持つ勞働黨がゐる。彼等が愼み深く社會改良策を持出してゐる程度であるの

ならば、やはり自由黨の方向に進むでゐるのであるが、ひとたび彼等が埒を越えて私有財産の攻擊をはじめ、生產手段の國有を唱へるにいたつては、將に民主精神を蔑ろにした點に於て、自由の敵である。自由黨は政府が產業の統制や制限をすることを排擊する。食糧品等に不當の課稅することに反對する。自由主義の理想は國家權力を濫用しないで、個人のイニシアチヴを發動せしめるにある。從つて、自由主義の目的は市民の「所有」と「非所有」の一線を一掃して、自由財產、安全の三位一體を確保することにある。又、自由黨は對外政策としては自由貿易を主張すべきである。云云」

しかし、自由黨の主張であり最後的氣焰である「ファッシズムは戰爭の原因であり、自由は社會的正義への手段である」といふ新綱領精神も、果して、今日の非常時意識結成のファショ陣營に楯突くだけの實踐が出來るかどうか、それは甚だ疑問をいふよりは、寧ろ不可能ではないかと思はれる程度である。

英國の傳統自由主義の孤壘は、しかし根强い自由の叫びを胸に叫び續けてゐることであらう。

人民戰線の擡頭 ヨーロッパ大陸では人民戰線の運動が盛んに行はれてゐるが、今イギリスで

もファッショ戰線に反對する人民戰線の結成が問題となならうとしてゐる。

それは炭業、紡績業勞働者の賃銀引下、待遇惡化、失業者增加等の對策のために、獨立勞働黨とイギリス共產黨との提携が成つて、最近では右翼化したと見られてゐた勞働黨或は自由黨までを加へた廣汎な人民戰線陣營を强化して、ファッシズム傀儡の保守黨政權に對抗しやうとしつゝある。

しかし、デモクラシーの祖國イギリスでは、フランスやスペインのやうに簡單には人民戰線强化を成し遂げられない事情が幾多もあるが、その困難な理窟を踏み越えて、お互ひが結びつかうと努力してゐるところに、今後のイギリス政界の波亂が重疊されてあるのだ。

まづ第一に勞働黨と自由黨の提携の問題を檢討してみるに、一九三六年八月三日、自由黨の夏季學校で行はれた討論の贊否兩樣の意見は相當傾聽に價ひすると思ふ。黨員カニングスは勞働黨との短期提携を說き、G・D・Hコールは社會改革、平和並びに人民の自由のために反ファッショ十字軍を起すべしと主張したが、一方、ラスキン・カレッヂのバラッド・ブラウン敎授は、勞働黨がはたして人民の自由を要求してゐるかどうかは甚だ疑はしいといつて反對し、又、比例代表

制を取りあげる選擧改正がこの問題の前提條件であるといふ者も出たり、衆議はまちまちで遂に當分靜觀主義をもつてこの問題の決定を先に伸ばさうといふところに落着いた。

第二の勞働黨と共產黨との提携については、勞働黨幹部の多くは反對意見を表明してゐる。

「人民戰線結成のための共產黨との提携のそれは、その根幹たる民主々義の原則の上に立たねばならぬ。云々」

勞働黨を代表して一九三六年度の勞働組合年次大會に列席したアトリーは、このやうな意味のことをいつて暗に反對し、全國鑄型聯合のA・H・フインドレーも、すべて獨裁は不可であるといつて、ファッショ獨裁政治やプロレタリア獨裁政治にも反對意見を述べた。

斯うした幾多の反對と難艱を打破して、ファッショ政權に對抗すべく、各黨派の急進分子は、今や愈々人民戰線運動に暗躍してゐる。

猶、上院では平和論者として有名なロバート・セシル卿が、平和の爲めの人民戰線結成に盡力してゐるが、英國政府の今後の動向こそ面白いものがあるであらう。

勞働黨は沈默するか　曾ては勞働黨內閣を組織して隆々たるイギリス政界の立役者であつた勞

働黨も、黨内の分裂から漸く勢力を削がれ、更にボールドウイン保守黨政權の樹立以來は、昔日の勢望は衰へたとはいへ、下院には一五五名の議員を送つてゐる野黨隨一の勢力黨である。

エディンバラで開催された一九三六年度のイギリス勞働大會に於ては、前に記したやうな勞働組合大會で問題にされた共產黨との合流その他多くの重要課題が論議されたが、その中でも軍備擴充の問題は、果然その意見が二分して花々しい論戰が展開された。

「國際的な勞働運動にとつて、脅威を與へる獨伊ファッシズムに對抗するために、國務を充實すべし云々」

勞働組合のベウイン、ダルスト等は、このやうな意見のもとに、軍備擴充に贊意を表し、モリスン一派は、そのことが勞働黨の平和主義と矛盾するといつて、猛烈に反對した。

要するに、その論戰の揚句、現實的に考へてみて、今日の國際政治關係の危機に際しては、まつたく國防を充實せねばならない必要は認められるが、軍擴の負擔加量の責任は嫌だ。それに、現在のファッショ的色彩の濃厚になりつゝある保守黨政府に、その武力を委せておくことは反對であるといふやうな意味の、解決したやうな爲ないやうな委員會の決議が、多數決をもつて採擇

された。

これは甚だしく低調な現在の勞働黨の姿を語るに相應しい例であるが、しかし、元來がプロレタリアの味方である勞働黨が、いつまでも沈默を守り拱手し續けるであらうか？

若し、茲に少しく穿つた見解をするならば、イギリスに於けるファッシスト運動の進展に連れて當然對蹠的立場にある勞働黨が、今度、スペイン不干涉反對を主張する國際勞働組合聯盟（勞働黨系）にひきづられて、更に又次期總選擧に勝利を得やうとする希望からしても、結局は平和と自由の生活の安全を求める、大衆の自發的な人民戰線運動に參加するばかりでなく、頽勢挽回に立上らうとする自由黨を誘つて、大々的なイギリス人民戰線結成に乘り出すのではないだらうか？

將來、英國政界のファッショ戰線と、人民戰線の政權爭覇の對立こそは刮目して觀るべき好題目である。

大英國の矛盾外交

大陸牽制二重政策　イギリスのヨーロッパ大陸に對する政策の傳統的方針は、イギリス帝國の領土的安全と、國際聯盟を裏書するヴエルサイユ條約體制の維持とであると云つてよい。大陸諸國の勢力の弱い均衡は、イングランド島帝國の安全を保證するものであるから、特に一ケ國が軍備國力の優越把持しないやうに、イギリス外務當局は幾つもの一見矛盾してゐる外交政策を行ふのである。

例へば、ドイツについては、その再軍備が著るしく擴大してロンドンを危くすることを抑へるために、一九三五年の春、西歐防空協定を作つて、フランス、イタリーの大空軍をしてドイツに對抗させるやうに爲向けた。海軍では對英三割五分の比率をもつて、ドイツに專らバルチツク海の制覇を寛大にしたのは、ドイツ海軍が主として吃水の淺い小型軍艦から成つてゐて、淺瀬で入江の多いバルチツク海戰略上有利であつても、イギリス海軍に執つては左程の脅威を與へないからだ。又、ドイツ海軍の增大は、大陸軍國であるフランス、ソヴエート・ロシア聯邦との勢力均

衡を計るために必要であるし、その軍備はイギリス重工業資本を潤す點で大きな惠澤があるといつた風に、總て妥算的な二重三重政策を執つてゐる。

一方に於ては、民主主義國のフランスと結び、その影でドイツの財政難を扶けて、イギリス銀行の資金を屢々ドイツに貸しては、再軍備擴充の應援してゐるといふ狡猾な外交は、善意に解釋すれば平和を希ふイギリスの自由主義精神から發したところのものがあらうか？

地中海の軍事同盟　一昨年來世界の耳目を聳動させたイタリーとエチオピアの軋轢も、現在はイ・エ戰爭の終結によつて、强いもの勝といつたやうな形に無理矢理解決して了つたが、國際聯盟の支持を得てイギリスが極力イタリーの暴擧を押へつけやうとした肚の底は、イタリーが地中海、バルカンに支配權を確立することは、アフリカ、インドに於ける自國植民地の利益を脅かされる點で困るので、イ・エ兩國を妥協させて、未開拓の豐富な資源のある東アフリカに於けるイタリーの勢力擴大を防がうとしたのに他ならないのである。

イギリスはそれがために、當時つねに强硬政策に驅りたてられて、聯盟の對伊經濟斷交制裁を持ち出した次第であつたが、鐵血宰相ムツソリーニは「石油斷行は戰爭を挑發する行爲である」

といつて大見得を切つたので、イギリスは、聯盟支持の强國フランスと次のやうな軍事協定を結んだ。

一、英艦隊は佛國の海軍根據地、船渠、修繕工場を利用することを得、但し、佛國艦隊は動員には議會の協贊を要するから自動的に共同作戰には應じない。

二、同樣の理由から陸軍も閣議の決定により可能なる範圍で動員準備を行ふ。

三、敵國空軍が佛國上空を通過せんとする場合、佛國空軍は英國航空省の爲めに諜報任務に就く。

一九三六年一月十三日のデーリー・テレグラフ紙は、この軍事協定の內容大略についてこのやうに報導してゐるが、イタリーからの攻擊に對して備へるためには、英佛兩國間にもつと緊密な軍事協定がなされたかも知れない。そして、イギリスはフランスの他に、スペイン、ギリシャ、ユーゴースラヴィアトルコ等に對しても、イギリスの地中海艦隊に對する援助を要求して、各國それぞれ聯盟規約六條による援助を回答したが、地中海に八〇隻からの艦隊を派遣して、何時イタリーと衝突をしかねまじい有樣であつたイギリスとして、當然成さらねばならなかつた常套的

防禦手段であつたであらう。

然し、一千萬ポンドの對伊貿易を、この制裁によつて失ふことを恐れたイギリスは既にフランス海軍と提携して西部地中海の安全は維持することは出來たが、一九三六年十二月には、再び地中海協定をめぐる交渉が、英伊間に開かれたことである。

極東市場爭覇の暗躍　早くから東洋の支那市場に進出してゐたイギリスは、一時は極東市場獨占の王者の如き感があつたが最近に於ける日本アメリカ、ドイツ等の經濟的な對支貿易の進出によつて、聊か昔日の地盤は弱められて來たやうではあるが、然し、南支に於ける英國勢力の確立擴大と、銀政策による國民政府との密接な對支借款資本關係の結合は、日本の對支經濟關係に可成りの打擊を與へつゝある。更に、イギリスは、支那の全面的な抗日氣勢に乘じて、支那市場を兩分しつゝある形勢の日英の紡績輸出を、自國に有利に導かうとするは勿論、その他の經濟的對立に於ても暗躍を續けるに違ひはない。

而も、イギリスの新らしい敵手は、進出目さましいドル資本のアメリカであらう。曩に國民政府が英斷した新幣制改革に際して、一千萬弗の對支借款を成立したアメリカに對して、表面はそ

の斡旋の勞を執つたかに見えるイギリスが、果して如何なる對支政策の對抗法を講ずるかは、一九三七年以後の宿題の一つである。

海軍の防備政策　一九三四年來のロンドンの第二次海軍會議が決裂して、世界列强國は既に建艦競爭をはじめた。イギリスは自ら太平洋沿岸の軍港の防備擴張を强化して、艦隊を量的にも質的にも改善して實力の再整備に全力をそゝいでゐる。それは、ワシントン條約を廢棄した日本が西太平洋に於ける海軍の覇權を稱へてゐるのに對する牽制は勿論、アメリカ海軍の擴大にも備へる構へである。卽ちアメリカ海軍力の充實に據つては、日本の海軍との勢力均衡といふ建艦擴張を利用する防備政策をイギリスが執つてゐると見てもいゝであらう。

地中海に於ても、ドイツ、フランス、イタリーの各海軍の軍備擴張は、着々と進められて、各國の海軍勢力は略均等になつて行くことであらうから、イギリスの太平洋、大西洋、地中海へ振り向ける海軍力も、大體に於て各國勢力均衡といふ安全瓣(?)の點で、一先づ意を安んじていゝとせねばなるまい。

斯うしたイギリスの防備政策が、好いか惡いか、將又如何なる結果を齎らすであらうかといふ

ことは、神のみが知るところであらう。

しかし、この列國の建艦競爭及びイギリスの海軍軍備擴張によつて、利益を獲るものは、ブルジョア造船重工業者とその背景に動く金融資本家であらうことは確かだ。

英國經濟の原動力

景氣回復の不思議　經濟學者の說に據ると景氣變動は周期的な長期波動を繰返すものであるといはれてゐる。一口に言へば好況と沈滯との反覆運動にすぎないので、總ての物の價格が上昇して國內及び國際間に於ける商取引が活潑になつた時が好況期で、反對にそれらが下降狀態に陷入つた時が沈滯期であるが、從つて詳しく分ければその中間狀態の時も幾つかの小波動を繰返すわけである。

世界大戰當時一九二〇年頃までの好況期は、景氣變動の原則に洩れずその後の世界恐慌を呼び起し、比較的經濟的に優位な國であつたイギリスも、戰後債務國の支拂困難と、斯のやうな金融恐慌に當面して、遂に本格的な恐慌の洗禮を受けなければならなかつた。そして世界經濟金融市

場はロンドンからアメリカのニューヨークへ移つて行つたと一般に言はれてゐるが、しかも猶今日、最高度に發達し老熟した資本主義國として、イギリスは依然世界に君臨してゐる。まつたく世界の經濟も政治もすべてロンドンに集るといつても過言ではなからう。

最近の世界經濟の回復は第一に多く人爲的方策に基いてゐる。尠くともそれが關稅、爲替低落貿易及び爲替管理等の國民主義的景氣政策に負ふことが大きいが、イギリスでも全自治植民地の對日關稅吊上げ、オツタワ協定、金本位放棄、ポンド貨の切下げ等を行つて、漸く回復しつゝあるのである。

重工業の財界君臨　イギリスの重要産業である石炭業及び紡績業の回復狀態は甚だ緩漫であるが、機械並に電機機械生産部門は、恐慌に入るのが可成り遲れて居つたし、一九三二年が最低點であつたが、一九三四年に入つてからは著るしい回復を示めして來た。

この原因は、自由貿易政策を棄てゝ、輸入稅法の制定など保護主義を執つたこと、イギリスは弱小諸國から多量の食糧品原料を購入してゐる。この地位を利用して割當制度を採用し諸國へ押しつけた。これは北歐諸國、バルカン諸國その他がイギリス・ポンドへの從屬と見做してよく、

イギリスが自治領植民地以外に廣汎なスターリング・ブロックの結成の目的を達したわけであるオツタワ協定によつて全自治領を英帝國に結付け直すとともに、農産物關稅の引上げと物價騰貴を促進したこと、一九三一年秋の金本位放棄以後、巧みに本位貨の安定を行つて、世界の三分の一の人口を占める地域をスターリング・ブロックで固めたことなどである。

しかし、イギリス經濟の眞の回復は、炭業紡績業、その他に據るものではなく、重工業の異常な活潑さに原因すると見るのが至當であらうと思ふ。

次に、銑鐵及び鋼鐵の生産噸數を記してみやう。

	銑鐵	鋼鐵
一九二九年	六三	八〇
一九三〇年	三一	四三
一九三一年	三一	四三
一九三二年	二九	四三

（以上、各年度の月生産平均。單位、萬噸）

一九三三年三月　三三　五七

一九三三年十月	三七	六六	
一九三三年十二月	四〇	六六	
一九三四年三月	五〇	八三	
一九三五年五月	五六	八六	
一九三六年一月	五九	九一	
一九三六年三月	六三	九八	
一九三六年七月	六六	九七	

鋼鐵生產が一時に增えてゐるのは、軍器、造船、自動車等の重工業の需要を示めすもので、軍擴建艦競爭は更に今後のイギリス重工業の活況に拍車をかけるであらう。

世界最大の軍需工場 歐洲大戰は戰術に一つの革命を齎したことは事實ではあるが、それは戰場が海陸の平面から空間といふ立體に擴張されたにすぎないので、次に來るべき戰爭は化學戰爭だといはれてはゐるが、兵器の中心をなすものは矢張り、銃砲、軍艦、飛行機、戰車などである。この意味で軍需景氣の中軸がこれ等の軍需機械工業の活躍に據つてゐると見るべきであらう。

イギリスの兵器會社ヴイツカース・アームストロングは、世界第一の軍需品を製造販賣する會

社であるが、そのお蔭でイギリスは歐洲大戰に參加して莫大な國帑を費しながら痩せ衰えもせず現在、第二の軍擴競爭の潮流に乘つて大儲けを企んでゐるのである。

イギリス經濟界の原動力は、卽ち軍需重工業の活動といふことになれば、その根源の軍需機械工業會社が如何なる事業網を擴げてゐるかといふことを覗いてみるのも無駄ではなからう。

ヴイツカース・アームストロング會社の最近の公稱資本金は六千三百萬ポンド、拂込資本金二千六十七萬ポンドとなつてゐるが、始めから世界の軍需工業の王者として覇を稱へてゐたものではなく、一九世紀の初頭に若きエンヂュアであつたトーマス・E・ヴイツカースが創設した一機械製作會社にすぎなかつた。それは汽身の車輪とか鑄鋼、圓筒のやうな平凡な機械類を製作してゐたものであつたが、一八六〇年頃から武器の製造に着手し始め、歐洲各國の軍擴熱に乘じて肥え太つて行き、怪物ザハロフと呼ばれる販賣人の出現とゝもにヴイツカースは、積極的にその事業を擴大し、先づウオルスレー發動機會社を買收し、更に電機兵器附屬品製作會社、グラスゴーのペアードモーア造船所をも併合、イタリーのテルニー會社の實權を握り、英國海軍のためになくてはならない軍需工場となつた。そして、日露戰爭でも相當な儲けをしたが、何といつても歐洲

大戰の空前絶後の大儲けは驚嘆すべきものがあらう。ヴイツカースは戰時中一千萬ポンドから一躍一千三百五十萬ポンドに增資してゐる。その軍需契約高は多くの子會社を除いても數億ポンドに上りその製作高は、マキシム機關銃十萬挺、戰艦四隻、裝甲巡洋艦三隻、潛水艦五十三隻合計二十一萬噸の他二千四百門の大砲と五千臺の飛行機を造つたといはれてゐる。

一九二七年には商賣敵のアームストロング會社と合同して、現在のヴイツカース・アームストロング會社となつたのである。

ヴイツカース・アームストロング・コンツエルンといふ名があるやうに、この會社の資本は全世界に蜘蛛の巢をはつたやうに伸ばされてゐる。その重なるものゝイギリス鋼鐵會社は鋼鐵の生產と船舶の建造を中心事業として、その下にメトロポリタンキヤンメル車輛會社、キヤンメルレヤート會社の二會社を隸屬せしめてゐる他、同コンツエルンには金融資本の潤澤をはかるための三つの證券會社がある。海外に分布してゐる資本の主なるものでは、米國及びカナダではヴイツカース燃燒機會社の名の下に多くの關係事業を統制し、ニユージランド、オランダにも直屬工場有し、ポーランドにはシユナイダーと共にポーランド武器製造會社を組織し、ルーマニアでは最

大產工業の一つであるレシツアを、スペインではボンセラルダ鑛山を、イタリーではテルニー會社を支配下に置いて、莫大な利潤を掻き蒐めてゐるのである。

日本でも三井財閥と北海道の日本製銀所には、このヴイツカース資本が注入されてゐるといふから恐ろしい。

死の商人ザハロフ　餘り堅くるしい記述ばかりで、讀者諸君も退屈されることであらうから、イギリス軍需工業發展の影に躍る妖怪のことを島渡書いてみやう。

妖怪といつても三つ目入道でも何でもない。立派な文明人であるが、一たび彼が足跡を印したところには、瞬ち地獄の旋風が捲き起り、血と叫喚と山なす屍骸が築きあげられずにはゐないといふので、「妖怪」とも「死の商人」とも呼ばれるバジール・ザハロフの名は、世界の裏面史に赫々たる盛名(?)を馳せて永久に忘れ去られることは無いであらう。

一八四九年トルコ領小アジアの一ギリシヤ人の家庭に呱々の聲をあげたのが、バジール・ザハロフであつた。バジールは成長するに連れて商才と發揮して、コンスタンチノープルで兩替屋や名所案內等をやつてゐたが、容易にうだつがあがらず、遂に青雲の志を立てゝ叔父の金を幾許

か拐帶して英京ロンドンへ飛び出して行つた。けれども風俗習慣の異ふ他國で簡單に成功出來るわけもなく、故國のアテネに歸つてあくせくしてゐる裡に、ふとしたことからギリシヤの首相エチエンス・スクルヂスの知遇を得て、その斡旋でスエーデンの軍需會社ノルデンフエルトのアテネ代理店主任になることが出來た。

時に、トルコの暴壓から脫した直後のバルカン諸國は、熱狂的な軍備擴張熱に憑かれてゐたゝめ、ザハロフに執つては絕好の市場が開けてゐたわけで、武器賣込みの外交手腕を發揮した彼は忽て間もなく國際的な武器商人としてその名が顯はれるやうになつた。

ノルデンフエルトが發明した武器の中でも潛水艦はその頃としては珍しい新鋭武器であつたがザハロフはこれをギリシヤ政府に賣り込んだ。それを知つた仲の惡いトルコ政府は驚いた。海中を潛る危險な艦がいつ何時ダーダネルス海峽を渡つてほかりとトルコの首都コンスタンチノープルに姿を現はすかも知れないと狼狽した。しかし、武器商人は偏狹な國家主義者ではなかつたからザハロフにしてみれば祖國の宿敵であることもけろりとして、二隻もの潛水艦をトルコ政府に販賣契約したのであつた。この商賣の辛辣なやり方は、その後のザハロフの販賣人としてのコツ

を示唆したことであらうと思はれる。

歩器發明家ノルデンフエルトの各種の武器は久しく歐洲各國に迎へられてゐたが、ハイラム・マキシムの發明したマキシム機關銃の出現は可成りの脅威を與へずにはおかなかつた。そこで兩社の合併が策され、ノルデンフエルト・マキシム會社が生れたが、兎角兩者の間が巧く折合はずノルデンフエルトは一九八〇年にマキシムと袂を分つてパリーへ出て別會社を設立した。この時ザハロフはマキシム側へ附いたゝめ、マキシム社は一八九七年にヴイツカース會社と合同して以來は、愈々その辣腕をふるつて、世界中を跨にかけた國際的武器商人として活躍舞臺に躍り出して行つたのである。

十九世紀の終末は新進國勃興の氣運が動き、戰爭は至るところで闘はれた。スペイン對アメリカ、トルコ對ギリシヤ、支那對日本の戰爭と絕え間なき戰火があがつた。世界隨一の武器會社の販賣人(セールスマン)になつたザハロフは、祕かに交戰兩國間を巧みに泳ぎ廻つて、その貪婪な觸手を伸ばして吸血鬼のやうに會社とゝもに、自己の懐も肥え太らせて行つたのである。

續いて、二十世紀に入つては日露戰爭に暗躍し、史上未曾有の歐洲大戰に際しては千變萬化の

武器賣込みの祕術を盡して、その恐るべき呪ひの商賣に東奔西走したのであつた。

ザハロフはギリシヤに國籍を有してゐるが、イギリスの準男爵でフランスのレヂオン・ドノール勳爵士の榮爵位を授けられ、その他世界各國の功勞勳章などを數多く贈られ、その政治的勢力は或時期に於けるイギリス政府を左右したとも、又フランス、ギリシヤ、その他の國家の黑幕となつて、その政策を動搖に與へるほどであるともいはれる。

幾百萬人の死を横眼で睨めながら巨富を築きあげた「死の商人」ザハロフは、今や九十歳の高齡に達して、南歐モンテ・カルロに隱棲してゐるが、今亦、彼が功績を盡したヴイツカース・アームストロング軍需會社は、第二の世界軍擴競爭に活況を呈してゐるのである。

軍擴の跋行的景氣　イギリスの景氣は確かに上向の一路を辿りつゝある。一九三四來以來戰爭の危險は地球上のあらゆる國境で增大した。それとゝもにイギリスのみならず世界中の武器製造會社が、數へきれぬほどの利益をあげてゐる。次にイギリスの軍需工業の莫大な利益を掲げて見やう。

會社名	一九三一年	一九三五年
ヴイツカース	五四七	九二八
ハツドフイールド	二〇	一五六
ロールス・ロイス（航空）	一四四	二九一
ブリストル航空機	一三六	二一七
ホーカーズ飛行機	一四六	一九五
スワン・ハンター	缺損	一九一

（數字單位千ポンド）

これ等の軍需品製造は單にイギリスの每年膨脹の傾向を辿つてゐるところの軍事豫算のみに據つたものでないことはいふまでもないことで、全ヨーロツパ、アフリカ、極東、南米等に於ける軍擴の結果が大ひに預かつて關與してゐるのである。

このやうに外國に於ける軍擴は、直ちにイギリスの關係各會社の利益となるし、且つ又、各國に分布せられてゐる姉妹會社の活況を呼ぶことにもなるのである。

イギリス經濟界の回復は、要約すれば軍擴の跋行的好景氣と言へるのである。

革命の共和政體

右翼と左翼の政權爭奪　フランス國民は過去幾度かの革命の血を浴びて、暴虐な王權政治の壓制からのがれて現在の共和政體を樹立した誇高い歴史を持つてゐる。

この民主々義精神の骨の髓まで滲み込んでゐるやうに見えるフランスにも、世界を風靡する左右兩翼の思想の軋轢は怒濤のやうに國内政黨を兩分して、玆數年來は各々政權爭奪に火華を散らして鬪つてゐる。

一九三〇年前後は赤色ソヴエート・ロシヤの共産主義を排撃して、反ソ十字軍の參謀本部の感があつたフランスも、ドイツの再軍備の脅威は受け、ナチスの獨裁ヒットラーの爆彈的武者振ひに反撥して、小協商國を率ゐて親ソ政策に轉向して行つた。それは不侵略條約の締結から國内右翼政權は漸次後退の止むなきに至つて、政局は左翼急進黨の掌中に握られる傾向になつたのである。

然し、一九三四年二月ヅーメルグ内閣の出現に據つて、再び政權は右翼の手に移り、暴力彈壓

のファッシスト的强襲のもとに勞働組合を解散し、賃銀値下げを强行しやうとしたが、勞働者側の集團的反擊にあつて意を達せず挫折した。

この猛烈な右翼政府でさへも、絶對的に佛ソ相互條約を結ばねばならなかつた理由は、宿怨の敵である隣邦ドイツの再軍備を恐れたからであつた。それがために一旦は止むなく押へつけられた左翼黨の勢力はめき〳〵と盛返して來た。續いて政權を獲得したラヴアル内閣は、半ファッシスト的中間黨であつた。一九三五年上期は經濟的危機に直面し金本位維持の唯一の實力國としてフラシスはフラン貨の極度の動搖を必死になつて防止せねばならなかつた。このフラン貨擁護の使命を背負つて成つたラヴアル内閣は、恰も傾きかけた老朽船の舵を握つて難航をつゞけるやうな内外共に多事多難な惡戰苦鬪を續けなければならなかつたのである。

ラヴアル内閣の倒壞　一體ラヴアル内閣は最初から左翼には人氣がなかつた。半ファッシスト内閣と呼ばれたほどの財政獨裁の行使が、左翼方面から酷く攻擊をされたり、屢々暴力行爲を逞しくするファッショ右翼團體の武裝解除さへ、おつかなびつくで二の足を踏む有樣なので、ラヴアル内閣を支持する急進社會黨内でもラヴアル不信任の聲をあげるものが少なくなかつた。

斯くして一九三五年夏以來、急進社會黨の左翼が社會黨、コムミュニストに接近するに從つてラヴアル內閣の礎石は二つに割れ始めてゐたが、そこへ例の伊・エ紛爭處理策として考案されたイギリスのボーア外相との英佛和協案――パリ試案が一大暗礁となつて、ラヴアル內閣の運命はきわまつて了つたのである。

パリ試案なるものは、國際聯盟を背負つて立つところのイギリスとフランスが、イタリーの我無遮羅な腕力沙汰をなだめやうとかゝつた微溫的なもので、苛つけられたエチオピヤに對するよも、寧ろイタリー側に肩を持つたやうな內容のものであつたので、俄然非難の的になつたのである。

「それはイタリーにではなく、聯盟にブレーキをかけたものである」

「侵略者の辯護をフランスの新聞に命じたラヴアル――」

このやうな辛辣な非難が既に、急進黨下院議院代表デルボによつて放たれてゐたが、遂に一九三六年一月二十二日、組閣成立以來七ケ月半のを生命もつて倒れて了つた。

次ぎに代つて登場したのは、急進黨きつての長老格アルベール・サローである。この內閣は急

進黨左翼が中心になつてゐるため、玆に久しぶりに左翼政權が出現したわけであつた。

左翼人民派の勝利　急進黨上院議員アルベール・サローが飛び出して左翼的色彩の強い內閣を組織したが、その顏觸れは親英主義のフランダンを外相に、急進黨のデルボを司法大臣に、ラヴアルにフアツシズム彈壓を强要して下院で大見得を切つたゲルニュが文相に、反ラヴアルの若い經濟學者デアーが航空相に、無任所大臣には聯盟支持派の代表者の觀のあつたポール・ボンクールを据え、たゞフラン貨維持を强調するレニエ藏相がそのまゝ止まつた點を除いては、まつたく反ラヴアル色彩が濃厚で、從つて右翼的な前者と代つて、殆んど左翼政權の樹立とみて差支えないのである。

そして、一九三六年四月二十六日、五月三日に行はれた第一次及び第二次フランス總選擧の結果も亦、左翼人民戰線派の勝利に期したのであつた。

その總選擧の結果を數字對比として羅列してみれば次のやうになる。